

vol. 19

南国暮らしの会

特定非営利活動法人

2003年 会報 新年号



平成15年1月25日



NPO法人 南国暮らしの会

表 紙

目 次		1
理事長新年挨拶	理事長 池田 徳三郎	2
南国暮らしの会の発展&会報充実の為 (アンケートご回答のお願い)		3
「西オーストラリア・パース視察旅行のご案内」		4
「フィリピン特集」		
フィリピンでボランティア		
①ダピタン会と私	No. 101 高澤 弘晃	5~7
②マニラストリートチルドレンの教育支援活動について	No. 149 梶野 幸三	8~11
③NPO日本フィリピンボランティア協会の活動紹介	No. 341 平野 雅一	12~13
お気に入りレストランとメニュー (フィリピン編)	No. 38 橋本比奈子(ダバオ) / No. 61 塩見祥昭・No. 204 渡辺克美(マニラ) / No. 27 鈴木 博(セブ)	14~17
フィリピンの所得税法	No. 291 福田 修	18~23
ダバオ変人便り(3)~フィリピンから見た日本~	No. 341 平野 雅一	24~29
八丈島への移住	No. 114 井上 泰裕	30~32
青森県津軽半島からの便り	No. 404 大宅 清繁	33~34
English for golf (ゴルフで使う英語)	No. 315 鈴木 剛	35~37
東南アジア諸国見聞録 (その3 ラオス)	No. 40 平澤 信	38~46
ゴールドコーストでの日本語教師体験	No. 433 乾谷 春美	47~49
タイ古式マッサージ修行	No. 350 宮 博	50~52
トラベラーズMALTAアイランド (最終回)	No. 128 稲廷 裕	53~59
南国ならぬ病院にロングステイして	No. 24 酒匂 景輝	60~67
マレーシアでのコンサート情報	No. 263 加藤 進	68
南の会・伝言・掲示板		69
支部・部会伝達板		70~73

新年のご挨拶

2003年 元旦

会員の皆様

理事長 池田 徳三郎



初春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

21世紀初頭は情報と自然環境保護の世紀とも言われております。当会も正しいフレッシュな海外情報の収集は欠かせませんが、**会員相互の楽しい親睦とその輪を広げ、健康な会員と健全な会の存続**が引き続き求められます。

1. NPO法人設立後、3年2ヶ月を経過し、会の**組織**(理事会・理事の業務分担・委員会・支部等)とその**運営**がほぼ整備されてきました。

その運営は健全で自己責任を持つ会員が定款に定める共有の目的を達成するために会員相互が自由活潑な意見を交換する場で行い、その会員の声を、意見を集約し、総会・理事会・委員会等で調整し、その結果は全会員で協力して頂く方法で運営されてきました。

2. 定款の目的は全会員で推進しております。

① 当会は**南の国で生活する方々**のために役立たつことを目指し、**南の国に居住する推進活動**も南の国に関する**講演・講習・研究研修報告・資料情報の交換**等も関係者のご尽力により「会報、メール、情報交換会、サロンの会、支部活動」を通じ推進し、皆様から好評を得ております。

② **体験滞在**も海外支部長・会員のご協力により、相互の信頼関係により個人また複数で南国滞在を楽しんでおります。しかし**旅行会**は計画しておりますが、参加者が少なく、中止することもありました。多くのご参加を期待いたします。

③ **南の国に関する情報**は関係者のご尽力で、稀有の多くの情報を収集し、保管し、その一部を新聞・雑誌等に広く開示し、広報活動を兼ねておこなうシステムもほぼ確立しました。

3. 今後の課題、

健康管理(高齢者等の療養・介護・病院等)に関する情報並びに南の国の**風俗・慣習・国民性・生活環境**等に関する情報の収集、調査は大変難しい課題でありますので、部分的情報の収

集、報告に止まっています。今後会員の英知を集め、さらなる充実と推進のために具体策が望まれます。

そして、会員の趣味、知識・技能を最大に生かした**海外ボランティア活動・国際親善活動**に関する具体的方法を模索することは会員の新しい**生きがい**の一助ともなり、大切でしょう。

4. 継続事項

① 会員相互の親睦並びに各支部との懇親を深め、会報、メール、情報交換会、サロン会等の情報交換、情報共有の充実を継続していきましょう。

国内で東海支部が活潑な活動を始動し、海外では会員の間で人気のバンコク・チェンマイ支部が設立後に多くの情報を提供しております。また、海外会員・滞在者の貴重な情報記事により会報がより充実し、その貢献は頗る大であります。

② 会員の1人でも多く、1度でも多く、南国の体験が出来るよう、(a)情報提供の場の有効利用 (b)会員相互の信頼と人間関係を大切に (c)お世話下さる方に対する依頼者のマナーを大切にしていける慣行を継続していきましょう。

③ 海外におけるテロや犯罪の多い地域に近づく旅行・滞在は会員相互で注意を喚起しましょう。

④ 各委員会のご尽力により、入会案内書(2分冊)・紹介パンフレットも修正し、内規に関する必携も充実されましたが、これらを全会員が効果的に是非ご利用くださいますようお願いいたします。

⑤ 理事も支部長もその他役員も会員の皆様と同様に会の目的を遂行するために無報酬、手弁当で活動しております。会の仲間として理解ある一会員として接して頂くようお願いいたします。

本年も会員の皆様のご自身の生きがい、夢の実現に一步近かずに素晴らしい年となりますよう期待し、新年の挨拶に代えさせていただきます。

南国暮らしの会の発展&会報充実の為

南国暮らしの会の会員数も400名になろうという活発な動きです
さらに会員の海外ロングステイの活動も以前よりまして多くなっております。
ここでさらに会員皆様にストレートな意見をお聞きし会の更なる発展と共に
会報の充実、向上をはかる為、11月の定例理事会にてアンケート調査をする
事を決定し、実行する事になりました。

本会報に添付のアンケート用紙三枚に御回答をよろしくお願
い
致します。

返送締切日 平成15年2月28日(金)

返送方法 会報と同封しております返送用封筒をご使用ください。(他でも可)

宛 先 〒157-0073東京都世田谷区砧3-5-12 市東明義

尚このアンケートは、集計しできるだけ早く会報にてご報告申し上げます。

アンケート結果は、今後ますます充実した**南国暮らしの会**とすべく参考資料とさせて
頂きます。

平成15年1月25日

南国暮らしの会
意識調査委員会

理事長 池田徳三郎
担当理事 川上雅久
山田宏秀

市東明義
鈴木 剛

南国暮らしの会オリジナル

「パース・ロングステイ視察旅行」のご案内

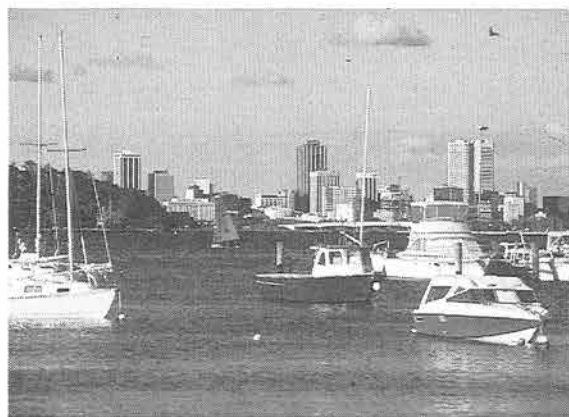
担当理事：足立 洋太郎／鈴木 剛

「南の会」では、平成11年フィリピン、12年マレーシア、13年タイにつづき、本年度は西オーストラリアのパースにスポットを当て、視察旅行を企画いたしました。

インド洋に面した美しい街・パースは、緑豊かな自然と都市の快適性が見事に共存しており、「世界で一番住んでみたい街」、「世界で一番美しい街」と言われ、世界中の人々から憧れの地として人気を博しています。生活面では、年間を通して気候が良いこと、治安が良く滞在中の安全性が高いこと、物価が安く滞在費用が安くつくこと、などが特長です。



キングスパークから見たパースの街



マリンスポーツが盛んな街

今回の視察旅行では、キッチン付きの高級コンドミニアムに宿泊していただき、実際にスーパーや日本食材店などで買い物したり、一戸建て、コンドミニアム、アパートメントホテルなどの住宅事情や日本語医療センターなどの医療施設を実際に視察したり、パース在住の日本人ロングステイヤーとの懇談会など、多方面からパースを体験していただくことを主眼にしております。勿論、半日観光や各種オプションツアーもご用意しています。

なお、当旅行の渡航手配および現地案内はすべて、パース専門旅行社として永年の経験と実績のある(株)パノラマインターナショナルにお願いしました。また、今回のツアーにはパースを数え切れないくらい訪問し現地事情に明るい同社の添乗員が日本から同行するほか、同社パース支店の全面的サポートなど万全の態勢をとっています。

短期間に、効率よく、安価に、パースの生活面を体験していただくにはベストの企画だと自負しております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。



ゴルフが手軽に楽しめる街

なお、当旅行のお申し込み・お問い合わせ等の詳細は別添の「案内パンフレット」をご覧ください。

ダピタン会と私

東京都在住 会員 No. 101 高澤 弘晃

サラリーマンがある年齢になると、また定年近くなるとこれからの自分の生き方をどうすればいいのか、という疑問に誰しも突き当たります、私も45歳を過ぎる頃から真剣に考え始めた次第です。

私は自分の将来も大事だが何か人のために役立つことをしたい、そしてそこに自分の満足感を持ちたい、そんなことができないかと何時も考えていた次第です。私みたいな、いいかげんな男が、一度もボランティアなんてやったことがないそんな男が他人ためになんて出来るのだろうか、ただ他人のために働くことなんて馬鹿らしくてできないのではと思っていた次第です。幸い数年前から「南国暮らしの会」のお手伝いをさせて頂いていたのですが、しかし会の目的は主に自分のことを考える会です。自分がより良い暮らしが出来ないだろうか、自分に満足した生活が出来ないだろうか为中心です。勿論これも重要です。自分なくして他人はありません。然し、海外で暮らすとなればその国の人に対して何らかの恩返しをしたい、心のふれあいを持ちたい、外国に行って又日本人とだけ付き合うのではなく現地の人とも付き合いたいという気持ちがあるはずです。私達気の合う仲間数人が集まると何時も現地の人と触れ合おうということでした。とにかく同じ仲間を作るために知り合いに声をかけて見よう、ということで南の会の組織を離れて呼びかけたところ色々な人が20人ほど集まった次第です。それではどこの誰にしようかということですが、たまたま、今回集まった仲間は常日頃ロングステイでお世話になっているフィリピンがどうだろうか、非常に貧乏で毎日学校に行けない子供達がいるこの子達を何とかできないだろうかということでした。

フィリピンのセブやマニラに日本からのロングステイ、或いは移住者が数多くいます、全体

的に治安は今一歩だが、しっかりしたガード施設も数多くあり、我々日本人が住むには問題ないということも解ってきた。日本からは近くて何時でも行き来でき、物価も安く、人件費も安く、何時も温かい。私も最近は毎年訪問しており年をとったらここにロングステイもいと思いいフィリピンのあちこちを訪問してきた。今までにも、オーストラリア、シンガポール、マレーシア、タイ、ハワイ等色々な国を見てきたがフィリピンという国がわかってくると矛盾が見えてきた。貧富の差があまりにも大きい、金持ちは我々日本人が想像する以上に贅沢です。貧乏人は想像以上に貧乏です。しかしこの国で飢え死になったという話は聞いたことがない。我々日本人が忘れていた、隣近所同士の助け合い、家族の愛、宗教的なつながりが非常に強く生きている、全く知らない人でも困っていればいつでも食べ物を与える、親は子供のために、子供は親の為に、家族の為に、働いた金はほとんど家に入れる、そんな日本では忘れていた家族の強いつながりに興味を持った次第です。

フィリピンの南、ミンダナオ島の北にダピタン市という小さな町があります。学校にも行けない貧乏な子供たちが数多くいる、ぜひ、助けて欲しいという要請が現会長である川上氏からの依頼であった、彼は気のあう仲間へ何時も熱心に説いておられたあの時の熱意が今も思い起こします。とにかくフィリピン人には悪い人はいない、みんな気のやさしいいい人ばかりだ、でも貧乏がゆえにどうしようもない子供達がいっぱいいる、私はダピタンが好きだ、だから毎月のように行く、そこで田んぼや畑を耕したい、そしてその収穫の喜びを教えてあげたい、そこに住んでいる人達に仕事を与えたい、でもどうしようもない、我々のやることは乾いた砂の上に水を巻いているようなものかもしれない、しかし少しでも芽が出てきたら其れがやりがいだ、

生きがいではないか、とにかく外から見てい
るのではなく、飛びこんで自分でやってみないか
と彼の熱意に動かされた。正直言って小生も余
り乗り気ではなかった、というより、我々にそ
んなかっこいい事が出来るのかというのが本音
であった、まあ失敗しても良い、とにかくやっ
てみようかという気になったのが今から2年ほ
ど前であった。

とは言っても全くの素人集団、誰にどうやって、
どのようにするのか全く不明、かといって協会
等が行なっている団体に加盟するのでは意味が
ない。1から10まで全部自分達の手でやってみ
ようということになった。小生もボランティア経
験ゼロ、というよりは発足したメンバー全員が
経験ゼロに近い、里親をどうやって募集するの、
会の規則はどうするの、運営はどうやってする
の、更に現地学生達をどうやって募集するの、
間違い無く我々が求めている生活に困っている
が学校に行けない人たちにめぐり合えるのか手
段が全くない、それを全部我々がやる。また支
援方法もどうするのか、いくら支援するの、と
にかく解らない事だらけ、はっきりしているの
は「日本の年寄りがダピタン市の子供たちを支
援し心の触れあいを築こう」という大命題だけ
であった。

そんな矛盾だらけであったが取りあえず平成
13年6月に「ダピタン会」と言う名で会は正式
に発足した、里親メンバー22名、スカラ生24
名で年会費は大学生年1万円、高校生以下5千
円という内容。これで国立の学校の授業料は1
年間充分賄える額である、会の特徴として里親
とスカラ生はフェイスツウフェイス方式で一人
一人を支援し里親がスカラ生を見える形にした、
里親がスカラ生を決定しお互いに文通等で心の
交流を図る、時には現地を訪問しスカラ生との
親睦を図る方式にした。いったん里親とスカラ
生との組み合わせが決定したら里親は卒業する
までは学生を必ず面倒を見るという条件もつけ
た、そうしないと里親が途中で挫折した場合に
学生は学校を辞めなくてはならなくなる。そんな
木目細かな学生側に配慮した仕組みを作りス

タートした。

とにかく 現地を訪問しようと昨年会を発足
後、すぐにダピタン市を訪問した。ダピタンは
海が綺麗、近くには田んぼもあり、思っている
よりはのどかで良いところと感じた。可愛い子
供達20数名が私達を迎えてくれた、写真で子供
達を知ってはいたが、みんな小柄でかわいい、
みんなと色々な事を話したかったが言葉が通じ
ず、自分の思いは伝わらなかった感じがする。
しかしこの目でみて会って触れたことは大きな
収穫であった、記念写真をとり、私達のお土産
を一人一人に手渡したときには大きな心の繋が
りが出来たような気がした。丁度近くでお祭り
があり屋台に言っているいろいろなゲームをして楽
しんだ時はすっかり慣れて本当に楽しいひと
きを過ごした、ここに来て良かったと感じた次
第です。更に今年平成14年6月2度目の訪問
をした、今度は全員が出迎えてくれ、我々の名
前が入ったプラカードを持ち、歓迎の歌を歌っ
てくれたのはびっくりであった、彼らが最大の
歓迎をしようと内緒で進めた計画であり、又そ
の心が嬉しかった。其れではと我々もスカラ
生のために取っておきのカレー作ろうと川上会
長を先頭に、私もやったことのないジャガイモ
の皮むきを手伝ったりしてみんなで食べたあの
味は忘れられない思い出であり、学生達との
ふれあいの喜びを感じた瞬間でもあった。

会のうたい文句であるファイトウフェイス
とは、私の例で紹介します。

私は現在2名のスカラ生を支援しています。

そのスカラ生の家族は子供7人で姉妹の長女19
歳、近くの国立大学2年生、コンピュータ専攻
の学生です。父は輪タクの運転手、母はメイド、
1日数百円の収入年収8万円以下、これで一家9
人が生きていく事は容易でない、ましては二人
の大学生がいる、家は他人の土地に勝手に作っ
たバンブーハウス（竹製）であり、いわゆるス
コーター（不法滞在者）である、天井を見上げ
れば青空が見え雨が降ったら避難するだけしか
ない、床は竹製、その上にビニールシートを引
きごつごつしている、居心地はすこぶる悪い。

娯楽はカセットラジオ1台、20年前くらいのテレビ1台、窓にガラスはなく江戸時代を思わせる蓋のような木の戸があるだけ、6畳二間ほどの広さであった。私が昨年6月訪問したときに明るく振るまい、彼女は自分の家を案内してくれたのが印象的であった。

今年になると手紙には学校のこと、生活の事、妹がマニラに働きに行っており帰って来るので今度は私がマニラに働きに行く、変わりに妹をスカラ生として支援を頼むという手紙をもらい私はすぐにOKを出した。1年間休学するという手紙をもらった時は既にマニラに出発した後だった、もっと速く具体的に相談をしてほしかったが遠慮していたのだろう、何も知らず、その手紙を見たときはやはりショックだった、いわゆる口減らしである。今の日本でこんなことがあるのだろうか、職にもつかず遊んでいる日本の子供達と比較すると何かやるせない気持ちでいっぱいになった。

すぐ返事を書いて、とにかくがんばれよと激励の手紙を出したら、宛先不明で戻って来てしまった。ますます不安になりとにかくフィリピンに行ってみよう、宛先不明の住所を頼りではほとんど探す事は不可能であろうと思いながらマニラの飛行場に下りた。その足で現地滞在の日本人と中国系フィリピン人の友達の案内ですぐ現地に向かった。住所はいわゆる貧民屈で知られるマニラ市内のドント地区を通り更に不法住民が多く住んでいる地区を4時間かけてやっと探し当てた。密集したスラム街の片隅に6畳二間位で8人が住んでいるという叔母の借家に一人ポツンと寂しげにテレビを見ている彼女を発見した、嬉しさはお互いにあったのだろうが言葉が通じず、自分の思いを話すこともできなかったがとにかく喜んでくれた。既に学校に復帰していると思っていた妹はまだ働いており、姉は残念ながら無職であった、9割以上は会えぬだろうと思いつつ時間と金をかけてわざわざここまで来た価値は充分にあった。うれしかった。夕方みんなと現地食堂で食事をしてそこで別れた、小生英語が出来ず会話はゼロに近かつ

た。約2時間ほどの出会いであったが貴重な経験、考え方を教えてくれた。

1ヶ月後仕事が見つかったという手紙が来た。但し、朝6時から夕方6時までハードな組み立て工場の仕事で、1日300円ほどの収入、時には夕方6時から朝6時までの勤務もあるという。日本の仕事からすれば考えられないようなきつい仕事であるが働けるという喜びが手紙の文面に出ていた。とにかく頑張ってもらいたい。

私にとってボランティアとは、色々あるが「自分の心に生きがいという糧を与えてくれる」と解釈している。今後もこの彼女達のような恵まれないダピタンの子供たちを支援し、ずっと見つめていくつもりだ。

メーリングリストの声

101 高沢です

先日 東京の西部地区を中心とする忘年会を開催しました、同じ地域に住んでいながら交流もないのは寂しいのではないかと、せめて近くに住んでいる人達がお互いに顔なじみになろうと呼びかけましたところ、24名の方に集まっていただきました。如何ですか？地域コミュニティではないですが会の中にいくつもの交流の場をつくりましょう。

そこで 一つ提案です、来年リタイアする方集合下さい。お互いの情報交換しませんか？実は私は来年3月一杯で2年残して早期退職をします、36年間同じ会社に籍をおき、損害保険以外何もわからない人間です、これからの第2の人生と言いますが全く未知の世界です、同じような方是非、お互いに悩みを話し合いませんか、幸い来年リタイアの和田さん、小沢さんも賛成していただきました、来年リタイアの皆さんお声をかけてください、お待ちしております。

{編集部追記}色々な方が参加申し込みをしています。来年リタイアという条件にはこだわらないようですので、気軽に申し込んでみてはいかがでしょうか？

マニラストリートチルドレンの教育支援活動について

パンガラップ里親の会 会員 No.149 梶野 幸三

私達グループのボランティア活動については平成12年夏季号に記載されていますので情報の新鮮味に欠けている点がありますのでご勘弁願います。又私の情報発信周波数が受信者の周波数と違い聞きづらい場合は電源をOFFに願います。



シェルター表玄関

「パンガラップ里親の会」はストリートチルドレンに衣食住を提供し保護している施設の子供達に教育支援里親として教育費を支援し交流しているボランティア団体です。地道な歩みで今年は9年目を迎える事が出来ました。カトリック系のNGO「パンガラップシェルター・フォー・ストリートチルドレン」(ストリートチルドレンに夢をもたらず場所)はフィリピンのパサイ市(マニラ首都圏の南西部)にあります。1989年から民間の有志によって作られ活動している組織で前アキノ大統領の姉、前シアソン外務大臣(現駐日大使)婦人を始め多くの有志がボランティア活動をしています。

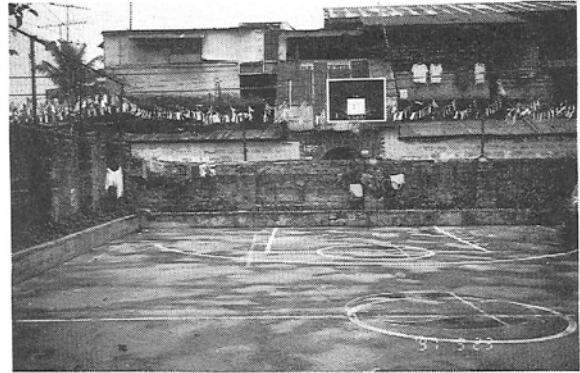
現在7才~17才の少年90人のストリートチルドレンに施設内で小中学校高校に入学出来る学力をつける為の教育、学力のついた子供には小中学校、高校、専門学校、大学での教育を受けさせています。

「出会い」

人が何か新しい事を考え、始めると言う事には何かのきっかけ、影響や人との出会い等、何

らかの関わりがあるものです。

写真2



シェルターの中庭(多目的利用。子供の遊び場)

私は'94. シアソン夫人との出会い、縁によってこの施設に出会い子供達の教育支援のボランティアが始まりました。日本では学校に行けるのは当たり前、フィリピンでは(他の後進国も同じですが)学校に行きたくとも行けない子供が大勢います。学校に行けなければその子の将来はなく底辺で貧困生活を余儀なくされます。彼等にとって 学校を出て職につき家族の為 自分の為働く事が彼等の大きな夢なのです。僅かなお金(年間教育費1700円)で子供達に将来の夢、希望を与える事が出来るならと考えスタートしたのがこのボランティアの切っ掛けでした。名もない金もない、ないない庶民のグループが草の根の見えるボランティア活動を継続出来ている1つには恵まれない子供達に対する里親の暖かい思いやりの心であり、施設のスタッフの献身、喜び感謝し、笑顔の子供達の支えがあったからだと思います。又そしてそこに一方通行でなく自分が相手に与えるだけでなく与えられるものがあるからです。心の面の満足、喜びが得られるからです。

平成12年にスピーカーとしてお話しさせて頂きましたが「ボランティア」と言うのは『人の為何か一寸する事、自分の出来る範囲で無理なくやるものであり、ある意味では自己満足である』と思います。国も個人も一国1人で生き

て来られたのではなく他国や色々な人達に助け
支えられて来た訳です。役回りとして今度は私
達は何か与え支える事が出来るものがある筈で
す。嘗てのボランティアは持ったものが持たざ
る者に施す、奉仕、慈善といった色彩が強くな
ったが今日のボランティア活動は正装でなく普段
着です。身近なものになっています。先進国は
2人に1人はボランティア活動に参加、日本は
現在3人～4人に1人が参加しているそうです。
写真3



シェルター訪問交流

〈活動のあらまし〉

8年間に教育費（授業料、教科書、文房具、制
服、交通費、通信費等）6505千円で181人
の子供に教育を受けるチャンスを与える事が出
来ました。181人の内途中落伍者は94人。
チャンスを生かし就学している子供は52%と
いう厳しい現状です。

写真4



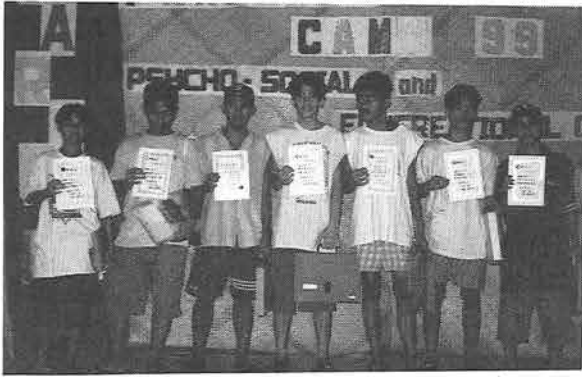
サマーキャンプで綱引き

厳しい生活環境下で勉強している子卒業した
子は意志の強い子、熱意ある子、優秀な子と言え
ます。2002年は中学3人高校6人専門学校
17人卒業する事が出来ました。落ちこぼれた
子供、卒業出来た子供、OJTの子供、就職出来た

子供、死亡した子供達を見て来てそれぞれ悲喜
こもごも至る。このボランティア知れば知る程
やればやる程、人(特に子供)との係わり合い、
国民性や文化習慣の違いや現実の矛盾、限界、
失敗等 色々な経験を通して中途半端でリタイ
ア出来ない現状の自分を発見しています。

〈主なる活動内容〉

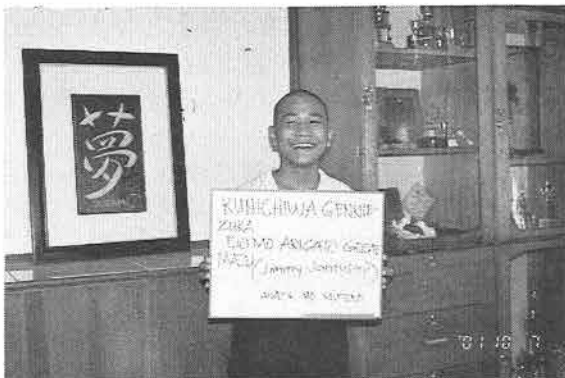
- 1) 教育資金の援助（年間17000円）。
- 2) 文通交流。誕生日卒業プレゼント。
- 3) 有志、シェルター新築資金の寄付。
- 4) 有志、歯科治療機器の寄贈。
シェルター内にデンタルクリニック開設。
- 5) 有志、家畜（養豚養鶏）購入資金、
家畜小屋建築資金寄付。
- 6) 子供自立支援でサマル島視察、仕事場を
作り、自立の資金援助をして自立させる。
- 7) スタディツアーの実施。
歓迎会エール交換、子供達と市内観光、
バスハイク、日本レストランへ招待、
シェルターの海の家で里親の手作り日本
料理、スタッフの手作りフィリピン料理
食文化紹介賞味。ビンゴゲーム、海水浴等
- 8) 有志、クリスマスパーティー交流。
ブラザー、スタッフ、子供達にクリスマス
プレゼント。福引ゲーム。
ケーキ（80人分）プレゼント。
- 9) サマーキャンプ 参加。
- 10) 卒業生 優秀な子供に表彰状と記念品贈呈。
- 11) 個人、有志、シェルター訪問、交流。
- 12) 有志、衣類ナップザック等（200人）送付
- 13) 有志、100人分の運動着送付。
- 14) 有志、卒業式に参列。祝賀会食。
- 15) 有志、ファミリーデーに参加。
子供の家族との交流。
- 16) 生活必需品、日用品、文房具学用品等の寄附。
- 17) 会員同志の親睦交流。
- 18) 会報発行。（年4回）
- 19) シェルターより現状レポート（季刊年4回）
- 20) 子供より直接里親に手紙（定期）シェルタ
ーより個人宛に教育費の領収書が来ます。



子供の表彰：日本語の表彰状、持ち方が？



人吉太鼓で日本の文化紹介



洲本さんが手彫りの額を寄贈

〈近況〉

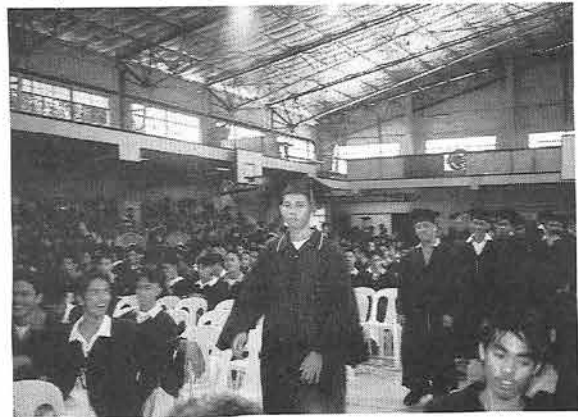
2002年

- 1) ドンボスコ専門学校卒業式参列
- 2) 卒業生、社会人になった子供を夕食に招待。
記念品贈呈。
- 3) シェルターの子供全員との夕食パーティー。
- 4) 昨年 一昨年死んだ里子の墓参り。

感動とカルチャーショック。

卒業式に参列。私達は日本人からの来賓としてビップ席が用意され200人以上の人達の

で我々日本人を一人一人紹介される名誉を享受した。パンガラップ関係の卒業生、学長、関係スタッフとの記念写真の席も用意された。



ドンボスコ専門学校卒業式

心憎い演出であり、心に残る記念式典でした。希望に溢れた若い熱気が会場一杯に満ち、私は久しぶりに青春を味わいました。

夜は卒業生と久しぶりに会う社会人になった子供達と祝賀パーティーをした。わざわざ遠い田舎から会いに来てくれた子供の気持ちに触れ、またまた胸にジーンと来るものがある。



中庭で夕食交流パーティー

私の里子の一人がシェルターのドライバーとして働いている姿を目の当りして眩しく映り大変嬉しかった。子供達の喜びは私達に喜びを与えてくれる。ボランティアには諸々の感動があるから止められない。

しかし楽しい事ばかりではない。私の二人の里子が昨年、一昨年と続いて事故と病気で死亡した。初めての彼等の墓参りをした。

一人のお墓を墓地の中で探す事50分。彼の所に行くのにはいくつかの墓を土足で上がって行かなければ辿り着けない所がありました。

彼の眠っている所は一瞬信じられない所です

た。団地形の一番下段、墓標のないコンクリートの中に彼は眠っていました。墓の前にはゴミがたかく覆っていました。隣はドクロが野晒し。

ここは首都マニラの公設墓地。未開地じゃないよ。まだ墓に入っているだけでも幸せか？しかしお金を払わなければそこから放り出され現実がある。此処では誰も訪れる人はいないな。

ぐーと胸を締め付けられ、やり切れない悲しさ、切なさを現実で受け止めなければならない。

このような所にも貧富の差を背負っていかなければならない現実を突きつけられました。



里子ジェロームの墓

死んでも貧乏を背負って行かなければならないのか。見えない所では地獄の沙汰も金次第？今の私の出来る事は安楽出来る場所に彼を移してやる事だ。帰る車の中では皆沈黙、現実を目の当りに見ていかにショックが大きかった事か。里親と初めて会った里子(18才)が空港で別れが悲しくて涙を流している姿を見るとどんなに肉親の愛に恵まれていないかが解かるような気がしました。深く関わりを持たば持つ程他人事でなくなって来る訳です。

〈 雑 感 〉

私の拙い経験を通して話さして貰いますとボランティア活動は何処かのボランティアグループに入って活動するか。何をするか問題発見してまず一人から始めるかです。

前者の場合でするなら小さいグループ、NPO法人の団体(8000位あり中味はピンキリ)に入っている訳です。いずれにしろグループに入る時は責任者の人柄やコンセプトをしっかり持っている人である事が大切なポイントです。

責任者の個人の名誉欲、エゴ、個人的着服、着飾りが多くあり誰の為のボランティアかと言うのがあります。又受ける側もしっかりしている事が肝心です。全て現地任せも問題です。有限の貴重な時間とお金です有益に使いましょう。

メーリングリスト・ミニ情報

鈴木支部長、宮 幹事 様

8/1億の出会いの機会を作って頂き、そしてアットホームの暖かい雰囲気の中で皆さんと楽しい時間を十分過ごさせて頂きました。正に自然に恵まれたチェンマイそのものでした。感謝申し上げます。色々有難う御座いました。僅かな滞在でしたが私が体験キャッチした情報をお渡し致します。少しでもお役に立てば幸いです。

1)ランナー総合病院

(志乃さんと言う日本人の若い女性スタッフの対応が大変良い。3ヶ月前に勤務。京都出身)前以て連絡すればいつでも病院の中を案内見せてくれるとの事。私が診察して貰うのに私のホテルに病院の車で送り迎えして呉れました。名刺は宮さんに。この人達との交流も大切と一。

2)ソントウの運ちゃんと知り合う(Mr. Jaroon)

ホテルから空港迄70Bで借り切りで行ってくれる。荷物が多い、時間がない、その他等の時、便利。感心にも約束時間の10分前にホテルに来ていた。森さんにバトンタッチして来ました。 梶野



(NPO) 日本フィリピンボランティア協会の活動紹介

ダバオ在住 会員No341 平野雅一

皆様こんにちは。私はNPO法人日本フィリピンボランティア協会のダバオ駐在員の平野雅一です。

日本フィリピンボランティア協会は1985年に貧困以下の生活を強いられている日系人の為の教育活動からスタートしました。その後日系人の方たちと共に地域社会に貢献していく活動に変わりました。最近では地球社会の一員として、日本とフィリピンの相互の課題を見つめ、解消に向けて実践する活動を推進しています。

現在の主な活動は

1. 教育活動

当協会は、日系人会が地域社会に貢献できる活動として小学校やハイスクールを建設し運営に協力をしています。この学校の特色は、フィリピンにある小学校・ハイスクールの中で唯一日本語の授業がカリキュラムの中に組み入れられている点です。日本との関係が深いことでダバオでは評判が高く、生徒数は年々増え続けており、来年は校舎を増築しなければならないほどになっています。生徒は日系人に限らず、多くのフィリピン人や、最近では日本人男性とフィリピン人女性との混血児（ジャピーノ）も大勢通っています。

ここでは多くの日本人ボランティア教師が「生きがい」を実感しながら教壇に立ちました。「教育こそが犯罪や貧困から救う道」という信念をお持ちになられていた南の会会員であった故隅田さんもその中のお一人です。

また、2002年6月には大学「ミンダナオ国際大学」を建設・開校させました。この大学の特色は「課題挑戦型の実践」を重視している点です。時には教室という狭い空間から飛び出し、日本フィリピンボランティア協会のカウンターパートの医療福祉機関や環境保全機関等の現場での体験学習を重視し、現実の課題に挑戦

できる人材を育てていきます。

この大学は「日本とフィリピンとの教育交流」にも重点をおいています。リタイアされた日本の方々がフィリピンの学生と共に学ぶことや得意分野でボランティア教師として活躍することも可能です。また、MKDの学生のスポンサーになるシステムもあります。

2. 里子教育支援活動

優秀な子供でも貧しければ教育を受けることができません。実親に代わり学費をだすのが里子教育支援（生活支援ではありません）です。学費を実親にわたすと使かわれてしますので里子と一緒に学校まで学費を払いに行くなどの課題を解決しながらの活動です。

つい先日には日本の里親とフィリピンの里子35名と里親が参加しクリスマスパーティが行われました。日本語スピーチやプレゼント交換、ゲームなど里子たちの企画によるささやかではありますがあたたかいパーティでした。

子供の成長する姿に感動し、子供の将来を夢見て我が子のように育てる楽しさがあります。

3. 貧困集落の自立と子供の福祉

貧困集落では栄養失調や慢性病の子供たちが多く住んでいます。その子供たちへの医療巡回活動を行っています。また、その親を集めて生活環境の改善や子育てに関する学習も行っており、更には、学校に行けない子供たちを対象に移動児童館活動を行い教育支援も行っています。

最近ではその貧困集落周辺に住むフィリピン人ボランティアスタッフがその活動を支えてくれるようになっていきます。

4. 保健室の支援

山間部や貧困集落にある小学校（39校）の保健室や孤児院（2ヶ所）へ訪問し健康教育や薬

を配る活動をしています。

この活動は日本の中学生や高校生などが文化祭などでの集めた資金で支援しています。日本の学生たちは支援しながら多くの問題を学ぶことができます。

5. 教育交流

当協会はスタディツアーを企画・運営しています。ツアー参加者は現地の学校訪問、授業実習、貧困集落での福祉活動等を行います。現地のボランティア学生と共に植林活動も行います。

山間部の学校で折り紙の指導などもします。また、公立の学校では教科書が不足しています。山間部では先生以外教科書が無いような学校もあります。そのような学校へ教科書をつくり届けることも行います。参加者はこれらの体験学習を通じて様々な課題が実感でき、これからの自分自身がしなければならないことが見えてきます。

6. 文化交流

日本で使われなくなったリコーダーを現地の小学校・ハイスクールに提供しています。毎年12月には日本領事を招待しリコーダーコンテストが行われています。

また、8月には「日本フィリピンフェスティバル」が開催されました。お茶や剣道、その他特技をもった日本の方々ダバオにお越しになり指導・実演をしました。日本から大太鼓を持ち込み、櫓を組んで、浴衣を着て盆踊りも行われました。

7. ヘルパーの養成

近い将来日本は少子高齢化で介護の担い手が不足します。一方、フィリピンでは看護婦や助産婦などの資格を持っていても就職できない人が多いです。また、多くのフィリピン人は人に対して世話好きです。そのような性格を有するフィリピン人は必ず日本において介護の担い手になってくれることと思います。そのために日本語の学習や日本の文化や習慣の体験学習を

通じて、ヘルパーの養成を行っています。また、リタイア後ダバオにロングステイや永住を希望する日本人のためにも大きな力となってくれると思います。

8. 生きがいの提供

早期退職の奨励など日本では中高年の社会活動の場の剥奪がすすんでいます。生きがいは社会に貢献しながら自分の存在が確認できることです。当協会はフィリピンにおいて様々な活動を行っています。その中には中高年が役に立つ活動、人生を楽しむための活動がたくさんあります。また、学生と机を並べて共に学ぶこともできます。充実した第2の人生をおくるために生きがいを提供する活動です。現在は南の会の会員の中で、田口さん(元会員)が音楽の先生、片山さんがヘルパー養成の日本語の先生として活躍なさっています。

日本フィリピンボランティア協会の活動は幅広く、そのひとつひとつを詳しく書ききれませんでした。もう少し詳しくお知りになりたい方は私宛にメールいただくか、日本フィリピンボランティア協会の東京事務所までご連絡ください。

<連絡先> 日本フィリピンボランティア協会 03-5384-9536

私のEメールアドレス
masaMH@aol.com



お気に入りレストランとメニュー(フィリピン編)

フィリピン在住、ロングステイの4名の方に書いて頂きました

ダバオの「安くて美味しい

レストランとメニュー」

神奈川県在住 会員 No. 38 橋本比奈子

私と主人は、この2年あまりの間にダバオに3回滞在しました。2週間が1回と3週間が2回です。そのためこの原稿を書くようにご指名をいただいたわけですが、私自身は、

- ① 胃が弱くアルコールも駄目なので、食べる事への熱意に欠ける。
- ② 滞在中もあまり出歩かない。
- ③ 気に入ったら同じ所に何度も通うので、レポートリーがなかなか増えない。

というわけで適任ではないと思うのですが、又行ってみたいと思っている所について少しだけ書いてみます。(1ペソは2.5円で計算)

パラダイス・アイランド・パークのレストラン

私達はダバオ湾に面したインシュラー・ホテルというリゾート・ホテルにいつも泊まりますが、2度目の時は丁度閉鎖中でした。そのため向かいのサマル島(アウトリガーのついた小さな船で5分で渡れます)のパラダイス・アイランド・パークのコテージに10日程泊まりました。

(ちなみに2人用1泊800ペソ=2000円でした。エアコン付きは1200ペソ=3000円位)

このリゾートにはレストランが1つあるだけで、すべての飲食はそこが頼りです。10日の間1度も他の物を食べるために街へ出かける必要を感じませんでしたから、結構良いレストランといえるのでは…と思います。メニューも多く、地元の人達が海水浴に来るところなので、価格もリーズナブルだと思いました。

昨夏はインシュラー・ホテルに泊まり、日帰りで遊びに出かけて昼食を摂りました。

(2人で昼食の一例)

- ・トリのモモのバーベキュー 45ペソ×2
- ・カンコン(葉っぱ)の炒め物 80ペソ×1

- ・ガーリック・ライス 15ペソ×2
- ・ビールとジュース 20ペソ×2

計 240ペソ=600円

他にブイヤベースも美味しいですが、量が多いので2人分と考えた方がよいです。



建物は厨房だけで客席は浜辺です

(コテージに泊まれば5%増でルーム・サービス有り)

らーめん亭

中国人の経営する中華料理店はいくつもありますが、日本人の考える「らーめん」「ぎょうざ」という中華はこのらーめん亭で食べられます。滞在中2~3回は必ず行きます。以前は空港の近くにありましたが、今は街の中のヴィクトリア・プラザのそばに移っています。店も大きくなり、寿司のカウンターが奥の方に出来ていました。

(2人で夕食の一例)

- ・ねぎみそラーメン(おいしい!) 90ペソ×2
- ・ぎょうざ 80ペソ×1
- ・ビール 35ペソ×1

計 495ペソ=1250円

価格は少し高めです。普通の中華料理店なら同じ価格でもっと食べられると思います。でも「野菜炒め」などおなじみのメニューが多いので、気楽に入れます。

ハガース・プレイス (HAGAR' PLACE)

インシュラー・ホテルから歩いて5分位の所にあるヨーロッパの居酒屋風の店です。オーナーは北欧の人で「地元の外国人のたまり場」とか。主人が気に入って、近いこともあり良く通いました。バーのカウンターには常連の人達がいて、奥にテーブルがいくつかある薄暗い店です。観光客向きではありませんが、価格が適当で食べやすいメニューです。料理は1皿80〜200ペソ位まであり、ライスかポテト(3種類から選ぶ)が付いています。

(2人で夕食の一例)

- ・肉料理 120ペソ×1
- ・魚料理 160ペソ×1
- ・ワインとホットジュース 30+15ペソ×1
- ・コーヒー 45ペソ×2

計 415ペソ=1038円

おいしい果物

インシュラー・ホテルはバイキングの朝食付きなので、朝はゆっくりと洋風、フィリピン風または中華風の朝食が楽しめます。特に果物は美味しくて南国の楽しみを満喫できます。(このホテルはバスタブ付きの部屋2人で1800ペソ=4500円位、但し日本人会などの特別価格)

ダバオ市ではドリアンがシンボルになっているようですが、ドリアンを食べるには街の中のドリアン横町とでもいうような所に行きます。買った物をその場で切ってもらって、立ったまま食べます。1個120ペソを100ペソ=250円にまけてもらって、3人で食べてお腹一杯(?)という感じでした。

他にはポメロというザボンのような果物がいたるところで売られていて、大変おいしくて何回も買いました。1個60ペソ=150円位でした。

以上思い出すままに書きましたが、街にはファーストフードの店も多くあり、簡単で安い食事が出来ます。又、中華は勿論、韓国料理、日本料理、イタリア料理、スペイン料理などいろいろあって食べる物に困ることはありませんで

した。私達は2〜3週間の滞在でしたのでまだまだ良くわかりませんが、次回は2〜3ヶ月の予定で自炊もふくめてレパートリーを拡げたいと思っています。

尚、元会員でダバオ在住の田口さんが、ホームページにダバオのグルメ情報も載せておられますので参考になると思います。

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Desert/1928/>

「マニラの美味しいレストラン」

マニラ在住 会員 No. 61 塩見 祥昭

フィリピンで安くて美味しい店の紹介をと言う事ですが、日本レストランはマニラで高級店が5〜6件有りますが、日本人駐在員の接待で使われる事が多く、1人5千円以上かかりますので今回は省きます。あと、スペイン、イタリア、タイ、ベトナム、インド、中華、韓国、フランス、アラビアと色々なレストランが有りますが今回は中華風海鮮鍋と韓国レストランを紹介させていただきます。

1. KAYA 韓国レストラン
住所 62. JUPITER ST., BEL-AIR, MAKATI CITY
電番 895-0404
895-1051 (FAX)

KAYAとはダイナスティと言う意味です。フィリピンでは一番老舗の韓国レストランです。旧日本大使館の近くでまにら新聞すぐ横です。焼き肉、チゲ鍋、冷めん、一品料理と種類は豊富です。この店のおすすめは石焼ビビンバと骨付きカルビです。石鍋を焼いた上にご飯をのせ、上の具をかき混ぜて食べます。少しこげたご飯が香ばしくとても美味です。ビビンバにカルビをのせてもいいけます。それとおつまみが5〜6品キムチ、韓国風タマゴ焼き、ホーレンソウお

したし、カクテキ、芋の飴煮、のり、等です。
おつまみはサービスで追加も無料です。
1人500~600ペソ (1200円~1300円) 位
で食べられます。

- ◎石焼きビビンバ P250/人(600円)
- ◎骨付きカルビ P220/人(530円)
- △冷麺 P180/人(440円)
- シーフード鍋 P800/2~3人(1920円)
- ビール P50/本(120円)
- 焼酎 P200/本(480円)



メニュー写真

2. NABEYA 中華風海鮮鍋
住所 2F/GREENWORLD PLAZA,
79 PRESIDENT AVENUE
BF-HOMES, PARAÑAQUE CI
TY
電番 541-3327 (TEL. FAX)

自分の店ですがNABEYAのおすすめはス
ワヘ (生きた海老、甘海老に似ている)、ロッ
クロブスター (石海老)、セミ海老、ナイロン
シエル (青柳に似ている)、を生きたまま鍋に入
れます。野菜も、日本白菜、しめじ、エニキ、
台湾白菜、ローカル白菜、ホーレン草、クレソ
ン、とうもろこし、山芋、はるさめ等野菜も豊
富です。特に石海老は最高に美味しいです。身
が甘く伊勢海老よりも美味です。その他、餃子、
シュウマイもいけます。

◎ 海鮮鍋 (醤油たれ) 2~3人前

- P850 (2040円)
- ◎牛肉しゃぶしゃぶ (ポン酢)
P800 (1920円)
- ◎豚肉しゃぶしゃぶ (ポン酢)
P800 (1920円)
- ◎すき焼き P800 (1920円)
- 単品:
- シーフード揚げそば P200(480円)
- 餃子 P90(220円)
- シュウマイ P100(240円)
- ピリ辛コンニャク P60(150円)
- ビール P30(75円)/本
- 焼酎 P180(450円)/小ビン1本



メニュー写真

「私の行きつけレストラン」

マニラ在住 会員 No. 204 渡辺克美

店の名前: “ミロ・レストラン”
所在地: マニラ・マカティ市パサイ通り 4
942 (2階)
<4948 Pasay Road corner Washington St.,
Makati-City, Manila>
就業時間: 11:00~14:00、
17:30~22:00
日曜日・祭日もオープン
予約電話: 02-812-4621

オーナーの加村さんは在比20年のベテラン。
地元 TV の料理番組や新聞の料理メニューを執

筆する等、広くフィリピン社会にも活躍なさっておられます。

私がお勧めのメニューは「和風フランス料理のフルコース」。

4コースがあって、600ペソ（¥1500）～900ペソ（¥2300）。

時期によって多少メニューは変わりますが、前菜から始まって、スープ、サラダ、メイン、デザート、と6品～9品。

マニラで最高級の味だと感じています。

尚、1階は同じく加村さんがオーナーの寿司・割烹“花清”です。

「いらっしゃいませー。」

セブ在住 会員 No. 27 鈴木 博

昼飯の用意が面倒だと散歩がてらアヤラにいつて、さて何を食べようかと思いつらそうとするけど、もう既に胃袋は熱々のカントンめんの味を要求している。夢うつつのうちに「ライライ軒」に入ってしまう。

ウェイトレスたちとは顔見知りだから、「いらっしゃいませー！」にも感情がこもっているように聞こえるのは気のせいかな。それとも単にフィリピン人が日本語を口にするときの独特のイントネーションか？

私のコンドから歩いて行く距離にアヤラセンターがある。買い物・食事も近いからここで済ましてしまうことが自然多くなってしまう。あるとき美しいピンクの中トロが出てきた。そのときは私の注文ではなかったので食欲をぐっと押さえて今度食べてみようと思っていました。あれが食べたくて、その後ときどき聞いてみるんですけど、「たまにしか入ってこないんです。」と言いつついつも無い。

しかたがないから、またいつものカントンメンで我慢する。

もう一つ嬉しいのは、値段が私の財布サイズだからいたって気軽。だからフィリピン人のち

よっと余裕のある人たち風でいつも混んでいる。慣れない箸を使って音を立てずにラーメンを食べているのなんかはほほ笑ましい。

まるで駅前の食堂か学食のような雰囲気だから、「おい、ねーちゃん。いつものやつを頼むよ。」とでも言いたくなるような店だ。

コックはフィリピン人だけど。よほど舌がいいやつなんだろう、味もなかなかのものだ。卓につくとまず付け出しが出てきて、それがモネギのぬたモなんかのときは「うーん。日本人で良かった。」としみじみ感嘆する。

メーリングリスト・ミニ情報

「ニャベトナム」というベトナム専門館ができました。住所：恵比寿みなみ1-9-3 石川ビル場所はJR恵比寿駅西口徒歩3分。

◆1Fは喫茶と軽食。11:00～23:00 2Fベトナム料理。17:30～23:00 TEL:03-3716-8088

◆3Fはインフォメーションプラザ。

月一金/10:00～18:00（土日祝休み）

インフォメーションカウンター TEL:03-3716-9131

ビザ申請がここで出来ます。観光一ヶ月ビザ ¥5,000円 申請した日から3日目以降に受け取れます。

◆観光案内：観光資料、ホテルパンフ、地図等ほかに物産品の展示

◆ツアーデスク（ピース・イン・ツアー）

TEL:03-3716-9132

HP: <http://www.pitt.co.jp/>

ベトナム航空券、ホテル手配、現地発着ツアー、空港送迎、市内観光、おもしろツアー

No. 239 伊藤 寛

フィリピンの所得税法

2002.10.25

(個人に関するものの一部)

山口県在住 会員 N0.291 福田 修

偶然であるが、ごく普通の営業・業務職のサラリーマン OB で山口の田舎に住む私にとって珍しい本が見つかった。監査法人トーマツ編の「アジア諸国の税法」第3版である。この本を本屋で手にした瞬間に感じたのは「いますこし読み易い表現にして、ごく大雑把でよいからその内容を南の会の皆様に伝えられないものか」ということでした。

そうは言っても私たち普通の人間が外人から「日本の所得税法について教えてください」と聞かれ短時間のうちにちゃんと答えられる人はまずいないでしょう。日本でも税法は但し書きや例外がいっぱいあって複雑怪奇。それに毎年のように変わる。フィリピンでも同様と思われる。

従って実務上は本稿の説明をそのまま信ずるのではなく、過去の一時点ではそうであった位にご理解いただき、正確を期す時は今一度内容をご自身で確かめていただく事肝要。

しかしここで税法というやっかいな代物をあえてとりあげた理由は「税法がその国の人間の行動パターンを決める」と私が考えたから。会員の皆様方も日本では税金のかからぬみちを必ず選ばれる筈。

制約の多い題であるがごく限られた範囲で私の見聞きしたことなども加えフィリピン人の物の考え方を理解するのに少しでも参考になれば幸いである。また題がやっかいなだけに将来新しい内容や新事実などを加筆・訂正していけば本書が本邦でも有力な参考書になることも夢ではあるまい。

私たちの大部分は日本に住む日本人＝居住者であるから日本の税法に従うのであるが、フィリピンに住むフィリピン人ならどうなるかを中心に話をすすめ、外国籍者である私たち（フィリピンでは非居住者がほとんど）に関連する事項にも言及してみたい。

なお為替レートは 2002/1 月と 2002/7 月に訪比したときのレートの中間のレートに近く計算上きりの良い 1 ペソ = ¥2.5 を採用した。

参考書： Philippine Income Taxation, Revised Edition by Dante Yson Cenido および The Law on Income Taxation by Benjamin Teodoro & Hector De Leon, 2001 年版

1. 納税義務者と課税所得の範囲(総論)

- 1) フィリピン国内居住者・・・全世界所得が対象
- 2) フィリピン国非居住者・・・フィリピン国内源泉所得のみが対象

注 1) いわゆるフィリピン・パブで働いているジャパユキさんは通常の場合 1 年 365 日のうちフィリピンから 183 日をこえて日本で働く事は無い。つまり彼女らはフィリピン国内居住者であるから日本での収入をフィリピンで申告して税金を納付しなければならない。

注 2) しかしながら初めて日本にきた子はともかく、何度も働きにきた女の子に聞いてみても税金を払ったことはないという。

注 3) 彼女らは日本の企業と労働契約を結んでいるがフィリピンで彼女らの面倒をみるのは提携しているフィリピン企業なるもその法的地位はこの日本企業の代理人。当然ながら給料は日本企業から本人へ、それも帰国直前に支払われる。日本へ再入国しない子も多いようだし、この日本企業はフィリピン国に対して何の義務もなからう。

注 4) 売れっ子のばあいは特別に申請して帰国後 3 ヶ月で日本に再入国できるという。するとフィリピンでは非居住者になるからフィリピンで税金を納める義務はない。その代わり日本で税金を納める義務が生ずるがその収入は年間で基礎控除額以下であるというから税金を払わなくて良い。

注 5) 当然のことながら当局の把握できない収入、例えばチップなどは税金の払わせようがない。

注 6) フィリピンの両替商の店で 100 万円、150 万円と現金を持ってきてペソに換える子もいるという。私の住む人口 12 万人の小さな街で家屋敷など財産をすっかりなくしてスッテンテンになった人が少なくとも 3 人はいるというから、そこまでひどくない場合を含め全国規模で合算すると相当のお金がフィリピンへと表に出ぬまま流れているものと思われる。以上は文字ど

おり非常に限られた情報に基づいた私の観察。

- 3) 外国籍の者・・・居住・非居住を問わない・・・・・・フィリピン国内源泉所得のみが対象
注7) 南の会の皆様やフィリピンに長期にわたり居住する日本人駐在員に日本国内で行なう株式売買等による所得や家屋の賃貸料収入等があっても、その金をフィリピンに持ち込んでも持ち込まなくても、これらは全て課税所得外の所得ということになる。皆さんに日本国内で年金収入や給与所得(駐在員の場合は留守宅手当と賞与)があっても同様にフィリピンでは税金がかからない。
- 4) 個人に対する課税は「暦年基準」によって行なわれる。つまり前年の1月1日～12月31日までの総所得が課税対象所得となる。ついでながら年末調整や4月15日までに申告納税しなければならない確定申告制度もある。また分割納付も可能だが納付が遅れたり、わざと申告しなかったりすると重い追徴金を支払う羽目になる。
注8) 個人の場合と違い法人の会計年度は暦年に合わせる必要はない。

2.銀行預金利息等

- 1) 銀行預金利息等は源泉分離課税対象所得 (Passive Income) とされ源泉徴収された時点で課税関係が終了する。
- 2) 利息に対する税率
 - ◎ペソ建て預金等・・・・・・20% (日本と同率)
 - ◎US\$建て預金等 (A)・・・・・・7.5% (居住者・・・Expanded Foreign Currency Deposit Systemによる・・・通常の預金はこの扱いとなる)
 - ◎US\$建て預金等 (B)・・・・・・無税 (非居住者にはこの特典が認められる。正式な申請方法は2001.1.25付けの弊記事のとおり。参考のため末尾に再掲する。なお非居住者であることを金融機関が認めてくれればよいわけだが、一部金融機関では外国人であるからという理由だけでフィリピン居住者の預金利息を無税扱いにしている場合もあるようだ。まず銀行と交渉すること。ただしこの扱いが法に触れることもあり得ると知っておいたほうが良い)
 - ◎5年以上にわたる長期のペソ建て定期預金・・・・・・無税 ただし満期前に解約するときには預け入れ期間に応じた利息にかかる税金が控除される (3年未満・・・・20%、3年～4年未満・・・・12%、4年～5年未満・・・・5%)

3.納付税額の計算式等

- 1) (総所得) - (社会保険料など) - (基礎控除、子供控除など) = (課税所得額) (課税所得額) → (税額計算) - (源泉徴収税額) = (納付税額)
- 2) 総所得には給与賃金などのほか現物給与 (fringe benefit) も役務の対価として課税される。つまり社宅や社有車の供与を受けたり、メイド、運転手その他の家事使用人を会社で雇ってもらったりした場合、これらは課税所得に加算される。ただし一般職の従業員 (rank and file employee=管理・監督的地位にない者) にはこの税金はかからない。
- 3) 現物給与についてはかなり細かいところまで規則で決めてある。社宅や車の扱いはかなり複雑。中にはこんなものもある。 A 会社から支給されるお米手当(米購入補助金)は月に350ペソ (¥875) までなら税金はかからない。 B クリスマスなどに従業員やお客が会社から贈り物をもらっても税金を払う必要はない。 C 従業員が病気をしたり、結婚したり或いは子供が生まれたりした時に花束、果物、書籍などを会社からプレゼントしてもらっても非課税扱い。
- 4) 退職金や年金が共和国法第7641号に従って運用・支払いがなされていれば所得税がかからない。ただし勤務期間が10年以上であること、退職時年齢が50歳以上であること、一生で一回しかこの扱いが受けられない等の制限がつく。
- 5) ギャンブルや賭け、ゆすり・たかり、詐欺など違法行為による収入も総所得に含める事になっている。この字義通りであれば賄賂や脱税した金額も所得に加算して税務署に申告して税金を納めることになるのだが・・・・。闘鶏場ではひと勝負ごとに相当の額の賭け金が飛び交うが当局は見ないふりか。賄賂や脱税もしょっちゅう話にはでるがこれはあくまでも水面下のはなし。

4.所得から控除されるもの

- 1) 基礎控除 (personal exemption)

独身者・・・20,000 ペソ (¥50,000)

世帯主 (Head of family)・・・25,000 ペソ (¥62,500)・・・世帯主とは両親または片親、21歳未満かつ所得を有しない未婚の兄弟姉妹等と生計を共にしている未婚者又は判決に基づき別居している夫婦の一方で子供を有する者。

既婚者・・・32,000 ペソ (¥80,000)・・・妻(配偶者)に所得がある場合は妻にもこの控除を適用できる。

2) 子供控除 (additional exemption)・・・世帯主と既婚者が利用できる制度であるが、控除の対象となる子供(dependent)一人当たり 8,000 ペソ (¥20,000) ただし4人まで。つまり 32,000 ペソ (¥80,000) が限度。控除の対象となる子供とは 21歳未満で未婚かつ所得を有しない者で納税者と生計を一にする者をいう。

3) 健康保険料控除・・・自身または家族を被保険者とするもので一ヶ月 200 ペソ (¥500) 年間で 2,400 ペソ (¥6,000) 限度。ただし年収が 250,000 ペソ (¥625,000) を超えると適用除外となる。

4) 社会保険料や労働組合費も所得から控除される。

5. 税率 (個人の通常所得に対するもの)

課税所得額	定額+税率 (= 税額)
10,000 ペソ (¥25,000) 以下	5%
10,000 ペソ超~30,000 ペソ (¥75,000)	500 ペソ+10,000 ペソ超部分・・・10%
30,000 ペソ超~70,000 ペソ (¥175,000)	2,500 ペソ+30,000 ペソ超部分・・・15%
70,000 ペソ超~140,000 ペソ (¥350,000)	8,500 ペソ+70,000 ペソ超部分・・・20%
140,000 ペソ超~250,000 ペソ (¥625,000)	22,500 ペソ+140,000 ペソ超部分・・・25%
250,000 ペソ超~500,000 ペソ (¥1,250,000)	50,000 ペソ+250,000 ペソ超部分・・・30%
500,000 ペソ超~	125,000 ペソ+500,000 ペソ超部分・・・32%

6. 給与明細表の実例

1) マニラのデパートに勤める 20 代独身女性 (週給・・・2002.6.9~2002.6.15)

労働日数	5 日
1 日の賃金	280 ペソ (¥700) →×5=1,400 ペソ (¥3,500)
休日出勤 (6/12 水曜日)	560 ペソ (¥1,400)
週給総額	1,960 ペソ (¥4,900)
源泉徴収税額	-119 ペソ (¥298)・・・総額に対して 6.1%
社会保険料	-171 ペソ (¥428)・・・総額に対して 8.7%
週間賃金手取り	1,670 ペソ (¥4,175) (合計 14.8%)
この調子で 1 ヶ月働くと	7,840 ペソ (¥19,600) グロス 6,680 ペソ (¥16,700) 手取り
この調子で 12 ヶ月働くと	94,080 ペソ (¥235,200) グロス 80,160 ペソ (¥200,400) 手取り

2) マニラのホテルで働く 3 人の子持ちの女性 (2 週間給・・・2002.5.1~2002.5.15)

労働日数	12 日
1 日の賃金	280 ペソ→×12=3,360 ペソ (¥8,400)
休日出勤 1 日	280 ペソ
2 週間給総額	3,640 ペソ (¥9,100)
源泉徴収税額	-69.96 ペソ (¥175)・・・総額に対して 1.9%
社会保険料	-50.00 ペソ (¥125)・・・総額に対して 1.4%
医療保険料	-18.75 ペソ (¥47)・・・総額に対して 0.5%
社会保険からの借入金返済	-280 ペソ・・・計算からは除外 (合計 3.8%)
給料の前借など差し引き金	-2,134.27 ペソ・・・計算からは除外
2 週間給手取り	3,501.29 ペソ (¥8,753)
この調子で 1 ヶ月働くと	7,280 ペソ (¥18,200) グロス 7,002.58 ペソ (¥17,506) 手取り
この調子で 12 ヶ月働くと	87,360 ペソ (¥218,400) グロス

- 84.030.96 ペソ (¥210.077) 手取り
- 3) ダバオ在企業の財務・会計担当課長・・・月給は 27.000 ペソ、家族構成などは不明
 月給与の 1/2 13.500 ペソ (給料は月に 2 回に分けて支給)
 残業 800 ペソ
 コーラ現物支給 225 ペソ (お米とは違い非課税扱いにならない)
 出張旅費手当て 0 (会社に制度としてあるもの。本人は
 被服手当て 0 支給を受けていない)
 給与支給総額 14.525 ペソ (¥36.313)
 社会保険料 -400 ペソ (¥1.000)・・・総額に対し 2.8%
 健康保険料 -250 ペソ (¥625)・・・総額に対して 1.7%
 源泉徴収税額 -1.350 ペソ (¥3.375)・・・総額に対して 9.3%
 (合計 13.8%)
- 給料前借金差し引き -1.750 ペソ・・・計算からは除外
 この調子で 1 ヶ月働くと 29.050 ペソ (¥72.625) グロス
 25.050 ペソ (¥62.625) 手取り
 この調子で 1 2 ヶ月働くと 348.600 ペソ (¥871.500) グロス
 300.600 ペソ (¥751.500) 手取り
- 4) 設例：妻と子供 5 人を扶養しているフィリピン人に次の収入があった。確定申告額はいくらか。
 (収入) (経費等)
- | | | | | | |
|--------|------------|------------|-----------|-------|----------|
| 国内源泉所得 | 100.000 ペソ | 源泉徴収税額 | 5.000 ペソ | 社会保険料 | 5.000 ペソ |
| 国内事業収入 | 80.000 ペソ | 同左のための事業経費 | 40.000 ペソ | | |
| 国外事業収入 | 90.000 ペソ | 同左のための事業経費 | 70.000 ペソ | | |
| 銀行預金利息 | 30.000 ペソ | | | | |
- 計算：総合課税所得総額：270.000 ペソ 分離課税対象所得：30.000 ペソ
 所得から除く：32.000 (基礎) + 32.000 (子供) + 5.000 (社保) + 110.000 (経費計)
 課税所得額：270.000 - 179.000 = 91.000 ペソ
 申告納税額 (確定申告)：8.500 + (91.000 - 70.000) × 0.2 - 5.000 = 17.200 ペソ
 銀行預金利息に対する税金：30.000 × 0.2 = 6.000 ペソ (源泉徴収により支払い完了)

注 9) フィリピンではカードを持ちたくても年収が 120.000 ペソ (¥300.000) 以上なければ無理といわれ、1.100 万人つまり総人口の 15% が有資格者であるという。

7. 個人的な感想等

- 税金などはいい加減に処理されているのではとの先入観を持ってフィリピンへ行ってみたけれども実際には源泉徴収も規則どおり実行されているようだ。安い給料にも拘らず控除項目は少ないし控除額も小さい。通勤手当などないから自費で通勤。文字通り一般庶民は重税にあえいでいる感じで本当に気の毒だ。
- ただフィリピンでの失業率は日本の 5.4% に比べると相当に高く、失業者はいっぱいいるので給料がもらえるだけで有難いと思わなければ・・・という人もいる。
- なお政府統計によると 2002/4 月の失業率は 13.9%、2002/6 月の失業率は 11.2% であるが、フィリピンでは一週間のうち 1 日でも働けば失業者ではないし、賃金を貰わなくとも家業や農業を手伝っていれば失業者でないという扱いなので実態は相当に深刻だ。
- またこの数字自体が疑問符付きという人もいる。つまり実態よりも甘い数字になっているというわけだ。一旅行者に過ぎない私にはなんともいえぬが、とてもこのような低い数字ではない様に感ぜられる。現に日本の考え方をそのまま当てはめるとフィリピンの失業率は 50% にもなるという人すらいるのだ。
- その一方でフィリピンにはお金持ちもいて、たくさんのお金を持っていると給料だけで月に 150 万ペソ (375 万円) の収入があるという。年収は 4.500 万円にもなる。この話が本当ならば税金がちゃんと源泉徴収され確定申告もされているのか、本当のところを教えてくださいたい気がする。
- ただフィリピン国の所得税の最高税率は 32% で日本の 50% (課税所得が 1.800 万円以上部分は所得税 37% 住民税 13%) に比べるとかなり低い。それでもなお、もっと税金が安くならぬかと迷われるのであろうか。

- 7) これは中小企業の話であるが、利益が出すぎると税務署に交渉に行くとのこと。こちらの希望する金額までまけるのはOKだが、まけてもらった金額のうちいくらをリベートとして差し出すかが話のもっとも重要な部分という。
- 8) またこの交渉は外国人との間ではありえない事の由。従って奥さんがフィリピン人であれば奥さんにこの交渉をまかせる以外に手はない。
- 9) 某有力者曰く「フィリピンで重要なのは何を知っているかではなくて、誰を知っているかだ」と。だから自分が市役所にいけばいつでも自分のいうとおりの金額の所得証明書を発行してもらえると豪語する。
- 10) 「脱税にばかり熱心で、金持ちが税金を払わないからこの国はいつまでたっても貧乏だ」とマニラで乗ったタクシーの運転手が何度も強調する。賄賂もそうだが金持ちの脱税もあまねく知れ渡った周知の事実らしい。
- 11) そういえばマニラのタクシーの大部分はメーターを倒さずにお客と交渉して高額の運賃をまきあげる(私の経験ではメーター料金の2~3倍が普通、中には10倍以上の例も。勿論メーターを倒して走る車もある)。しかしメーターを使わなければ何の証拠も残らないから売上がいくらかなのか他人にはまったく分らない。彼等も政治家や金持ちのまねをしているものとみえる。

以上

フィリピンに置く US \$ 預金の利息にかかる税金免除法

2001.1.25 (2002.9.25 一部訂正)

1. 普通の日本人がフィリピン国内の銀行へUS \$ による預金をしたときには、利息の7.5%相当額の税金が源泉徴収される(日本では20%)。
2. しかし私達のほとんどは非居住者であるから本来利息にかかる税金を払う義務は無いのであるが、金融機関では非居住者なのかそうでないのか区別がつかないので課税する方法を選ばせるのであろう。
3. このような事情が分ってみれば対処の仕方もはっきりする。要するにフィリピンではなく日本に住んでいることが分る文書があればよい訳だ。
4. 具体的にはフィリピン大使館が発行する居住証明書(Certificate of Residency)と自分が署名した付表(Attachment・・・資料A、なお資料の添付は省略する)を現地の取引金融機関に提出すればよい。
5. 山口県防府市に住む福田の場合のその手続きと必要書類、費用等は以下の通り。
 - 1) 住所地で住民票を一通取り付ける。 (¥200)
 - 2) これを英訳する(資料B)。
 - 3) 住民票本紙と英訳文を住所地の公証人に提示、本人が面前で署名したことを日英両語で認証してもらう。 (¥11,500)
 - 4) 公証人押捺の印章が真正であることを山口地方務局長に日英両語で認証してもらう(無料)。
 - 5) 公印確認申請書(資料C・・・事前に外務省から取り付けておく要あり)を書類に添付して外務省領事移住部領事移住政策課証明班・・・〒100-8919 東京都千代田区霞ヶ関2-2-1Tel.03-3580-3311 内線2855宛提出する。
 - 6) 愛知県以西居住者は外務省大阪分室(大阪府庁内)・・・〒540-0008 大阪府中央区大手前2-1-22Tel.06-6941-4080宛提出するようすすめられる。
 - 7) 郵送による申請も可。事前に取り寄せた公印確認申請書に所要事項を記入、関係公文書原本に添付、返信用封筒を同封のうえ外務省に郵送する。
 - 8) 本人(代理人不可)がフィリピン大使館領事部のNo.1窓口(VISA AND AUTHENTICATION-査証と認証)へ提示のうえ書類を受け付けてもらう。
 - 9) 内容に問題がなければ書類一式が返却され写しを夫々一部とるよう指示されるからコピーをとって本紙と一緒に再提出する。 (コピー機あり @ ¥20×5枚=¥100)
 - 10) 取り扱い手数料を会計窓口で支払う。 (¥4,200)
 - 11) 3日後に再訪して書類を受け取るよう求められる(資料D)。
 - 12) 郵送も可能で会計課備え付けの封筒を利用する。 (¥1,100)
6. 念のためにPRA資格取得に際して、本邦の窓口のひとつであるフォレストカンパニー社へ照会してみた結果は次の通り。

- 1) 手続き的には、今回福田が駐日フィリピン大使館から取得した書類をフィリピンの現地取引金融機関に提出して正式に免除を受けるのが正しい。
 - 2) しかし PRA 資格を取得するために同社を経由して現地で US\$ 預金をする日本人は全てフィリピン国非居住者であることを前提にしているの、事務手続きを省略して、利息にかかる源泉税は当初から免除されている由（つまり特別な手続をとっていないが現実に免除を受けている）。
 - 3) ちなみに同社では Philippine National Bank 東京支店から Bank of Commerce の BelAir 支店の PRA 専用口座に依頼人名義で定期預金の開設依頼をする由。
7. このような手続をとってどの位の税額の節約になるのか PRA 資格取得の際必要とされる US \$ 50,000 の定期預金(年額)について試算してみる・・・ただし私は勉強のために小額の定期預金をしてみただけ。

利息・・・US\$ 50,000 x 6.7% (注1) = \$ 3,350.

利息への税金・・・\$ 3,350 x 7.5% = \$ 251.25・・・免除される額

注1) 2000.12.20 現在の現地某銀行の「1ヶ月定期預金」の適用年利率。なお PRA 指定定期預金は他の一般の定期預金に比べ利率が低い。

注2) 税金を源泉徴収されないこと 2001.1.20 現在で現地銀行に確認、以後 2002.8 月に到るまで私は税金を払っていない。ただ残念な事に世界的な低金利の荒波がここにも押し寄せてきて銀行の利息が 2.625% (2002/8) にまで下がってしまったのでこの特典の値打ちがかなり目減りしてしまった。

以上

☆ 編集委員より

♪この会報は会員みんなの会報です

いい情報もみんなで共有しましょう

皆さんの南国経験や情報を是非原稿としてお寄せください

お待ちしております

窓口 小川 護雄 TEL : 044-986-9052

Eメール : mo.ogawa@mx10.ttcn.ne.jp

小沢 公子 TEL : 03-3949-2436

Eメール : g-ozawa@dab.hi-ho.ne.jp

大野 隆司 TEL : 0429-82-3247

Eメール : etsuko-ono@bi.wakwak.com

♪次回「春季号」は今年4月発行です。よって原稿の締め切りは3月15日が目安です

ダバオ変人便り(3)～フィリピン人から見た日本～

ダバオ在住 会員No.341 平野雅一

会員の皆さん、こんにちは。フィリピン第2の都市ダバオ在住の平野です。私はこちらに来てから早1年6ヶ月が経ちました(2002年12月現在)。今回の寄稿文は「フィリピン人から見た日本人(日本)」についてフィリピン人との座談会の内容とその内容を通じて私が感じたことを記してみました。尚、座談会の出席者は全員ダバオ在住で、東京に滞在経験があります。よって、あくまでダバオと東京の生活体験がベースになっており、日本とフィリピンという観点では当てはまらない点があることを予めお断りしておきます。

<座談会の内容>

私「皆さんが日本に行ったときに、不思議だな…と思ったことについて教えてください。」

A「私が初めて東京を歩いていたときの事です。私は普通に歩いていたのですが、全ての日本人が私を抜かしていくんです。皆、走っているようでした。私は怖くなって、このまま進んでいいのか否か迷いました。」

私「どうして怖かったのですか？」

A「私が歩いて向かう先でなにか事件が起こっていると思ったのです。私を抜かして行く人たちはその事件現場に急いで向かっていると思いましたので、その事件に巻き込まれないようにしなければいけないと思ったからです。」

私「それでどうしたのですか？」

A「(学校へ行く)道順はそれしか知らないの、とにかく事件に巻き込まれないように慎重に歩きました。」

私「それで、どんな事件が起こっていたのですか？」

A「不思議なことに、なにも事件なんて起こっていませんでした。」

私「どういうことだったのですか？」

A「後で解ったのですが、ただ私の歩くスピードが遅くて日本人の歩くスピードがすごく早かっただけです。(笑い)」

R「日本人は色々忙しいからしょうがないんだよ。」

J「私もそう思います。日本人は仕事が忙しいからしょうがないですね…。私が初めて日本に行ったときの事なのですが、朝出かけるときに隣の人と会ったので挨拶したら、一言返事されただけで急いで歩いて行っちゃった。最初はどうして話をしてくれないのか不思議でした。」

私「でも返事してくれたんですよね？」

R「はい。一言だけ…。ダバオではもっと話をするのが普通です。でも、日本人は忙しいからしょうがないのだと理解しています。」

私「ダバオの人は忙しくないのですか？」

R「そんなことはないですが、近所の人を大切にしますし、人間関係がなによりも大事だと思います。」

J「近所を歩いている人が、近所の人か否か解らなかつたら困ります。泥棒だったらどうしますか？近所で子供が怪我をしたときに、どこの子供か直ぐに解らなかつたらどうしますか？」



座談会の様子

<私の所感>

確かにフィリピン人(ダバオ)は日本人と比べて歩くスピードが遅い。フィリピンは日本と比較して暑いから仕方ないのかもしれない。道の整備状況が悪いから仕方ないのかもしれない。または、日本のように時間に追われすぎていないからなのかもしれない。その明確な理由は解らない。

ただし、ゆっくり歩くと普段見えてこないものが見えることもある。道端に咲いている美しい花、いたずらしようとしている子供のやんちゃな視線、重い買い物袋をさげて歩いているお年寄り・・・。

この会話を聞いて私は、時間に追われすぎていて、人と人とのコミュニケーションが不足気味の日本に対する警告と受け止めた。

一方、私が10年ぶりにフィリピンを訪れて感じたことの一つに「フィリピンの人々の歩くスピードが早くなってしまった」という点があります。フィリピンも時間に追われすぎる時代が来ってしまうのであろうか・・・。

<座談会の内容>

私「他に何か不思議に思ったことはありますか？」

A「夕方商店街を歩いていたときのことで。女性が前と後ろに子供を乗せて自転車に乗っているのです。しかも、大きな買い物袋も乗せて・・・。」

私「危ないな、と思ったのですか？」

A「確かに危ないとも感じましたが、それより、どうしてその女性は一人でそんな大変な思いをしているのだろうか？」

旦那さんはどうしているのだろうか？他の家族はどうして手伝わないのか？旦那さんと離婚して家族もいないかわいそうな女性なのかとも思いました。」

私「日本ではそれが普通ですよ」

A「はい、後でわかりましたが・・・」

私「どう思いますか？」

A「日本の男性と結婚したくないと思いました(笑い)」

R「私も不思議なことがありました。買い物帰りの夫婦が歩いていたのですが、奥さんが重い荷物を持って、旦那さんが何も持っていなかったんです。」

A「そうそう、私もそんな光景をよく見ました。フィリピンでは重いものは男性が持つのが普通なのにどうしてですか？」

私「多分、日本は力持ちの女性が多いのではないですか・・・。冗談です。(笑い)」

J「私もそう思います。日本人の男性と結婚するということはメイドさんになるということみたいですね。」

<私の所感>

私は日本で生活していたときには正に上記のような状況でした(重い荷物を自分が持たずに家内に持たせるほど酷くはなかったですが・・・)。しかし、ダバオに来てからも日本と変わらない状況が続いていることが問題です。買い物・炊事洗濯などは家内が全てやっています。家内と私の間では阿吽の呼吸(?)でやっていますが、周りの人は変な目で私たちを見ているのだとこの会話を通じて自覚した次第です。自己反省そして自己反省。ちなみに、家内は「私たちはダバオに住んでいるのだからこの人に変な夫婦と見られないようにしなければならぬね。あなた頑張るって」などと言って大喜び・・・。

<座談会の内容>

私「日本人の男性と結婚するのはいやだといいますが、最近フィリピンの若い女性と日本人の中高年齢が結婚するケースが増えていますよね。」

A 「はい。増えています。」

私 「どうしてですか？奥さんではなくメイドになるみたいでいやなんですよ？」

A 「日本人男性と結婚するフィリピン人の全てだとは言いませんが、ほとんどの人はお金目当てだと思います。」

R 「私もそう思います。日本人とフィリピン人が結婚したケースを見ると、出会ってから結婚するまでの期間が短すぎます。フィリピン人同士が結婚する場合、普通は3年や5年間つきあってお互いのことが理解できるようになってからです。益して異国の同士が理解しあえるまでにはもっと時間がかかるはずですよ。」

私 「やはりお金目当てですか？でも、結婚してから愛情が育っていくこともあるのではないですか？」

R 「そういうこともあるとは思いますが、結果としてはほとんどの人たちが別れています。」

私 「愛情が育たないのですか？」

R 「結婚後日本で生活している人たちは長続きするようですが、フィリピンで暮らしている場合と日本とフィリピンで離れ離れで暮らしている人たちの場合、数年後にはほとんど別れてしまいます。」

私 「別々に暮らしている場合は愛情が育ちにくいと思いますが、フィリピンで一緒に暮らしていても別れてしまうのは何故ですか？」

A 「ほとんどの日本人男性はもっと若い別の女性をつくります。それで別れます。」

私 「日本人男性は悪いですね・・・。」

J 「家族を助けるためだとか色々理由はあるとは思いますが、お金目当てで結婚するフィリピン人女性も悪いと思います。結果として別れてしまうし、お父さんとお母さんが悲しみます。」

A 「お金目当てで結婚しても長続きなんてできないと思います。確かに日本人と結婚したフィリピン人は大きな家を建てていい生活をしていてうらやましいと思う部分もあります。だからといって、お金のために全てを我慢していても長続きするはずがありません。」

J 「でも、もしお金持ちでやさしい日本人ならばいやなことばかりでも我慢できるかも・・・(笑い)」

<私の所感>

私はこの話を聞いて、「そのとおり」と納得しました。愛情と相互理解があつてこそその結婚。その愛情がなければ長続きしない。当たり前です。座談会の内容には記しませんでしたでしたが日本人男性に対して次のようなイメージがあるようです。

「お互いのことを理解しあえる期間も経ずにプロポーズするなんて、買い物しているみたい・・・」

<座談家の内容>

私 「話がそれてしまいましたが、その他日本に行ったときに不思議に感じたことは何でしょうか？」

J 「スーツ着てネクタイしている人が自転車の乗っているのを見たときは不思議でした。フィリピン(ダバオ)でそのような服装をしている人は自転車になんか乗らず、運転手付の車に乗るか、またはマイカーに乗ります。」

私 「他には？」

A 「日本語が解らなかつた頃の経験なのですが、スーパーで買い物をしてレジに行ったときの出来事です。レジの係りの人が私の買ったものをひとつひとつ見ながら何かぶつぶつ言っていたのです。私はその人のことを少し頭の悪い人なのかと思い、少し怖かったです。」

私 「急に殴りかかってくると思ったのですか？」

A 「はい。すぐに逃げられるように準備しました(笑い)。」

R 「日本人の友人が会社の社長なのですが、その会社に行ったときの出来事です。会社の中に入ったら

その友人が掃除していたのです。私はその時、その友人は社長だと嘘をついていたのだと思いました。でも、本当に社長だと解ったときは驚きました。どうして社長が掃除するのだろうか不思議でした。」

J 「私が驚いたことは、セクシーな格好をしている女性が多いというだけでなく、セクシーな格好をして自転車に乗っていることでした。下着とか見えているのに恥ずかしくないのかな、と思いました。私たちには理解できません。」

R 「そうそう、そんな格好をしている女性がいるにも拘わらず、男の人たちが無関心なのも不思議でした。そのような格好をしている女性には近寄らないほうがいいと思って無視しているのかと思いました。フィリピン(ダバオ)ではそうです。」

B 「そうかな、俺だったら覗きたいな(笑い)。」

私 「日本の男性も覗きたいと思っていますよ(笑い)。」

～ 他にもいろいろな話がありましたが、限がありませんので中略します。～

私 「最後に、ダバオにロングステイを希望している日本人に対して何かアドバイスはありますか？」

J 「ダバオを自分の町だと思ってくれるようになって欲しいです。」

私 「どういうことですか？」

J 「多くの日本人はフィリピン(ダバオ含め)は危険が多い国というイメージで来るので、リラックスできていないように見えます。ダバオは安全なのに危険だと思っている日本人が多くいることに対して私たちは悲しく思います。危険だと思っているから一人で何もできない。普通ならばできることができない。」

私 「だから、皆さんに頼ってくるわけですね。頼られるのはいやですか？」

A 「そんなことはありません。でも、私たちがいなくなったら困るのはダバオに来る日本人です。私たちと信頼関係はできますが、ダバオを好きになることとは違います。」

J 「ダバオに来たら、まず自分で何でもやってみることが大切です。細かいことでもすぐに人に頼ってしまうとダバオを自分の町と思えるまでに時間がかかります。もし、自分でやってみたができなかったときに初めて人に頼るようになります。ダバオは安全な町なので何でも自分でできると思います。」

R 「私が日本に行ったときのことで。授業がない日は町を探検しました。サインは漢字が多いので、一体自分はどこにいるのか、どっちに行けばいいのか、理解するのが大変でした。でも、それが楽しかったです。新しい経験をしていること自体が楽しかったです。」

A 「ダバオに来る日本人も私たちが日本に行った時のような楽しい経験ができると思います。今までダバオに来る多くの日本人をヘルプしてきましたが、その楽しさを奪っていないか否かいつも気になります。」

私 「つまり、ダバオは安全なので何でも新しいことにチャレンジできる。その楽しさを感じるによってダバオを自分の町と思えるようになって欲しい。ということですか？」

A 「はい。そのために一番大切なことは、ダバオの情報を正しく日本に伝えて欲しいということです。そうすれば、もっとリラックスした状態からダバオ体験をスタートできると思いますし、もっと早くダバオを自分の第2の町にできるとおもいます。」

私 「その他にアドバイスはありますか？」

R 「日本人がまじめなのは理解していますが、ジョークが少ないように思います。もっとジョークを使えばリラックスできるし、楽しい生活が送れると思います。」

」「細かいことをあまり気にしないほうがいいと思います。結果的には何とかかなと思います。もし何とかならない時は私がありますから・・・(笑い)」

<私の所感>

私はこの話を聞いて11月中旬、フィリピン観光大臣のリチャード・ゴードン氏と会合した時のことを思い出しました。その会合にはその他フィリピン側は観光副大臣・フィリピン航空の副社長・退職庁チェアマン、日本フィリピンボランティア協会側は網代正孝会長・内田達男副会長が参加しました。会合の目的は2003年の日本移民100周年(1903年に最初の日本人移民がダバオに来てから100年目に当たる)に向けての意見交換でした。

私たちはその意見交換の中でフィリピン政府サイドに対して、「フィリピンは安全でない国とされているのもっとメディアを使ってフィリピンのイメージアップをはかったらいいのではないか。」と提案したところ、氏は「何故フィリピンは安全でない国と思われるようになったのか?」また、「ダバオとバシラン(アブサヤフの拠点)とは離れていて全く関係ないのに、日本人は何故いっしょにするのか?」と言って反論されてしまった。また、「韓国・台湾・中国などアジア各国からのフィリピンへ来る観光客数は全て前年比アップ(2001年と比較して)なのにどうして日本だけ前年比ダウンなのか?」とも言っていた。

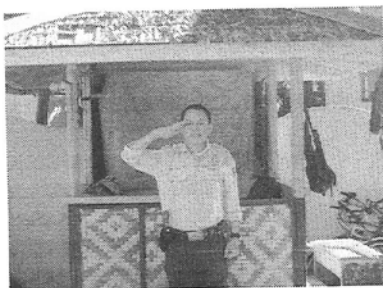
氏のこの発言を様々な観点で捉えることができるが、その中で私が思ったことは「日本へのフィリピン情報の伝わり方の偏り」という点です。フィリピンで起きたテロや誘拐などの悪い情報はすぐに日本へも伝わるが、良い情報はまず伝わることはない。情報の提供者側に偏りがある場合が多いし、受けて側の捉え方にも偏りが多い。さて、どうしたらよいものだろうか。これからの課題である。

ただ、座談会に参加したフィリピン人がダバオに来る日本人に対して「もう少しリラックスした状態でダバオに来たほうが楽しいですよ。」と思っていることは確かなようである。

では、皆様さようなら。ダバオにお越しの際は是非お立ち寄りください。

日本フィリピンボランティア協会では、1997年に日本からのスタディツアーの受け入れ施設としてオープンした、フィリピン体験研修宿泊施設である「マリナオンドミトリー」内に、ロングスティ用の住居(2室)を新設しました。ロングスティ用としてもご利用いただけますが、1週間ほどのショートスティで「ロングスティの模擬体験用」としてもご利用できます。

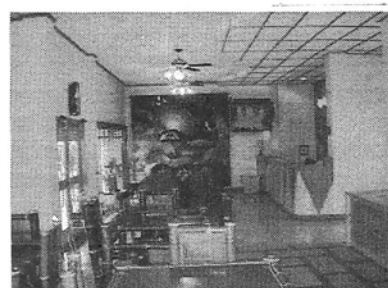
ロングスティ模擬体験用住居を用意しました



24時間体制ガードマン

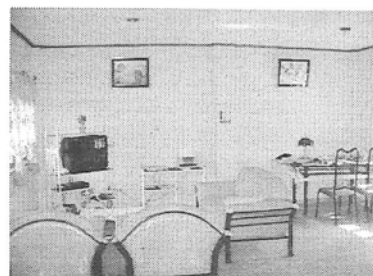


客室棟(LS住居は3階)



ロビー

- 24時間体制のガードマン有。
- 日本人及び日本語の話せるスタッフ常駐。
- ダバオ市中心街まで車で10分。空港まで車で10分。
- スーパー迄徒歩1分。大型スーパー及びコンビニまで徒歩5分。
- ヘルパー派遣制度及び家庭教師派遣制度有り。
- ボランティア活動ご希望の方は紹介します。



リビングルーム

- <設備> 給水タンク完備・フロント・レストラン・水洗トイレ・温水シャワー
- <備品> 冷房2台・ベット・洋服ダンス・リビングセット・冷蔵庫・洗濯機・物干し・ガス台・炊飯器・ポット・各調理器具・食器・テレビ(衛星放送受信)・電話機(ロングスティの方のみ・通話料は利用者負担)



キッチン

1リビングルーム + キッチン + 1ベツトルーム + シャワートイレ (専有面積約67㎡)

<宿泊料金>

1泊(1室当たり) 1200ペソ

- * この料金は2003年末までです。
- * 10連泊以上は20%オフ
- * 1ヶ月以上滞在希望の場合は別途相談が必要です。
- * 最大3ヶ月まで滞在可能。

私の連絡先

宿泊料金等お支払いになった全ての金額は日本フィリピンボランティア協会を通じ貧困集落への医療・教育支援などのNGO活動に使わせていただきます。

Eメール : masamh3@aol.com

電話 : 日本・フィリピン・ボランティア・ファンデーション
(001) - 63 - 82 - 235 - 1865

*日本語の解るスタッフが電話を取り次ぎます

八丈島への移住

八丈島在住 会員 No. 114 井上泰裕

1. はじめに

八丈島はご存知のように日本であり東京都ですから「南の国」ではありません。東京から約300キロ「南の島」と言うだけで、「南の会」の皆様にはさほど興味のある場所では無いと思われれます。

しかしせっかくの機会ですからここに至った経緯をお話し致します。

40歳半ばが近づいた時、体調不良や近い友人知人の不幸が重なり、以前から会社にあった45歳以上の早期定年退職(早早期ですね!)制度を選択しようと思うようになり、「南の会」に加入して情報収集をしながら海外移住を調べ始めました。

私の年齢では年金もありませんし、まだまだ働かなくては食べていけません。ロングステイをするゆとりもありませんし、年金をもらうまでの10数年近くを家族でどのように過ごしていくのか、が当面の課題でした。

フィリピンやアジアの物価、不動産の安さには魅力を感じつつも、海外で職を持つ事の難しさや不動産の取得のリスクが少しずつわかってきました。

家族にも意見を聞きましたが、言葉の問題や食生活の違い、日本との距離や収入の問題などなど。反対がほとんど。如何せんサラリーマンをやりながらの検討ですので、実際あちらこちらの海外現地に訪問する時間がありません。

時期が早く中途半端なのかなあ?と思いつつもながらも会社勤めを継続していました。

2. スキューバダイビング

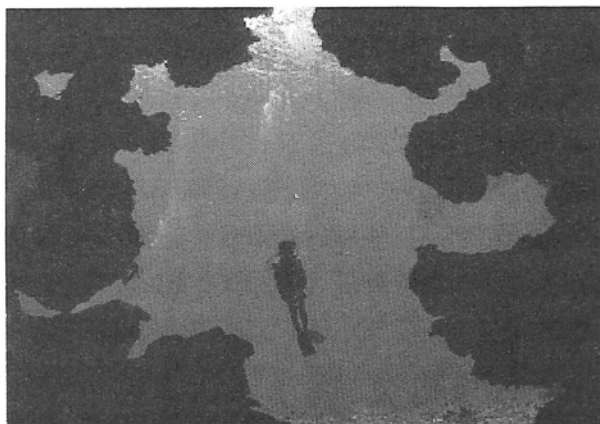
30歳半ば頃から夫婦でスキューバダイビングを続けていましたが、東京からのアクセスの良さや密度の高さで八丈島をホームグレンデにしていたので八丈には50回以上通ってお

り、多少は土地勘がありました。

特に水中写真が大好きで、カメラを持たずに水中に入る事はほとんど無いほどです。盆暮れにはアジアを中心とした海外のダイビングスポットにも行って写真を撮っていましたが、やはり八丈の海は海外を含めてもベスト5に入るフォトフィールドでした。

趣味を生かすためにも海の近くで生活したかったので、海外の、特にアジアの国々の海の近くの場所を検討していました。

日本では通いなれていない八丈島以外は移住対象としては浮かんでこなかったもので、八丈の不動産事情はどうなのかなあ?と調べ始めたのが「南の会」を知った頃でした。



ニューカレドニア(リフー島)のケーブ

3. 八丈島で宿も...

海外へのコネクションもなかなか出来ず、方向が見えない矢先に八丈島から連絡があり、海と山が共存しているような雰囲気の良い土地が見つかりました。

八丈島に通っていて不満があったのが良い宿が無かった事でした(決してゴージャスな、と言う事ではありません)。

現地の宿泊事情や島に居住している人たちに意見を聞いて、居宅と一緒に営める程度の小規模なペンションを家族で計画し、妻の友人の設

計士と相談しながら建設を始めることになったのが2001年の春の頃でした。

運搬のアクシデントもありながら2002年の5月に完成し、同月に家族と共に島に移住しました。会社のほうは3月末で早期定年として退職いたしました。

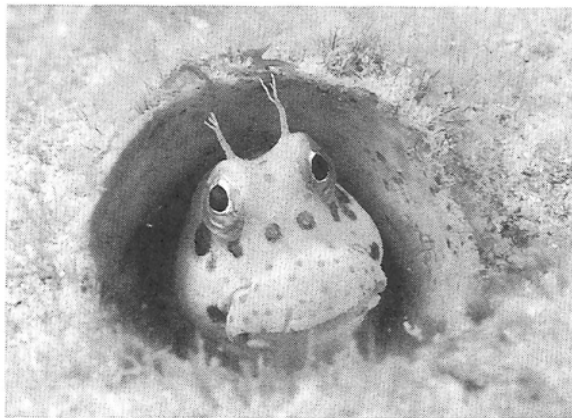
46歳の早すぎる定年ですが、流れやタイミングとしては結果として良かったのではないかと考えています。

当初から思っていた「南の国での生活」とはかなり違う選択になりましたが、東京へ40分の距離感や、勿論日本語である事の安心感等で家族も賛成してくれての決定になりました。

何よりも宿業と言う仕事出来る事が今の年齢ではありがたいことです。

ペンションというネーミングも民宿というのもピンときませんでした。オーストラリアで友人が「ゲストハウス」をやっていたのでそれが気に入って「ゲストハウス」を使い、東に昇る月がとてもきれいに見えるのと、満月の夜に皆が集まって月を愛でながら酒を酌み交わし語り合う。そんな宿にしたかったので「十五夜」とし、あわせて「ゲストハウス十五夜」の名前にしました。

本来のアジアにおけるチープなゲストハウスとは意味合いが違うのかもしれませんが。



サイパンのモンツキカエルウオ

4. 八丈に住んでみて

6月にはプレプレオープンで友人知人が訪れてきましたし、7月オープンからピークを迎え、如何せん慣れないために大忙しの毎日を送り、ゆっくり八丈島の事も探索しないままに秋を迎

えました。

ようやく少しばかりの時間が出来ても、なかなか潜れない毎日ですが、陸上のことや島の事が少しずつ分かってきました。

●緑濃い島です。亜熱帯と言うほど暑くはありませんが常春と言うほうがあたっています。雨も多い所です。梅雨時はかなりの湿度です。だからでしょうか木々の生育が良く、木の香りがあちらこちらに漂っています。

●人が少ない！と感じます。観光地化されていないのです。何処へ行ってもあまり人に逢いません。特に東京から来たからかもかもしれませんが、驚くほど空いています。海も山も。

●昔、どこかで見たことのあるような、記憶の中の原風景と出会う場所が沢山あります。勿論、個人の感じ方にもよりますが、私的には「古きよき時代の日本の景色」と言うのはこういう感じかなあ〜と思っています。

●時間が止まっているようにゆったりと流れています。島に来て3日目に腕時計をはずしました。車の渋滞ありませんので、何処へ行くにしても、ほぼ時間通りです。

太陽の位置を見ながら、飛行機の発着の音を聞きながら大体の時間を認識しています。

●海は黒潮が当たっていると「八丈ブルー」で透明度も25m~30m抜けています。いい時は40m以上になり、サイパン、ロタに近づくほどの抜け方で、気持ちのいい藍色の海です。

しかし、潮がきつい時が多く、沖縄ほどまったりとしていなくて、かなり男性的な海といわれています。

その分フィリピン系や小笠原系の魚が流れ着き、北側の魚や深場の魚も集合して魚種が多く、新種や日本発記録の魚もよく確認されています。珊瑚はあまりありません。

●最近、山に行ってみました。ちょっとしたハイキングコースとしては面白いところがいっぱいありそうです。まだ、あまり紹介されていない為に穴場的な魅力があるようです。

これから少し山を調べようかと思い、インタープリターの講習を受け始めたところです。

●温泉は6ヶ所ほどあり、町営にて有料で運営

されています。温泉付の旅館やホテルは現在ありません。

●郷土芸能として八丈太鼓と島唄があります。太鼓の先生と親しくなり、当宿で時々ライブを行っています。1つの太鼓を両側から上打ちと下打ちでかけあい、すべてその時のアドリブでたたきます。これがなんとも腹に響き素晴らしいリズムの競演です。

●土地は安いのですが(坪1万から5万ぐらい)建築費は東京の2割り増しと思ったほうがいいようです。物価も高く、特に野菜や魚は東京のほうが遥かに安い状況です。このあたりが食事を提供する側としては辛いところですね。



カナリーヤシと八丈富士

5. ゲストハウス「十五夜」

1日4便、40分で到着する飛行機のおかげで、羽田の待合室から1時間後には自宅にいるというアクセスは、とてもとても便利であり、この短時間で都会から自然溢れる島に移動できる事は、ダイビング時に陸上から水中の世界に、マスク1枚で瞬時に世界が変わる事と共通するものがあるような気がしています。

「南の国」へのステップとしての移住なのか、これが「南の国」の最終形なのかはまだわかりません。

しかし、「少しだけ南の島」へ移っただけでも、素晴らしい感動と生活の変化と自然に対しての優しさやありがたさ、逆に台風などの怖さ(特に今年は多かったのですが・・)を知る事が出来ました。

家族全員、やること、やらなければいけないこ

と、やりたい事が山のように溜まっています。とてもありがたいことだと思っています。

ラッキーな事に「十五夜」の家とインテリアやコンセプト(主に妻のプラン)が、【2002年輸入住宅デザインコンペ】において、準グランプリに入賞しました(グランプリは該当なし)。



ゲストハウス「十五夜」のエントランス

外観は洋風ですが内は「和とアジア」のテイストで、のんびりと落ち着けるような空間と色調を目指しました。疲れた体や心を少しでも癒し、ゆったりとした時間を過ごしていただけるように努力しております。客室は畳の部屋です。八丈島にお越しになる機会があれば、是非一度ご利用頂ければ幸いです。

料金は一般のペンション並みで、1泊2食付が8000円です。(指定期は除きます)

決して安い料金ではありませんが、空港や港までの送迎も含まれております。

さらに「南の会」の皆様は、本当にわずかで恐縮ですが、500円割引させて頂きます。

詳しくは電話やファックス、メールでお問い合わせ下さい。

Tel 04996-2-7711 Fax 04996-2-7712

Mail jyugoya@tokyo7.ne.jp

最後は宿の案内になり申し訳ありませんでした。

先日知人が『やめない勇気があれば いつか夢に到達できる』と書いてくれました。 私たちの「少し南国暮らし」は始まったばかりです。

青森県津軽半島からの便り

青森在住 会員 No. 404 大宅清繁

はじめに

この度「南国暮しの会」より新年号に、津軽半島十三湖の別荘利用について紹介して欲しい旨、依頼が御座いましたので、新幹線の青森県開通もあり、都心からちょっぴり身近になった我が故郷を紹介させて頂きたいと思います。

いつも会報を楽しく読ませて頂いている身ながら私にとって、現在海外での暮しは、まだまだ「夢のまた夢」であり、書先輩の「人生の達人」に学ぶべき事が一杯掲載された会報は、知らない世界への入り口となっています。

これから私が紹介する津軽は、「南国暮し」には不向きですが、違う角度から眺めると、少しは魅力的な面も感じてもらえるのではと思ひながら紹介させて頂きます。

津軽について

津軽のイメージがテレビの影響で「暗く、もの悲しく、寂れて、何処からともなく三味線の音が聞こえてくる」なんて考えている若い人もいますが、そんな事は2年に1回しかありません。ただ、これだけは言えると断言出来ることは、「津軽の人は純朴で温厚な性格」と言う事です。また治安の心配もありません。

私の住んでいる村で、玄関に施錠している家は軒がないと思ひますが、泥棒が入った話も聞きません。

都会より時間の進み具合がずーっと遅くてノンビリしています。ちなみに私は東京へ行くと、電車から降りるのがノロくて、一駅乗り過ごす事が良くありますが、しっかり津軽の血が流れていると、妙に納得して帰ってきます。

別荘について

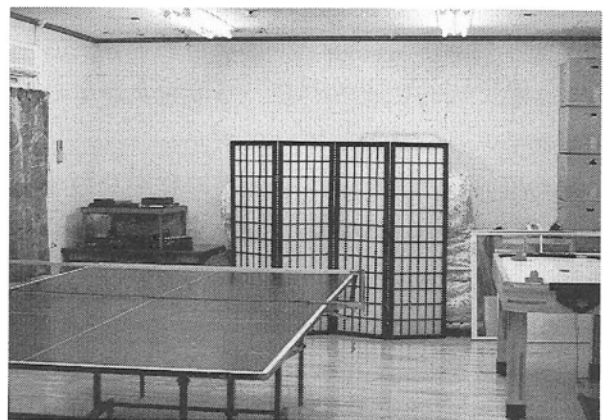
今回の本題である別荘についてですが、位置

的には十三湖の北側3Kmの所で、日本海が目の前に広がります。天気の良い日は、泣きたくなるほど夕日が綺麗で、オレンジ色が目に染みて来ます。

別荘の裏には「もや山」と呼ばれる標高300m程の山があるんですが、日本のピラミッドではないかとミステリー番組に何度も紹介された、不自然に急斜面の山がそそり立っています。子どもの足で登っても20分もあれば、頂上に着きますが、その景色は七里ガ浜や十三湖が一望出来る絶景の穴場となっています。

今は真冬の日本海の、荒々しく、冷たい、白い景色を堪能出来ます。私は都会の人は、是非荒れ狂った日本海の景色から、厳しい自然を肌で感じることも非日常の旅を味わう意味で、大変面白いのではと思っています。

また、寒さに対抗すべく、温泉が車で2~3分の所にありますので、湯っくりに温まる事が出来ます。それと、昨年より海水を温めて入浴し、心身のリフレッシュを図る事を目的に建設された「タラソセラピー」が別荘から歩いて4分位の所に出来ました。「シーうらんど海遊館」という名前で、全国で3番目の施設と聞いています。



卓球台のある大広間

別荘の設備ですが、部屋が4部屋あり、18畳の大広間には卓球台が置いてあります。

洋室8畳、和室が6畳で2部屋あり、10名程度は宿泊可能です。水洗トイレ、ユニットバス、そして食器等日常生活に必要なものはすべて揃えてありますので、近くのスーパーで食料さえ調達すれば、何日でも過ごす事が出来ます。平成3年建築ですが、2年前にクロス等の改装をしましたので、下手なホテルよりは快適に過ごせると自負しています。



キッチン

いろいろな情報を教えてください

全国の「南国暮らしの会」の皆さんも少なからず青森に興味のある方がいらっしゃるのではないのでしょうか？

世界遺産の「白神山地」や太宰治の生家である「斜陽館」遠くは「十和田湖」や「恐山」。

そして夏祭りの代表「ねぶた祭」など見所が一杯です。是非青森へ旅行したいと思いましたが、私どもの別荘を利用下さり、私どもにも全国や世界の様々な情報を教えてください。

休日であれば、ノンビリ屋の私どもで良ければ案内も出来ます。

ただ、大変申し訳ないんですが、光熱水費やシーツのクリーニング代として一日5千円いただいておりますが、1週間単位だと一日4千円に割引いたします。退職して悠々自適の生活を送られているご夫婦には特にゆっくり出来る場所と考えています。5人で宿泊すれば、わずか一人千円の負担で済みますので、是非お仲間でご利用下さい。青森を誠心誠意紹介させていただきますとともに、全国の仲間の中に、私どものような使い方の出来る建物が御座いましたら、是非

非情報として教えてください。

何時かはきっと叶うであろう、世界へ飛び出す前の小さな冒険を楽しみたいと思っています。



津軽十三湖別荘

十三湖別荘・住所

青森県北津軽郡市浦村大字磯松字赤川3番82

交通機関

JR青森駅より（五能線）JR五所川原駅、
五所川原駅より弘南バス小泊線にて…

市浦村（脇元）保育所前下車→目の前です。
五所川原より保育所前まで3.5kmくらいで
時間は45分程度です。

連絡先 TEL・FAX 0173-42-1633（大宅）

「南国暮らし」の夢に向かって、ひたすら南の国を目指すのも楽しいですが、それが海外でなくとも、人生を思いっきり楽しくエンジョイする…という、基本的な姿勢には何等変りはありません。

会員の皆様に、より親しく、楽しく交流を深めて頂けます事を願ひまして、今回、八丈島の井上様のゲストハウス・十五夜と津軽十三湖、大宅様の別荘のご紹介を記事に加えさせて頂きました。

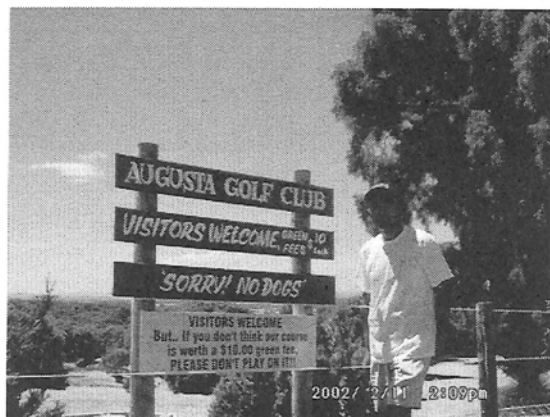
ダイビングにチャレンジされたい方は是非八丈に…（南国暮らしの楽しさ倍増ですよ！）
また、日本海の夕日を眺めながら、温泉につかつてのんびりされたい方は津軽へ…

皆様、一度いかがですか？

English for Golf (ゴルフで使う英語)

埼玉県在住 会員 No. 315 鈴木 剛

昨年から今年にかけて西オーストラリア州パースに滞在中しゴルフを堪能してきました。ご存知のようにパースはゴルフ環境に大変恵まれたところでゴルフ場の数、コンディション、料金の全ての点で満足のいくものでした。



余裕を感じさせるゴルフ場の看板

パースの借家から歩いて15分のところのゴルフ場にほぼ毎日のように通うようになりました。最初は見ず知らずのオーストラリア人とプレーすることになるのですが、複雑な英語は必要とせずコミュニケーションがとれます。そのうちに彼らの使っている英語に興味をもつようになり滞在中にゴルフで使う英語をまとめてみましたので紙面を借りてご紹介させていただきたいと思います。

私は英語の専門家でもありませんし、在職中はマルドメ(まるでドメスティック)でした。正しい英語であるかどうか自信はありません。会員の中には英語が堪能な方が数多く居られますが、恥を承知で掲載させていただきました。ちょっとした会話がゴルフを一層楽しくし、友達作りのきっかけの一助にしていだければと思います。

1. ティーグラウンド

一緒にゴルフをしませんか?

Let's play golf together?

Shall I join up?

このコースは始めてなので教えてください

Let me know about this course because this is my first time here.

お先にどうぞ

Please play though.

After you.

どっちの方向に打ったらいいですか?

Where should I aim?

グリーンはどこですか?

Where is the green?

右ドッグレッグですか?

Is it a dogleg to the right?

向かい風が吹いています。

It is into the wind.

It is against the wind.

The wind is blowing against me.

距離が長く難しいコースですね

It is a tough course because it is long.



こんな小さな子供もゴルフを楽しむ

2. ショット

ナイス ショット

Fine shot.

Lovely shot.

いいショットをしましたね

You've made a good shot.

That was good shot.

飛ばしましたね

You hit a long ball.

ボールが右に曲がった。

My ball sliced to the right.

ボールが林の中にはいった。

My ball is in the tree.

250メートルくらい飛んだ

I hit it about 250 meter.

3番アイアンで打った。

I hit a three iron.

あ、空振りだ

Oh, the air shot

Oh, that was windy.

よくアプローチでダフる

I often duff approach shots.

I often hit fat shot.

ダフリの直し方を教えてください。

Tell me how to cure my fat shots.

大きなフック球を打った。

I hit a big hook.

セカンドショットでトップをしてしまった。

I topped the second shot.

肩を充分回さなくてはならない

The shoulders must fully turn on the back swing.

左足に体重を移動させなくてはならない。

The weight must transfer to the left leg after contact.



体育の授業で高校生にレッスンする Neil さん

3. ラウンド中の会話

ハンデキャップはいくつですか？

What is your handicap?

いくつぐらいでまわりますか？

What you do go round in?

だいたい90台でまわります。

I usually go round in the nineties.

9番でバーディーをとった

I got a birdie on the 9th.

今日は風が強い

It was strong wind today.

パー4だけど、かなり難しいホールだ

It's a par 4 but it very tough.

スリーオンするつもりです。

I'm going to get on in three.

ここは打ち上げですね

The fairway is up hill.

ここは打ち下ろしですね

The fairway is down hill.

バンカーだ

I am in a bunker.



世界一大きいバンカーからのショット

池にいれた

I hit the ball into the water hazard.

ワンペナ払ってドロップするよ

I'll take one-penalty and drop the ball.

このホールはわずかに右にカーブしている。

The hole is slightly curved to the right.

ナイスオン

Good you are on.

残念、グリーンをはずしたね

Shame, you missed the green.

パーオンだね

You are on in regulation figures.

オンしたようだ。

It seems I'm on.

ピンそばだ

You are dead to the pin.

平坦なグリーン

Flat green.

受けグリーン

green sloping towards you.

順目

It' s with the grain.

逆目

It' s against the grain.

カップまで5メートルだ

It' s about 5 meters to the cup.

球がカップ1インチ手前で止まった。

The ball stopped an inch before the cup.

ボールがカップをなめて入った。

The ball lipped in.

ちくしょう、蹴られた

Gosh, The ball was in and out.

ボールがカップの縁に止まる

The ball is sitting on the edge of the cup.

どっちが遠い

Who is away?

OK です

It' s gimmy

おいしい

That was close.

Pity

止まれ

Stop

Stay

しまった

Rubbish

3ヶ月の滞在中は、午前中のハーフラウンドが日課でした。ゴルフ場での毎日の挨拶代わりに英語は、I' ll break 40 today. (40を切るぞ) でしたがどうしても切る事が出来ませんでした。次回こそと思っています。

メーリングリスト・ミニ情報

ペナンの石原、495番です。先日、松江の加藤さんからペナンとクアラルンプールで開催されます津軽三味線コンサートの件で皆様に連絡がありましたが、私からも若干追加させて頂きます。

今年の8月頃加藤さんから津軽三味線のコンサートを通じて日本とマレーシアの文化交流をしたいと相談を受けまして、私も大変良いプロジェクトと思いまして、出来る限りのお手伝いをして来ました。加藤さんがマレーシアで退職者ビザを約3年前に取得し、日本と行ったり来たりの日々を始める中で、お世話になったマレーシアの人達に恩返しをしたいと言う真摯な気持ちがある事を知りました。海外でのロングステイや移住を実践する人達に取って、現地の社会に溶け込む事、現地の社会に何らかの出来る還元をする事は非常に重要だと思います。最近、海外ロングステイを実践する人が増えて来て、ただ海外の安い物価や暮らしやすい気候に目を付けた”良いとこ取り”の考えが先行して来ている気がします。横柄な態度で海外生活する日本人が増えるのではとの危惧も出てきます。

今回のコンサートを開催する団体のレベルが高い事と加藤さんの熱意により、ペナン州政府、ペナン日本領事館、クアラルンプールの日本大使館やPAMAJAと呼ばれる日本で研修を終えたマレーシアの公務員の組織が全面的に協力してくれる事になりました。私と加藤さんはこのイベントを南国暮らしの会の文化交流の一プロジェクトと考え成功させたいと思っています。このようなイベントは現地の人が喜び、日本文化に興味を持つきっかけになるのではと思います。来年の2月11日がペナン公演で、2月13日がクアラルンプールの公演です。もしこの時期にペナンならびクアラルンプールにお出でになる南の会の方がおられましたら是非公演にお越し下さい。(入場は無料です。)主催者の方で、ビデオも取る予定ですので、後で皆様にお見せ出来ると思います。宜しく御願います。

コンサートの情報は68ページに掲載されています。併せてご覧ください。(編集部)

東南アジア諸国見聞録(その3 ラオス)

埼玉県在住 会員No.40 平澤 信

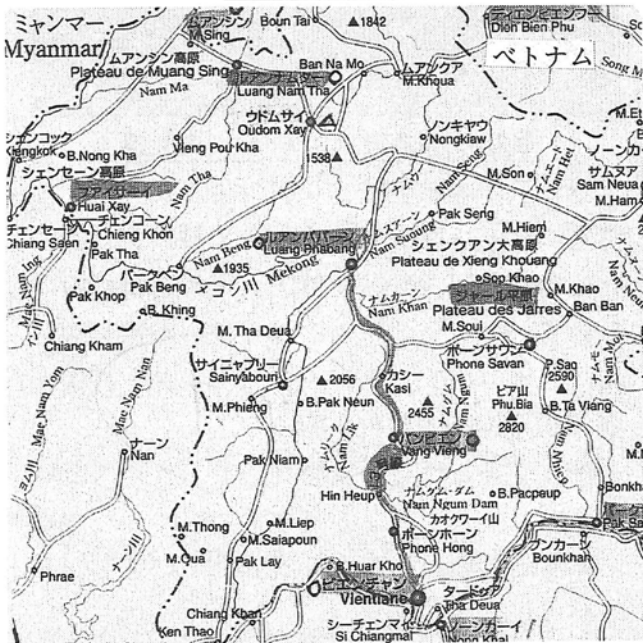
VISAと旅日程等

バンコクのツーリスト・オフィスでラオスのVISAを取得した。15日間750バーツ(2,325円)。急ぎの場合は3日程度で取得できるが料金は倍近くになるとの事。

ベトナムのハノイからラオスのビエンチャンへの片道航空券もバンコクで購入した(ベトナム航空)。2,630バーツ(8,153円)。

ラオス国内は、ビエンチャンからラオス最北端のムアンシンまで主にバスで縦断の旅をした。

ラオス旅の地図



貧相な首都ビエンチャン

「黄濁色の豊満な水を湛えたメコンのほとりの貧相な首都(遙かなるラオス・窪田初枝著)」。私のガイドブックに書かれているビエンチャン紹介の書出し文である。この文章が示すとおり、確かに絢爛豪華に見える物は何一つない。世界最貧国の1つに数えられる国らしい。質素を通り越しているようにも見える。しかし、初めての訪問地なのに何故か懐かしいような、愛しいような不思議な感覚に襲われた。旅に出る前は、正直なところラオスがどの辺に位置していて、どんな国なのか殆ど知識がないままの旅立ちであった。

ハノイの空港を離陸したのが3月3日(日)11:50分。ラオス・ワットアイ国際空港まで1時間足らずで到着した。短いフライトなのに、軽い昼食も出され気分良くラオスへ入国した。本当に小さな可愛い国際空港であった。

ラオスでは自国の通貨に対する信用が不安定なため、USドルの小額紙幣のほうが遣い易い、「どんなに小さな屋台のような店でもドルが通用する」と言われているが、ラオス国内では1ドル以下の単位がないため、全ての商品が1ドル以上になってしまうので、これでははかりもつたいない。

大金持ち気分

ラオス・キップを少しだけ両替しようと空港の両替所に出かけたものの、一体どのくらいが適当なのか悩んでいたら、アメリカの初老の夫婦も相談中だったので、この2人の両替を参考にしようと思った。彼らは100ドル(13,500円)両替していた。すると私は50\$ (6,750円)か、と思っていたら、何と彼らの前に出されたラオス・キップは小山のようにならずたく積み上げられ、財布は勿論、ウエストバッグにも入らない札束であったため、苦笑しながら背中リュックにしまい込んでいた。ラオスのインフレは本当に激しい。慌てた私は急遽、20\$ (2,700円)に金額を変更した。それでも持っていたショルダー・バッグはパンパンで大金持ち気分。ラオスの通貨名はキップ。1円が約71.4キップだから、事ほど左様な分量となる。2,700円で金持ち気分になり、1人悦んできて空港内を出口へ向かって歩いていたら、ここで雲助タクシーに捕まってしまった。市の中心までタクシーで15分25,000キップ(357円)のところ、5\$ (675円)と倍近い料金を取られた。日本のタクシー料金とほぼ同額だ。またヤラレター!気分がワクワクしていたので、タクシー料金の事前確認を忘れていたトホホ。小腹の

立つことこの上もない。でも私の油断だから仕方がない。だんだんケチになっていく自分にも驚く。

宿探しが面倒だったので、ガイドブック掲載の8\$ (1,000円)の宿に行ってみる。何となく不潔ぽくて、従業員の内も荒んだ感じだったので、もう2ドル奮発してタクシー運転手推薦の10\$ (1,350円)の「シーホン・ハウス」に泊まる事にした。運転手は客を連れて行くとホテルからバックマージンを貰えるので、客がOKするまで宿探しに付き合ってくれる。

木造建ての落ち着いた感じとフロントマンが丁寧で感じが良かった事が決めてになった。ホットシャワー、バスタブ、エアコン付き。ただし、バスタブの栓が壊れていて使うことが出来ず、シャワーのみ使用可能であった。

南国では、バスタブの壊れていることを追求してみても始まらない。

見渡す風景は田舎風だけど、ここはやはり首都、物価だけは思いがけずちょっと高めだ。荷物を整理して、フロントへ行くと東洋人の女性2人がラオス語で「フロントの人はどこ？」と聞いている。私は「裏庭にいますよ」と英語で教えてあげた。「有難うございます。日本からですか？」ときれいな「日本語」で返事が返ってきた。ラオス人かと思っていた人達が、実は日本人のOさん達姉妹だった。驚いたことにラオス人と日本人は本当に雰囲気似ている。「お姉ちゃん完全にラオス人に間違えられたね～」と妹さんの方がたいそう喜んでいつまでも笑っていた。お姉さんの方は、青年海外協力隊で5年。そして今度はJICA(国際協力事業団)の職員として5年、通算10年間をラオスで過ごしているとの事であった。だからビエンチャンには友達も多く、母国にいるように生き生きしている。

誘われるままに彼女らと3人で街へ繰り出した。楽しく夕食を取りながらラオス事情についての教を賜った。ラオスについて何の予備知識も持たない私であったが、一夜にし

て消化不良を起こすほどの知識が詰め込まれた。「ビエンチャンは物価が高いから、早く地方に行った方がいいですよ」と彼女からもアドバイスをいただいた。ラオスは列車が走っていない国なので、飛行機かバスの旅となる。若者はバスを乗り継いで何処までも行くが、私は若くないしラオス縦断の長旅なので、片道だけ飛行機に乗る事にした。



貧相な首都ビエンチャンの大通り

翌日ラオス航空で、ルアンナムターまでの航空チケットを購入に出かけて驚いた。ここも社会主義国、やはり外国人専用窓口が設けられていて、ラオス人の約3倍の料金を取られた(ビエンチャン→ルアンナムター片道料金は81.25\$ (10,969円))。

決して安くはない金額だ。でもラオス航空の女性が、どことなく日本人に似ていて親切であったためか、あまり腹立たしい感じがしなかった。

最果ての空港ルアンナムターへ

3月5日、つい2~3日前に降り立った国際空港隣りの国内線乗り場へ。

ここでマア飛行機が発着できるのかしら？ 素人の私でも気を揉むほどの小さな飛行場であった。ゲートの所で、ラオス航空のマークを付けた日本人スタッフの方に「ハイ日本の方はこちらへどうぞ」と声を掛けられた。

こんな馴染みのないラオスで就職されたとは何と言う驚きであろうか？ 私は開口一番その事を質問して見た。「私は日本航空から派遣されたJICAの職員で、技術協力で来ています。」とHさんは自己紹介してくださっ

た。列車は走っていないが飛行機は飛んでいると言う不思議な国だ。Hさんに“この国の航空技術は大丈夫なのでしょうか？”と日本人のよしみで立ち入った事を聞いてみた。H氏曰く、ここに赴任した時ラオス航空の担当者から「皆さんのご祖先さまに教えると思って航空機のイロハから教えてやって下さい」と言われた由。飛行機の離陸時間まで30~40分ここでの苦労話や、仕事のやり甲斐等について伺った。彼は観光客の私が、間違いなくラオスの古都ルアンパバーンに行くと思っただけで「ルアンパバーン行きは大丈夫です。ちゃんと飛行機の整備がしてありますから」と教えてくれた。私がルアンナムターへ行く事を告げると、彼は驚いて「私は6年ラオスに住んでいるけどルアンナムターは行ったことがありません。あんな所に何か面白い事でもあるんですか？」と笑われた。

だが入ってきた飛行機は新品の様に銀色に輝いていた。ホッとしてVサインを出すとH氏は「飛行機は新しいのですが、殆ど整備されてなくて…」と申し訳なさそうに言った。では、私はどうすればよいのか？かかりつけの神様を持たない我が身としては、こんな時本当に困る。しかし、ビエンチャン→ルアンナムターは大自然の上空を快調に飛行し、すっかり神頼みの事は忘れてルアンナムターに着陸した。きっと日本の「やおよろずの神」が守ってくれたに違いない。

この飛行場、ぺんぺん草が生えていて、掘って立て小屋のようなトイレや草葺屋根の食堂・喫茶室等がまた実に楽しい。決して嫌な雰囲気ではない。

飛行機の離着陸の時だけ従業員が数人来て対応するという極限の質素さは「侘び」の世界そのものだった。

街の中心へ出るのには待機しているトラック・バスかバイクで20分ほど。順調に着いたので予定を少し変更して、その日のうちにラオス最北端の憧れの街、ムアンシンまで行く事にした。

母さん主導の「ほのほの家族」

バス発着所で時間を確認すると「2時発」という事なので、昼食を済ませてのどかな待合所へ行き、現地の人達とニワトリ、七面鳥、犬達と共にバスを待つ。私が「ムアンシンへ行くバスはどこですか？」と騒いでいるのを聞いて、目鼻立ちのはっきりした3人の子連れ母さんが“私達もムアンシンへ行くから、そこへ掛けて待ちなさいよ”とラオス語で言った。私にラオス語が解った訳ではないが、子連れ母さんのボディ・ランゲージでよく分かった。“よろしくお願いします。”と私も日本語で礼を言った。だが2時になってもバスは所定の位置に入っていない。何かの間違いか？と思って再度発着所で確認すると、今度は「3時」だと言う。「さっき2時と言ったでしょう？」とイラだつ私に「いや3時だ！」と向うは涼しい顔をしている。居合わせたアメリカ人が、「貴方は1時間遅れでもバスに乗れるからいいよ。私達も2時と言われてやって来たら今日は出ないと言われたから、もう1泊しなければならぬ」と憤懣やるかたないと言った風情でバス停を出て行った。

我々は旅人なのだから、その土地の習慣に従うのがマナーではあるけれども、いささか不都合が生じる事が多い。バスの発車が2時から3時に変更になっても先ほどの子連れ母さん一家は置物のようにジッと同じ位置で待っている。変更になった事さえどうでもよい事のようなのである。

私が最初にここに来たのが、12時頃であったから、既に3時間近くここで待っている訳だ。3歳の息子だけが時々むずがっていたが、母さんは素知らぬ振りをしている。父さんの方が、かいがいしく荷物からビニール袋に入ったステッキ・ライスと小魚の煮付けを取り出して子供に食べさせたり、胡瓜を買ってきて与えたりして、誠に微笑ましい風景であった。どうも母さんの方が外交担当らしい。2時30分ラオス名物のトラック・バスが入

ってきた。今度は順調に事が運ぶらしい。この時30歳代半ばくらいのモス・グリーンの巻スカートをはいた車掌さん(?)らしき美しい女性に確認したら、バスに乗って待つようにと指示があったので、一番前の席を陣取って待つ事30分。やっと待ち焦がれたムアンシンへ出発の運びとなった。

少数民族の宝庫ムアンシンへ

日中の暑い時間、ペットボトルを片手に涼風を受けながらのバス旅は快適であった。しかし、それはほんのつかの間で、山道にさしかかると体ごとバスの外に放り出されてしまいそうなほど前後左右上下に揺れた。こんなに長く生きている私でさえ、この揺れは初めての経験だった。いつ舗装されたものか、道路にコンクリートが少し残っているところもあり、それが返って道路事情を悪化させている。道路の随所に直径1メートル以上もある穴があいていて、バスはその穴を除けながらでこぼこ道をひた走る。私は持っていたペットボトルの水を飲む事さえ困難な状況であったが、現地の40がらみのおばさん達2人は、こんなに揺れるバスの中で荷物の中からお皿を2枚取り出して、テーブル兼食器にして、食事を始めたのである。ご飯と小魚・野菜の煮物であった。大揺れに揺れるバスの中で器用に指先で混ぜ合わせては口元に運んでいる。あまり見詰めるのは良くないと思いつつも、自然に2人の方へ眼が行ってしまう。食べている2人と目が合ったら、“おひとつ如何”と言ってお皿を差し出された。余ほど私が食べたそうに見えたのであろうか? 慌てて「いえいえ結構です」と日本語で言って手を左右に振ったのだが、「遠慮するなよ」とばかりに、かなり執拗に勧められた。バスの乗客もこの様子を暖かな笑顔で見守ってくれた。

後で聞いた話だが、ラオスは貧しかった時代、少しの食べ物も皆で分け合って食べる習慣があると聞く。だから、物を食べるときは必ず傍にいる人に勧めるのがマナーとのこと。

だからジーと見ている私は旅人と言えども勧めない訳には行かなかったようだ。

このバスの外国人は私1人だったので、乗り合わせた人達も物珍らし気にチラチラ私を見ている。眼が合うと恥ずかしそうに視線を外す。こんなシャイなところは、かつての日本の風土に似ていないだろうか? 2時間くらいバスが走ったところで、子連れ母さん一家が降りることになった。「私達はここで降りるけど、ムアンシンはもう少し先だよ」とまたボディ・ランゲージで教えてくれた。私達は固く握手をして別れた。子連れ母さん一家の住む「ほのぼの村」は、竹で編んだ高床式の家々が建ち並ぶ30世帯くらいの集落で、竹やぶと雑木の生い茂る、この世の物とは思えないほど美しく、涙が出そうな風景であった。肩を寄せ合って家路を急ぐ彼らと一緒に歩いて行ってしまいたい衝動に駆られた。長旅で人恋しくなっていたのであろうか?

驚きのラオス女性の小用

バスの小休憩の時、モスグリーン巻スカートをはいた例の美人車掌さんが、トイレのためバスを降りた。ただ、バスの乗客の全員が見えるところで、ツンツンと巻スカートを少し持ち上げ、そのまま中腰で小用を足し始めたのである。私は大慌てしたのだが、他の乗客は誰も気にしていない。しかも用便の途中で運転手が彼女に何か話し掛けている。彼女も振り返ってそれに答えながら用を足している。そして終わるとまたツンツンと巻スカートを元に戻しておしまい。この車掌さんがあまりにも美人であったため、息を呑む出来事に思えた。皆がそうするのかと言えばそうでもなく、乗客の見えないところへ走って行く人達もいた。

日本でもその昔、京都辺りでは「肥桶」を道端に出しておいて通行人に用を足してもらって肥料として使った。と言う話は聞いた事があるが、目の前で女性が立ったまま用を足す姿を見たのは初めてだ。

ムアンシンまでバスは更に2時間掛かって到着した。

ムアンシンの宿

3月6日。お伽の国へ迷い込んだような大自然の中の集落、旅人の心を癒してくれる優しい風景だ。

竹で造られたこの地方特有の宿の場合は、宿賃15,000キップ(210円)くらいからあるが、原則として水シャワーのみ。泊まっている日本の若者に住み心地を聞いて見たら、「眠ってしまえばどこも同じですが、個室とはいっても、相手が見えないだけで、隣の人のイビキは勿論、屁だって聞こえます…」とのことだったので、私は村はずれの比較的上等なロッジ風の宿に決めた。1泊5\$ (675円)。お湯のシャワーはないが、宿のマダムが毎日ポットにシャワー用のお湯をサービスしてくれる。ただし、電気は1日3時間、午後6時半から9時半までしか点かない。ローソクを1本づつくれるが、本を読んだりするには少し暗すぎる。第一ローソクの減り具合が気になって読書などとてもしていられない。毎日急かされるようにベッドに入った。

夜明けと共に市場が開き、そこへ朝食を食べに行く。ご飯(ステッキ・ライス)1,000キップ(14円)、牛肉の煮付け2,000キップ(28円)、野菜の煮物2,000キップ(28円)。トマト・胡瓜1,500キップ(21円)。これが私の日常の食事である。フランスパンやお粥、ラーメンの類も良く食べた。タイよりもベトナムよりも食事は更に美味しいと思った。



ムアンシンの市場

市場では、毎朝色とりどりの民族衣装を身に着けた部族を見ることができる。民芸品や野菜・果物、山鳥、豚、鶏を売りに来る人で賑わっている。ここでも又見てしまった！ネズミが売られていた。だが、スーパーの市場で犬を見た時のショックはない。ネズミは食べるに値する動物と言う事か？でもやっぱりゾロツと並べられたネズミを見ると哀れな気がする。昼近く、商売が終わると彼らは大型トラックにすし詰め状態に相乗りして、それぞれの集落に帰っていく。カメラを向けるとトラックはスピードを落とし、人々は大はしゃぎで手を振ってくれる。

大通りを自転車でちょっと入れば、完璧にタイムスリップしたムアンシンの人々の生活が見られる。草で編んだ(?)のような家々には勿論、電気・ガス・水道は見られない。でも、そこに住む人々はみな素朴で人懐こく晴れやかな顔をしていた。

懐かしい原風景ウドムサイへ

ウドムサイはルアンナムターからバスで4時間。昨夜降った雨のため、南国と言えども朝の気温は14~15℃しかなく肌寒さを感じる。トラックバスの荷台では風邪を引くと思ったので、早めにバス停へ出掛けて、運転手の隣の助手席を確保した。運ちゃんに袖の下(ワイロ)を1\$ (130円)払った。他の乗客は風をよける物さえ無いトラックの荷台に乗っているとお考えください。夏の服装で短パンなので、寒さのため口唇が紫色になっていた。



お風呂代わりに行水をする子供達

誰もとがめだてはしないのだが、私だけ上手く立ち回ってしまった事が何となく居心地悪い。大きいツツラを独り占めした「舌きりスズメのおばあさん」になったようで気が引ける。天気が回復して気温が高くなるまで後ろめたい気持ちであった。こんな時は皆と一緒に震えているべきであった。

ウドムサイには普通日本人は宿泊しないで、ルアンパバーンまで一挙に行ってしまう距離なのだが、時間長者はここでも下車してみた。結論を言うと下車してみて本当に楽しかった。

竹で編んだような高床式の集落を通り過ぎると、谷底を清流が流れていて、そこに掛かる吊り橋を老婆が1人ゆっくり渡っていく姿は日本画の「山水図」の世界だ。日本ではもう見る事も稀になったが、踏みしめられた赤土の道はしっとりして足に優しくかった。



踊る中国歌舞伎のスター達

今夜行われる「中国歌舞伎」のスター達が、鐘や太鼓をたたきながら、村じゅうを踊り歩いている。日本では硬派で通っている私だが、この日は誘われるままに一緒に道を練り歩いた。こうして人は皆旅をして非日常的なものに触れ、心をリフレッシュしているような気がする。子供の頃、越後のゴゼさん（盲目の旅芸人）の後ろについて歩く私を見て、母が私の服を引っ張って辞めさせた事を思い出した。ラオスの田舎で私の服を引っ張る人はいない。だから笑いながら心行くまでスター達と一緒に道を練り歩いた。

ムアンシンやルアンナムターの宿代が安く済んだので、ここでは一番大きいと言われて

いる「シントーン・ホテル」の朝食付き 15 \$ (1,950 円) に泊ってみた。驚いた！部屋の広さが 50 m²くらいある。耐乏生活にすっかり馴染んでしまったわが身にとってはもったいない気がして仕方が無かった。「こんな立派な部屋は要らないから、もっと熱いお湯を沢山出し欲しい！」が実感だった。

「日本英語」は通じない？

ホテルのロビーで日本人男性に声を掛けられた。彼は定年退職したての 65 歳の I さん。家族と離れて 1 人長旅を楽しんでいるとの事。プロのカメラマンかと思うほど立派なカメラを 3 台も持っている。彼が“このホテルのフロントは全く英語が通じない。若い娘はまだしも。特に男がダメ…。おたく大丈夫だった？”と言う。私は、「部屋がありますが？と、もっと安い部屋はありませんか？と、朝食付ですか？」くらいの会話なので支障はありませんでした。と答えると、“それが通じなかった。待っていて下さい。これから飛行機の予約の再確認をしますから…”と言ってフロントの電話を借りて「リコンファーム」を始めた。聞いていて今度は私が驚いた。私は日本人なので、彼が日本語と英語らしきをチャンポンに話している内容はよく分る。でも、電話の相手もフロントマンも彼が英語を話しているとは思っていないようだった。電話の途中で航空会社の人、フロントマンに替わってくれるようにと言ったらしく、予約の再確認は I さんの航空券を見ながら、フロントマンが綺麗な英語で彼が言うべき事をなぞっていた。私も語学のことでは人様をとやかくは言えないのだが、彼があんまり真剣に英語が通じないと言いつづけているので、「笑って誤魔化す」しかなかった。こんな時、本当はどのように対応すれば良いのだろうか？

こんな人に限って「ラオスの田舎は英語が通じない」と日本に帰って言うに違いない。

人種差別をしっかりと見たぞ！コ/ヤロー

3月9日。朝もやの中をバス停へ。早朝と

言うのにいろんな国籍の人達で賑わっている。

このバスの8割くらいが観光客。ここからは一応観光バス風の路線バスに格上げされている。ルアンパバーンまで所要4時間30分。バス代20,000キップ(286円)。この日はラオス観光のハイライトである古都ルアンパバーンへ移動の日。

過日の寒さとは打って変って日差しと共に猛暑が戻ってきた。バスに冷房はなく、1座席2人掛けが精一杯の広さのシートに乗客が多かったため、3人ずつ掛けさせられた。通路も満杯。

窓は開け放たれているのだが容赦なく熱風が入ってくるため、ペットボトルの水がお湯になったかと思うほどの猛暑。摂氏50℃以上はあったと思う。1時間も走らないうちに暑さと人いきれで乗り物酔いの人が現れた。フランス人と思しき若い女性。旅人同士お互い様とばかりに、早速風通しの良い前の席に西洋人の男性が席替えしてくれた上、酔い止めの薬だの、背中をさすったりとレディファスト振りが発揮された。

続けて今度はラオス人のおばさん達2~3人。ぐったりして今にも吐きそうな気配。顔色も真っ青で苦しそう。だが、西洋人ども、この様子は全く目に入らないらしく、誰1人声も掛けない。それだけならばまだしも、ゲージやっているラオス人に「うるさい!と言った目つきで、西洋人同士が目配せして笑っている」一体何なんだこれは…! 我々旅行者が多く席を占領しなければラオス人はゆったりと旅ができて、乗り物酔いにならずに済んだかも知れないではないか!

トラベルミン(酔止薬)大放出

かつて私も酷い乗り物酔いに悩まされた1人なのでその苦しさは身にしみて分る。まだまだ続く自分の長旅を考えると少し不安もあったが、持っていたトラベルミンを全部放出してラオスの人達を助ける事にした。“おめら、どけどけ人種差別をしっかりと見たぞ! フランス女を助けられても、世話になっているラオ

ス人を助けられないとはどう言う訳だ!”と日本語で西洋人を罵りながら、“30分待って楽になるから”と薬を配って歩いた。日本人は私1人なので、罵詈雑言の意味は誰も分らなかったと思うが、私の怒った雰囲気でおおよその察しはついたと思う。バスの中を私が薬と水を持って行き来すると、すぐさま満員の通路がサッと空けられたことで充分意味が通じたと感じた。

ムアンシンのロッジ風の宿から、ずっと同じ日程で旅をしているアメリカ人の学者風のおっさんとバスの終点でまた一緒になった。

「安宿を探しに行くけど一緒にどお?」と彼に誘われたが、ムーとして断った。彼は笑いながら「すごい迫力だったね!」とバスの中の私の剣幕を指摘した。やっぱり意味は通じていた。怒って何が悪いコノヤロー!

しかし、その翌日以来彼と街中で出会うと「どうエンジョイしてる? 僕は酒造り村へ行って来たけどとても良かった…」とさり気なく情報をくれた。やっぱバスでの一件が気になっていたのかしら?

寺院がひしめく古都ルアンパバーン

思ったよりもこじんまりした街に80ものギンギラギラのお寺さんがひしめいている。お寺さん好きには応えられない街だ。「京都のよう..」とのふれ込みだが京都とは似ても似つかない。南国文化とはこうもエネルギーシユなものかとたじろいでしまう寺院群だ。

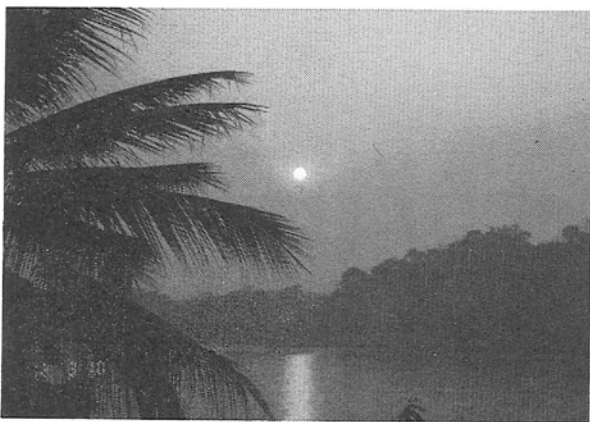
目抜き通りは、レストラン、カフェ、民芸品店と観光客を意識した街造りとなっている。

物乞いをする人を殆ど見かけなかったのも、ラオスではかなり豊かな都市なのだと思う。さすがにここは24時間電気が点き、ネットカフェも沢山ある。ラオスにロング・ステイするならば、ここルアンパバーンと貧相な首都ビエンチャンくらいかも知れない。

到着した日の夕刻、ガイドブック掲載の「ブンニン・ゲストハウス」に泊ってみた。木造建築で中庭から花畑も見えて1泊40,000

キップ(571円)。部屋に入ると何処となく「秘密の隠れ家風」で気に入っているのだが、シャワーの排水が悪くナメクジが出てきそうな雰囲気と板壁一枚で隣に他人が居ると言うのも落ち着けないなので、1泊だけで宿を出る事にした。翌日、ヌードル専門店で眼から鼻へ抜けるようなすばしっこい日本の大学生のA君に出合った。ここに1週間滞在して徹底的に宿の状況を調べたと言う彼が紹介してくれた宿は、メコン川にもマーケットにも歩いて5分の「タラーナ・ゲストハウス」。

私に紹介してくれたのだから彼も泊まっているのかと思ったら、彼はその向かいの5\$ (675円)の宿に泊まっていた。“僕は分相応の宿です”と笑いながら、バルコニーでくつろいでいる私に朝な夕な声を掛けて観光に出かけて行った。紹介された私の宿は1泊12\$ (1,620円)。バルコニー付きの正統派の宿。隣室には青い眼のヤンキー娘2人。人懐っこいのかよく話し掛けられて困った。苦手な英語を話すのは大変疲れるので、なるべく話し掛けられまいと「気が付かぬ振りをしたり、怒ったような顔をして見たが」夜中にバスの時刻を尋ねて来たり、〇〇からの夕陽がすばらしいと教えてくれるなど、私の怒った顔は何の効果もなかった。



メコンの夕陽

メコン川のサンセットの眺め方

ここに泊まっている間、夕方になると冷えたスイカを持って雄大なメコンの夕陽を見に出かけた。多くの旅行者が自分のお気に入りの指定席に座り、夕暮れのひと時を陶然とし

て過ごすのである。

夕闇せまる頃、魚の焼けるいい匂いがしたので、市場で買って食べてみたが、泥臭さくて食べられなかった。地元の人達には評判が良いのだが…。魚はダメだったが、「カオピヤック(煮込みうどん風)」は毎日食べても飽きない美味しさだ。あれだけを食べてまたルアンパバーンへ行きたいくらい虜になってしまった。因みにお値段は3,000キップ(43円)。

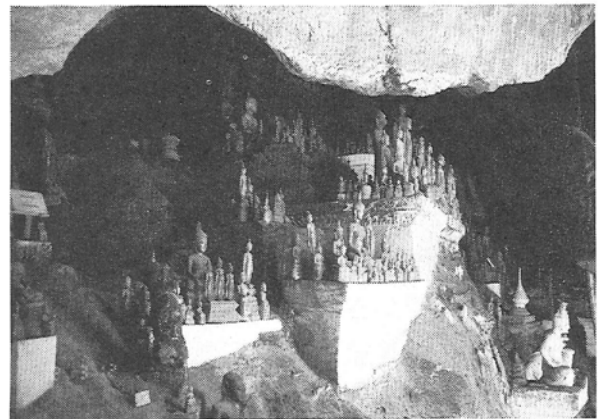
ルアンパバーン名物のお坊さん達による毎朝の托鉢は、朝の4時～5時頃に道端に出なければ見る事は出来ない。あまりにも朝が早いため、一度も見る事が出来なかった。大変な物を見落としたと今も心残りだ。

パークウ洞窟の数千の仏像と酒造り村

例のアメリカ人お勤の「パークウ洞窟」へ出かけた。この方面への観光客が当日私1人だったため、ボート代が12\$ (1,620円)と割高だったが、中年のご夫婦2人が私1人のために船を出し、半日付き合ってくれるのだから無下に値切る気にはなれなかった。

雄大なメコン川の真ん中を小さなボートで下って行く。透明度が全くない黄濁色の大河表面のヌメヌメとした流れをじっと見ていると吸い込まれそうで恐ろしい気分になる。

中国の桂林を思わせる絶景を見ながら、洞窟に着くと、中には4,000体の仏像が所狭しと並べられている。



アリガタ〜い洞窟の仏群

この洞窟は「土地の人々の心の拠り所なのだ」と宿のマダムも言っていたが、信仰を持た

ない私には「猫に小判」と言ったところか？
罰当たりな事をもう一つ言わせて貰えば、あまり芸術的に価値がありそうにも見えなかった。ナマンダブ…。

酒造り村はラオスの酒ラオラーオも呑めて楽しいのだが、ラオス山岳地の生活を見た後では、今いち感動がなかった。結局、メコン川をボートで昇ったり下ったりした時の周りの景観が一番感動的だった。

ラオスの桂林、バンビエン

ここは、ルアンパバーンからバスで6時間。素晴らしい景色と、ボートで川下りが楽しめるだけの小さな街だ。宿舎も沢山ある。

バスで一緒だったラオスの女性(30代)の2人連れと一緒に宿に泊まった。30,000キップ(428円)。彼女達の仕事はスナックのような水商売で、仕事はかなりハードだと言っていたが、若いのに顔色が土気色だった事からも仕事の厳しさは容易に察しがつく。月収は100\$で、ラオスではかなりの高給取りらしい。

彼女らに招かれて、真っ白いバルコニーで世間話をしながら昼間からビールを飲み、カードに興じた。ラオス人が余暇を楽しんでいるのを始めて目の辺りにした。

夢を見ていたような、楽しい2週間のラオスの旅が終わった。有難うラオスの人々。

メーリングリストミニ情報

最近、日本のビジネスを捨ててパースで新たなビジネスをしたいという中小企業の社長さんが増えています。日本で会社を守るための働くことに疲れ、パースで儲けからなくても趣味程度ののんびりやれば・・・とお考えの人がほとんどのようです。

確かにパースでは会社を開くことは簡単で\$1000もあれば会社を開くことができます。ビザもある程度投資してオーストラリア人を雇用すると言うことでワークビザは何か発行してもらえます。

ただ、この人を雇うのが難しく、夫婦二人だおみやげ物屋をやっている程度ならよいの

ですが、人を雇って大きくやろうとすると少々大変です。

私は、今回CITYの中心部に Moon Leaf Gift Shopを開店したのですが、まずリースの高さに驚きます。28㎡で年間日本円で約320万円します。パースは金利が高く、家も買うと安いのですが、借りると高いようにリースは特に高いのです。

これが道を2通り向こうなら半分以下、所のよっては1/3になります。でもパースの中心部は駅前からショッピングモールまでの道でそれを過ぎるとほとんど人通りがないのです。

やはり、人通りがない所は人を呼ぶのが大変です。特にパースの人はあまり新聞や広告をみて買い物に走ると言う人が少ないので、宣伝してもなかなか効果がないし、物をあまり買わない人が多いのです。

ただ、クリスマスは別です。年間の半分以上の消費をここでするといわれます。ただ、今年はテロの影響で消費は鈍ってしまいました。

私は幸い日本からの輸入物を扱っていて、お客さんは現地の人というより、東南アジア人でパースに住んでいる人が多く、パースに住んでいる東南アジア人は、お金持ちが多く、学生でもBMWにのり、専用のマンションに住んでいる人もいます。(日本人留学生など10年前のおんぼろに乗っていて、同じ留学生でも大きく違います)

東南アジア人は日本好みの人が多く、日本製=Goodという人が多いようです。街でビジネスをやるならオーストラリア人より東南アジア人相手の物が良いようです。特にファッション関係は日本を追っている東南アジア人が多く、彼らは流行に敏感です。

オーストラリア人相手のビジネスはやはり大変です。最近日本食のお店がどんどん増えています。確かに設けているところもありますが、やはり大変なようです。何よりも人件費です。

ここは最低賃金法が決まっています、まともに雇ってやっていこうと思うと人件費だけで利益が飛んでしまいます。特に日本食の場合人手が多くいるので、特に大変でしょう。日本のように一人で2倍も3倍も働いてくれるなら良いのですが、いい人材を探すだけで大変です。ここは会社が簡単に建てれるので、優秀で仕込んで片腕になってもらおうと一生懸命やっても結局、優秀な人材は簡単に独立して自分でやってしまうでしょう。人の下で働こうとする人が少ないので、会社システムを作るのが大変です。 湯口

ゴールドコーストでの日本語教師体験

ゴールドコースト在住 会員 No. 433 乾谷春美

私は高田馬場にある「千駄ヶ谷日本語教育研究所（略してSJI）」という学校の日本語教師養成講座（450時間）を2001年の9月に卒業し、その後のことを考えていた時、ゴールドコーストにある姉妹校（略してSJIGC校）で英語を使って日本語を教える体験プロジェクトがあることを知りました。これには現地ハイスクールなどでの日本語クラスのアシスタントも経験できるということで大変興味を持ちました。海外での生活に淡いあこがれをいただいていたこともあって、家族の協力を得て参加を決心しました。準備期間などを経て02年6月にここゴールドコーストにやってきました。渡豪までの間、同窓生で始めた日本語学校で実際に外国人にプライベートレッスンを経験しましたが、とても役に立っています。また、本会の鈴木剛さんとは同窓で、上記の学校設立仲間でもあり、その縁でこの「南の会」の会員となり、今回私のつたない体験談を皆さんにお知らせする機会を得ることができ、とてもうれしく思っています。



グリフィス大学にてSJIGC校長(左)私(中)

1 オーストラリア クイーンズランド州の日本語教育について

白豪主義から脱皮してアジアの一国としての位置づけから、子供たちは第2言語をフランス語、ドイツ語、中国語、インドネシア語、日本語などから選択します。ちょうど1980年代、日

本の経済が目覚しく発展し旅行客も多くなったため、日本語はかなり重要視され早くから日本語を学ぶほうが良いということで、一般的に小学校4年生から教えています。特にここGCでは観光客が多いため日本語は就職に有利ということのようです。ハイスクール（小学校は1年生から7年生、その後ハイスクールで8年生から12年生まで）になると最初の2年間は小学校で学んできたこともあって、まあまあ多くの生徒が第2外国語として日本語を選択しています。学年が上がるに連れてやはり少なくなりますが、12年生くらいになると結構難しいことも勉強しているようです。ハイスクールと先生の力量によりますが、ツーリズムのクラスがあって、ホテルなど観光業界に就職した時に使う日本語を集中的に学ぶということも行われています。現在日本の経済は落ち込んでいますが、教育界は今のところ現状維持のようです。

さて、ハイスクールでの教え方ですが、やはり文法中心で話す力は弱いです。そこは日本の英語教育と同じですが、特に州立学校では全体に教える内容もそんなには多くなく、これはあくまでも私見ですが、生徒たちもあまり勉強が好きとはいえない感じがします。

2 GCでの日本語教師の需要について

SJIGC校で学んでいる生徒さんの動機を挙げると、日本人の友達がいるのもっとコミュニケーションをとりたい、現在観光業界で働いているので日本語が必要、日本で英語の教師として働きたいので、また日本で働いて戻ってきたが日本語を忘れないように、昔学んだのもう一度勉強したいなどです。日本で英語を学んでいる成人と同じような動機だと思いますが、大きくちがうところは学生で学びたい人が前ほどは多くないことです。ただ、日本語専攻の学生が日本語と英語のexchangeを望んでいるということはあります。やはり経済の動向と切り離

せないところでしょう。はっきり言えることは、日本人が増えないと需要は望めないということです。せいぜい「南の会」でより多くの方が短期にしる長期にしる滞在して「日本人ここにあり」と存在感をアピールすることが必要なのではと冗談ではなく思っています。

ただ、学校で皆日本語の基本を学んでいるので（といってもそんなに深く学んでいるわけではないので安心して下さい）、私達が日本語を教える技術をもって滞在することは決して無駄にはなりません。もちろん環境にもよりますが隣近所とのコミュニケーションの手段にはなるでしょう。英語との exchange のそれにもなるでしょう。ただし、その目的のためだけに日本語の教え方を学ぶには、日本では費用が高いです。SJIGC 校の日本語教師養成入門講座（4 参照）のみ受講するのも一つの方法かもしれません。英語を使つての教え方を学ぶのでこちらではすぐに役立つというわけです。



早朝のサーファーズパラダイス

3 GCでの暮らしについて

ここは治安もよく私のように若くない人はもちろんのこと、若い女性でも夜を除いて日本と同じように安心して暮らせます。物価も日本の半分くらいですから、自炊をすれば本当に安く生活できます。野菜や果物などは全てスーパーマーケットでばら売りなので、一人暮らしでも買いやすく無駄になりません。また牛肉はもちろん野菜もまあまあおいしいです。日本の調味料なども少し高めですが手に入るので和風に調理することも可能です。冷凍の野菜や電子レン

ジで調理するだけといった食材も日本より豊富でしかも安いです。ただし、外食をすると日本の2/3位の値段になります。例えばコーヒー1杯は200円（70円で換算）ケーキは200円から400円位です。やはり人件費が高いようです。

次は、ホームステイ中の私の生活費です。（1週間あたりです）

（単位 A\$）

部屋代	100
食費（自炊）	30
交通費（バス代）	25
外食	15
雑費（日用品）	10
合計	180

こちらはやはり車社会ですが、私はもっぱらバスを利用しています。日本と違って時間がなぜかゆっくり流れているので、バスの時間に合わせて生活をするというスタイルに徹すればあまり不便は感じません。たぶん私自身が少しこちら流に慣れてきたからだとは思いますが、、、急いでいる人を見かけることは少ないです。

「走っている人がいる」と思ってよく見ると日本人のことが多い、そんな感じです。

英語圏ですから英語が必要なことは言うまでもありませんが、日本のワーキングホリデービザの若い人たちも多いので日本語の通じるところも結構あり、また日本語が話せるスタッフのいる店もあつたりしてあまり不便は感じません。また教育の力でしょうか、こちらの人で「こんにちは、ありがとうございます、さようなら」といったごく基本的な日本語を知っている人が多く、バスの運転手さんにも話しかけられました。海外で現地の人の日本語をこんなに多く耳にするのもここオーストラリアならではのかもしれません。

また、日本人とオージーとの夫婦もたくさん住んでいて、夫婦の会話はもちろん子供まで英語と日本語の両方を上手に使い分けています。結構教育熱心で、塾こそありませんが小学校から私立か公立か悩みの種といった感じです。若い子育て中の人々が多いということで医療も日本語が通じる場所が少しずつ増えているようで、いろいろなことが外国といえども便利に生活できるよう整い始めているといえそうです。

4 SJIGC 校で私がしていること

まずこちらの学校紹介ですが、西嶋 family の経営で、教育担当は靖子校長です。とても上手です。英語力も十分、日本語教育への造詣も深くすばらしいの一言です。ご主人の勇さんは経営担当で、娘さんがすばらしい英語力で窓口を一手に引き受け、最近では時々授業も受け持っています。

さて私は、到着の翌日から2週間の日本語教師養成入門講座を受講しました。こちらで同講座に入った人（ワーホリビザの人が多い）も一緒に勉強します。ここでは日本語を簡単な英語を使っていかに教えていくかということを学びます。もちろん靖子校長が主として担当します。とても為になります。ずいぶん勉強したなと思いました。それから同時に英会話も学びます。先生は日本語を学んでいる生徒の中から公募しています。いわゆる exchange です。その後は同校のクラス（生徒は6, 7人）を2時間の中の30分位担当するというのを数回経験しました。そして日本語能力試験1級受講コース（生徒は1人）と中級コース（生徒は3人）を1ヶ月半くらい受け持ちました。現在も日能試1級コースは担当しています。

現在、活動の中心はハイスクールでの日本語クラスのアシスタントです。私は主に8年生、9年生を担当しています。範読や漢字、カタカナ、会話の指導などを行っています。学習内容に合わせて日本の文化を説明したり、折り紙、まき寿司を作ったりといったアクティビティもしています。やはり日本の英語教育と同じように

「話す力と聞く力」が弱いので、そのあたりを強化するためのヘルプができればいいなと思っています。力量不足に日々悩みながらもなんとかこなしています。

5 終わりに

ここ GC は、オーストラリアの人々が定年後住みたいと思う第1にランクする町です。なぜなら気候がいいからです。ゴルフやテニス、つりやマリンスポーツなどに興じながらゆったり住める場所です。人々は皆フレンドリーです。日本人にもたくさん出会います。ご存知のように定期預金の利子もいいです。私自身も実際に暮らしてみて、年に何回か1ヶ月くらいの短期で住んでみたいなと思いました。



木村邸にて 左より私、真由美さん、私の娘

GCに家を持っておられる木村さんご夫妻が10月にいらっしゃったので、お邪魔させていただきました。ウオーターフロントのとても広いそれはそれは素敵なお家でした。ネラング川を目の前にしてテラスでお茶をいただきながらいろいろお話をすることができました。私はいつもホームステイ先の家族とワンパターンの英語で格闘していますので、本当にゆったりしたひと時を持つことができました。また長井さんご夫妻も私とSJIGC校を訪ねてくださってうれしかったです。

会員のみなさんでGCに関心のある方はぜひおこしください。大歓迎です。

タイ古式マッサージ修業

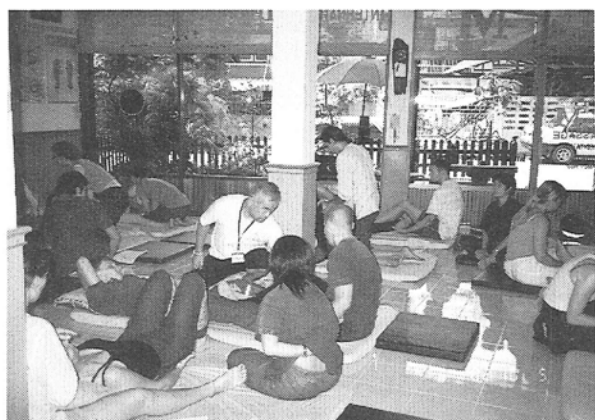
チェンマイ在住

会員 No. 350 宮 博

タイ古式マッサージの資格を I T M (International Training Massage 「地球の歩き方」2001～2002 版 やすらかなる国タイ」の P130 にも掲載されています) で取得した。

誰かから勧められた訳ではないが、たまたま日本料理店で紹介された 60 才過ぎの日本人男性がそこでボランティアをしていたので、見学を依頼したのがきっかけだった。その方とは以前から YMCA 近くの路上でよくすれ違っていたので紹介されたときは見覚えのある人だと思った。その話をすると、私が YMCA へ自転車で授業へ向う時、その方は YMCA に車を駐車して I T M へ歩いて行く時だったのである。

その後見学に行き、ヨガの実習をさせてもらった。自分の体がこんなに硬いのかと再認識したものだったが、ヨガの後妙に心の平静を感じた。日本語を教えていた YMCA も I T M も私のマンションから半径 300m 以内に在り、何かの縁があったのだろうと思い、翌週からとりあえず 1 週間実習を受けることにした。



I T M 見学

マッサージを習おうと思った最大の理由は

- ① 私の留守中家を守ってくれる家内や息子、そして親や兄弟にもしてあげたかったからである。タイに来られた方は大なり小なりタイ古式マッサージを一度は受けたことがあると思うが、本当に気持ちいいのである。私なんぞはアルコールの入った夕食後何回も受けたことがあるが、ものの 5 分足らずで夢

の世界に入ってしまう。つまり寝てしまうのである。寝てしまった後は何をされているのかわからない…が、私にとってはそれがまた何とも言えない心地良さなのである。

- ② チェンマイを歩くと沢山マッサージ屋が並んでいる。どこがうまいのかなど、素人の私には全くわからないのである。そこで自分が習えば少しでもマッサージの上手、下手がわかるのではないかと思い、そんな動機もあった。

- ③ 住んでいるマンションからも地理的に近いこと。

- ④ 月～金の AM9:00～PM3:00 の各週 5 日間コースなのだが、その時点の日本語授業は PM3 時以降だけであり、3 時以前は空いていたためであった。

そんな理由で 10 月 7 日の月曜日から始めたのであるが、それが面白いのである。とりあえず 1 週間と予定していたが、あまり急がず無理のないように、年内にできるかぎり続けてみようという気になってきたのである。昼食後の午後は生徒同士がペアーを組んで、午前中に受けた講習実習 (practice) をする訳だが、お互いに交替に練習する。習いたての素人同士がやっても気持ちいいのである。午後の 2 時間の実習のうち前半を実習させてもらって、後半を受け手にさせてもらった。何故か? 受けながら寝たいのである。ペアーの人に理解してもらって、寝てしまったら自由に練習してくださいとお願いしたのである。いつもの調子で 5～10 分ぐらい教科書を見ながら自分のしたことの復習もするのだが、少し経つと教科書を枕許に置いて寝てしまっているのである。その気持ちいい眠り (実際には 10～20 分前後の眠りなのだが) が、その後の日本語授業のためどれだけ疲労回復に役立ったことかを考えると、それだけでも十分価値があった。

そんな訳で 1 週間だった予定が近いうちに全

部受けて先生(teacher)になってしまおうかと
思うようになってきたのである。隔週でも年内
に終わらすことができるので、心の中ではゆっ
くり無理せず、最後(5週間)まで続けることに

決めました。(ここまでは私の日記の一部で
す)ここでコースと経費について下記の表の
とおりに紹介します。全コースとも月～金AM9
～PM3時、コーヒープレーク10～10:15

タイ古式マッサージノコース内容と経費

コース	☆テーマ・習う内容	費用
レベルⅠ	☆タイ古式マッサージの紹介 ◆体の前側(仰向けが基本) 足から入り(足裏もある)両足ももの内側ライン 外側ライン。おへそを中心としたお腹、肩から両腕の内側ラ イン、外側ライン手の表と裏、顔(種類1～63)	2,250B
レベルⅡ	☆ヌアドボラン＝タイ古式マッサージ ◆体の横(サイド)、裏側(バック)、座った姿勢 (横になって)両足ももの内側ライン、外側ラインから入りお尻、 背中、腕、腰、(うつ伏せになって)足裏踏み、腰、背中、肩、 首、頭、背中(種類64から134)	2,250B
レベルⅢ	☆タイ古式マッサージの歴史とエネルギーラインの理論 ◆①へそからスタート 胸、肩、頭、顔→足(1～20) ②足からお腹、胸、顔、お尻、足、お尻、背中(21～43) ③へそからお腹、足の裏表、お尻、腕、手、足(44～71) ④へそからお腹、胸、お尻、足、お尻、肩、顔(72～88) ⑤へそからお腹、胸、腕、足、肩、首、頭、顔、背中(89～115)	2,250B
レベルⅣ	☆タイ古式マッサージの治療と応用 ◆①頭痛の治療ポイントと具体的やり方(1～53) ②背中の痛みの治療ポイントと具体的やり方(1～59) ③肩の痛みの治療ポイントと具体的やり方 ④ 1)肩こりの治療ポイント 2)高血圧による肩こりの治療ポ イント 3)喘息による肩こりの治療ポイント 4)食べすぎによる肩 こりの治療ポイント 5)生理中による肩こりの治療ポイント ⑤首の痛みの治療ポイント ⑥ひざの治療ポイント ⑦しびれの治療ポイント ⑧足の疲労の治療ポイント ⑨女性のバストを良くするポイント	2,250B (Ⅰ～Ⅳ小計9,000B) 他にテキスト代として 約500Bがプラス 小計約9,500B
レベルⅤ	☆先生になるためのトレーニング ◆レベルⅠ～Ⅱの練習している人への指導、助言	6,000B 合計約15,500B

注1 レベルⅠ、Ⅱを受け、マスター(本当にマスターするには何年もかかるとは思います)すれば、町のタイ古式マッサージ屋さんには匹敵するかと。レベルⅠ、Ⅱで重複するものもあるが、No.134の種類があるので約3時間ぐらいいはかかるとは思います。

注2 レベルⅢはいろいろな病気(例えば喘息、心臓病、リウマチ、消化器系の病気など多種多様)の治療法。レベルⅣは頭痛、肩こり、背中や首の痛み、ひざの痛みなどの治療法。

注3 足裏だけの特別コースがあります。毎週火～金のPM4:30～6:30で、4日間8時間2,000Bです。朝からタイ語など勉強して、AM9～PM3のマッサージコースが受けられない時など、このコースがいいと思います。何人か集まればスタートします。先生は男性ですが外見は美人女性でオカマ。一見の価値あり。

注4 時間がない人で、レベルⅤまでどうしても受けたい方には方法があります。それは1週間で2レベル同時に受ける方法で、技術的には可能なことです。滞在期間の短い日本人が3週間でレベルⅤまで実習していましたが、ハード過ぎると思われます。5週間が常識的な期間でしょう。なお、専門家の方から見れば、おおまかなレポートと思われます。その辺はご容赦ください。



午後の練習 この後すぐ寝てしまう

ここでは是非お勧めしたいのですが、もし2週間の時間があるってご夫婦でレベルⅠとⅡを勉強したら、チェンマイにいていつでもお互いに練習できるし、日本に帰ってもマッサージし合うことができると思います。とりあえずⅠとⅡで十分ですし、レベルⅢ以降受けなくなったら次回訪問時に受ければよろしいかと思います。

それと大事なことを書き忘れていました。このITMはすべて英語で教えます。タイのチョンコル大先生が英語で説明します。教科書もすべて英語です。そこで私も最初は大変苦勞しました。なにしろ日常会話ならともかく、いたる所に体の部分の用語、例えば へそ(navel)、腹部(abdomen)など沢山でてきます。慣れるのに大変時間がかかります。生徒は欧米人が中心で日本人は少数派です。(毎週新しく習いに来る人が世界中から20人ぐらい来ますが、日本人は平均2~3人、時にはゼロでした) 講義は待っていてくれません。どんどん進みます。



殆んど欧米人 金曜日は写真撮影可

でも心配いりません。初めにも書きましたが、日本人ボランティアの男性がレベルⅠとⅡの指導を毎日行っています。私も非常に助かりました。後は本人の努力次第です。その方も2003

年4月に帰国され、日本でヨガ教室やマッサージ学校を開設したいご意向のようですので、その後は時間の許す限り私も日本人のためにアドバイスしていきたいと願っています。一所懸命勉強している人のお役にたてるなら、日本語教育でもマッサージでもやりがいをおぼえることができるでしょう。

「海外でロングステイをする時に何をするか」についてはご自分の物差しで好きなことをすることがすべてだと思います。タイの文化を学ぶ上でタイ古式マッサージの技術習得は実用的で興味ある選択肢だと思います。

50の手習いという言葉がありますが、新しい人生にチャレンジする意味で60,70才の手習いがあってもいいでしょう。その国でしか経験できないことなど、挑戦してはいかがでしょうか。

年内は12月6日でレベルⅣを終え、終了証を頂きました。「先生トレーニング」は新年のお楽しみとしました。



レベルⅣまで終了 少しは余裕も



レベルⅣ終了後チョンコル大先生と記念撮影

PS. バンコクでタイ古式マッサージを学ぶ
ワット・ポー マッサージスクール
全30時間、所要日数10日間 タイ語のみ
料金 約6,000B(パーツ)

トラベラーズMALTAアイランド

福岡県在住 会員 No.128 稲延 豁

～世界貿易センター同時多発テロで思わず災難～

その日のディナーは安ワインを平皿に盛った麦粉の茹でものだった。ギョーザと申すには余りにお粗末な肉入りでジャガ芋が横に添えられてイル。キャベツに似た野菜と赤色の名もしらぬキャベジがこんもりと山を成している。香辛料か調味料かの小ビンが傍らに置いて在る。中味は何かと問えば、「チーズの粉末よ」とママが応えた。それを皿に満遍なく振りかけこれから始まる空腹を満たす喜びと、外国人オンパレードの賑やかな晩餐が嬉しかった。

側に控えた大型のTVはママ専用でホームステイの下宿人は何時もカヤの外でこれ迄全然観せて呉れなかった。それなのにどんな風の吹き廻しか、ママがスイッチをオンにした。ここはホームステイのマルタの下宿の2階の食堂である。テーブルに座った国際色豊かな面々はスイスの女学生、チェコスロバキアの女性、ドイツ人の若い男性、同じくジャーマンの中年学生、あと一人は昨日着いたばかりのトルコのこれも中年男性達だった、夫々がワインを飲んだり口を動かして食事に夢中になっていたが、一斉にTVに釘付けとなった。画面の中は猛々たる噴煙、建物のビルが時たま顔を出す。まるで活劇、ジャッキー・チェーンの香港映画を見ている様である。誰かがテロの仕業だと言うがピンと来ない。詳細を聴きたくも、ボクの今の英語力ではトンと通じない。テーブルの主座よろしく、奥に座った此処の息子のセバスチャン、これも最近になってやっと覚えた名前だが、その若い息子とミルクタンクのスイス女学生が盛んに会話のキャッチボールを始めたが、ボクはてんで馴染めない。チェコスロバキア女がスイス女に黄色い声を浴びせかけた。向かいに座ったドイツ若者が、口からパン屑を飛ばしながら誰ともなくしゃべっている。ボクはムシャクシャとキャベツを

ほうばって、ヨーロッパ圏は（英語力がジャパンと違うワイ）と負け惜しみ感を醸成させた。そしてそんな事より、これから持続的にTVを観せて呉れるだろうか、その方が気懸かりだった。

――平成13年9月11日、18時30分のアクシデントの狂想曲の前奏曲だった。――翌々日の13日18時前、宿題のホームワークを途中で止めて、2階の食堂に行かんとした。そのタイミング。「グッド、ボーイ。早よ来いよ、」ヒロシ！！とけたたましい上からの、ママの呼び声。2段飛びに駆け上がり、入り口傍らの送話機をグッと握り締めた。「彼女からよ」とママはニヤリと笑って差し出したが……。遠隔地とて、少しも変わらない聞き慣れたワイフのボイス。「お父さん！！ 聴いとるネ！ 大変な事になつとるのよ。日本中が大騒ぎ、朝からTV付けっぱなし。テロがあっちこっち暗躍しとるちよ、英語なんかどうでも良いとよ。直ぐ帰りなさい！！」まあこんな調子でまくし立てられ、問題の本質は少しも掴まえられない俣、ワイフの興奮が届けられただけだった。

情報的的確な把握は、爾後、福岡の知人の、度重なるコンタクトに依って完全に認識した。それに依ると（ニューヨーク、マンハッタンの世界貿易センターと、他処の国防省への飛行機毎の直撃破壊で、どうもイスラム過激派の同時テロの犯行では無いかと、それも自爆行為で、昔の日本の特攻隊の突っ込みと少しも変わりゃせんワイ）と20世紀の恐怖を語って呉れた事だった。生来、呑気者で楽道家と来ているボクにとっては、幾つもの危機を乗り越えて脱出して来た経験から、今期も、折角のチャンスを、英語をうっちゃって迄帰国する気には更々なれなかった。ワイフの心配を無碍に放擲した訳である。学生に聴いても、周囲の環境は至って平穏で、世界のニュースを話題にするよりも、今度の休みは何処に行く、飲み

行くのはあの店で、食べ物は断然あれよと、エンジョイに焦点を絞った日常会話がしはいた雰囲気だったから、ボクもそれに染まっていた事は確かだった。それでもしばらくして、「スイス航空の乗客が一斉にキャンセルして会社が潰れたのよ」と、元旅行社を辞めたおしゃべりのオチャメな話題を独占する、大阪出身の恵子の発言には、ボクもそう呑気に構えてはいられなかった。なぜなら、ボクのチケットはスイス航空によやくしてある。スイスのチューリッヒに帰りは飛ばねばならない。該当者は居無いかと、美江、志穂、沙知子等に当たり、男は計（サトル）や現役大学生の仁木君に、もしやと尋ねて見ても、皆便違い、そして帰国の日付もずっと先ばかりでないか。思い余って早朝7時、ボクは海岸辺りの電話ボックスに向かった。事前用意のKDDIのカードを差し込んだ。何度かやり直しやっと繋がった。相手は福岡のエージェント。詳しく聴かねばならぬ、ボクは言った。「入学早々こんな目に遭うなんて、青天霹靂とはこの事よ。天災だもん、アンタの方で対策取ってよ」と度々旅行して馴染みでもあるT氏に一方的に通告した訳だ。すると、「学校に電話したけれど取継れなかったのよ」とさんざん言い訳を重ね「スイス行きが駄目ならイタリア廻りが有るから」とボクの心配をよそに、いとも簡単に答え「エア一便の変更は帰って精算しましょうよ」と、ボクの不安を先取りして、実にさわやかな対応で答えて呉れた。その時の嬉しさは格別なものだった。不安の霧を一挙に振り払ったボクは（ざまー見ろ！オカアチャン、俺の背中には神様が宿っとるんぞ！）明日は早速家に連絡して、憔悴困憊を取除いてやるんだとボクは大いに張り切った。只、マルタからチューリッヒが不通だけで、スイス行きだけを外せばマルタ航空は通常通り。以降のマレーシア航空は健全操業異常なしと言う事なのである。

帰国便の一部を当然変更せねばならぬので、帰国一ヶ月前の11月始めに、学校のスタッフでフロントの美人ナターシャに相談に行った。すると「チケットを持って来なさい。あたしが手配してあげるわよ」と、英語音痴で意思伝達が容易でな

いボクとは長時間に及ぶ漫画の様なやりとりがあった後、自家用ジープを用意し横に乗せ、マルタ空港迄飛ばし、オフィスのスタッフにボクを紹介して、チケットを買って呉れた事だった。

相手任せと、トーク（会話）不通でキップを手にとって見ると、行き先が違っている。イタリア、ローマ行きでは無くてドイツ、クアラルンプールではないか。然しミステークとボクは声を上げなかった。わざわざのジープとキップの手配を感謝する方が先だった。そして思った。（どちらにせよ、ボクは帰れるんじやから・・・）と。

～生まれて始めて馬に乗る～

東京足立区のM氏を知ったのは同宿のドイツ人ウルフからの通達に依る。真向かいのルームに住んで居り、朝晩手をたづさえて食堂に行く仲の良さだった。ボクの聴いた範囲ではケアーの仕事の責任者らしい。

誠に気立てのやさしい気配りさんで、直ぐ近くの街中の違う学校に通っている。彼の話によると教室にジャパニーズの老人学生が居て、ボクに逢いたがっているそうである。ウルフが其の連絡役を務めた。ウルフが持参したメモ紙に、挨拶の簡単文と共に、恐縮ですがホテル迄お越し願えませんか、と丁寧に書いている。同年齢かそれに近い年配者との会見にボクは胸を踊らせて、取るのも取りあえず、早速翌日の学校が退けてそのホテルに向かった。シーサイド、ウオーター、フロントホテルがその名称で、歩いて20分もかからない。下宿のうらぶれた部屋住まいから、いきなりデラックス極上ホテルに顔が出せる。気分転換にはもってこいである。こんな僻地の島に、まさかの星4つが有るのが不思議なくらいだ。フロントに尋ねて、久方振りの癒しのソファにうずまった。しばらく待ったら、彼が降りて来た。初対面である。7・8才はボクより若いと見た。ホテルと下宿（ホームステイ）の違いはあれどお互い学生身分、直ぐに打ち解けて、来し方の来歴を語り合う。馬が主体で英語は付けたりだと言った。ヴェレッタの馬場は設備は良いが少し遠いし、料金もこちらの方が若干安いのでと言って、盛ん

にボクにライドを勧めるのだった。「貴方、早速馬をやりませんか、専属の契約車がもうやって来る頃ですが」と腕の時計を見る。ウンもスンも無いもう完全に向こうのペースだった。

そしてホテル前に待っている小型の赤い車に同乗するはめになった。ものの10分程でセンジュリアンの馬場に到着した。小さな岡の平面に横長の馬屋が只の一行、前が小広場になっている。其処に馬主らしい髭面の、如何にも百姓然とした仕事着に、褐色の恵比寿顔で、息子らしい少年と佇んでいた。早速連れれのM氏が値段の交渉を始める。1時間4ポンドと言えれば円で1240円となる。馬主に渡しながら、生まれて始めてと言う事「ファースト」を馬主に向かって何度も連発した。M氏も横から呼応して呉れ、さっさと馬屋に入って着替えを始めた。馬が3頭横木に繋がれて秣を食んでいる。競馬なみの美麗さは無い。昔の馬車引きの田舎馬の駄馬だとボクは見切りをつけた。乗馬服を長靴を身に纏い、揃いのハットまで頭に載せて現れた。



さっそうとした馬上の筆者

相棒のM氏の晴れ姿である。其の凛々しい立ち姿は別人の様でボクは圧倒された。

2頭出された前の馬に、彼は足踏みを載せたかと思うとひらりと飛び乗った。さて、ボクの番。足踏みに足を掛け反動をつけては、手綱をしっかりと握り締め、馬の背中への跳躍を生まれて始めて試みた。少年がボクの尻をささえる。三度目にやっと馬上の人と成った。森羅万象上から見下す感じ、爽快なり。ボクは偉くなった様で得意となった。前の馬上のM氏は単独行動と思へば、さに有らず。少年が手綱をとって誘導する。

「立派な服が泣くんじゃないですか。何故一人で闊歩なさらんのですか」と動き出してから、まづそれを聞いた。「此処は日本と違いますが、私が相手になんば言っても受け付けないですよ。ここの規則なんでしょうね、もう諦めましたよ、乗るだけで気分が良いからねえ」ボクはそう相槌を打ったが、内心では、(ホース・ライディングでの彼のエクササイズは一体どうなってるの、プロを目指す格好をしているのに)一寸そう思った。

彼の馬の手綱をとって、少年は只ひたすらに歩いて行く。ボクが直ぐその後からくっついて行く。道はメインから外れた裏道だ。黄土色の石造りの住宅が続く、それが切れて登り道に入った。周囲は一変して、石が其処彼処に顔を出した瓦礫の台地が見えて来た。道路は狭まり獣道の様になった。台上に至ると、エメラルドの海が展開した。風も当たって快い。ふいにボクは歌いたくなった。

「濡れた子馬のたてがみをなぜざりや両手に朝の露、呼べば答えるメンコイぞ、ホラ！！」軍歌はボクの身体の中に染み付いていて、気合次第で突然口から生まれ出るのである。

寒々しい石の台地を一巡りして帰路についた。

馬上から海を眺める。この行動がとてつもなく素晴らしい行為だと思った。地元の福岡では海が近い。その砂浜を訓練中の馬が、並足したり早や駆けするのを散歩中に見かけたりする。

何時かボクも、そんな身分になりやせんかなあと思っていたが、今それが実現したのだ。無上の光栄である。それがこんな処で・・・。大げさだがそう思ったのだから仕方無い。

石群の荒地と言うか、荒野と表現すべきか、そんな台上の細道を降りて行った。砂礫の獣道のような細道が切れて舗装に入る。ポカポカとヒズメの音が鳴り響く。周囲は住宅が建て込んでいる。街中を歩いて何処でも見かける郊外の、石積みの塀と、石と木造のコントラストで出来た家屋が海風で荒れたくすんだ色を見せて陸続きと続いている。

日がな同コースを廻る少年の手に時計は要らない。時間通り少し早めに馬場にたどり着いた。

馬から下りるのはた易い。勢い良く大地に飛び降りた。

訓練用に慣らした馬はおとなしい。たてがみをなぜ長い首の付け根を何度もなぜて、馬に感謝の意を表した。

一時間アツと言う間の出来事だった。M氏が「多少お疲れになったでしょう。馬はくたびれるからね」と言うが、それには答えず、本音のところでは、助手無しの一人立ち、思う存分駆ける事は出来なくとも、自分勝手にたづなをとって歩きたかったのは事実だった。

馬主には「サンキュー、ベリベリ」を重ね、少年には「また来るからね」と握手して別れた。

予約の赤いバスが到着し元来たホテルへと向かった。

～要塞都市、ヴェレッタを歩く～

凱旋門に似た大きな城門、その廻りは休みとて大変な人出。これから行く見物客、吐き出される大衆。門前には出店が連なりどでかいパンやピザ等食物屋が多い。土産物屋も軒を連ね、賑わいと喧噪が湧き立っている。

廻りは皆外人ばかり、日本人を探す方が難しい。それでも誰か居らぬかときよろきよろしながら歩いて行く。

入って直ぐ右側には廢墟が寒々しく、あたかも戦跡の様に黄土色の石壁をそば立てている。左側はデパートメントが首都だけに、島を忘れる程の、華美と近代を容赦無く発揮して、階段上に来客を待っている。女装専門かよろづが解らぬが、娘さんや婦人の女性客の出入りが多いのを見て、入るのを止めた。

城門から直線に幹線ルートが奥へとずっと続いている。両側は全て店舗で櫛の目の様に続いている。食料、写真、土産物、銀行、衣料店、その他諸々。協会も在り、特徴の三角屋根と十字架を見せて店に狭まれ白い入り口を開けている。

中央銀座よろしき中央のあたりに出た。右側の空間に、おびただしく椅子を並べ、テーブルを置き、満杯の客が只今食事中である。テーブル上にはビールのジョッキが並び、平皿に盛った野菜やコロッケ状の物が丸見えだ。遮光の大天幕が色彩を染めている。



首相官邸付近

一方左側の空間は首相官邸の筈だ。広場の光がそれらしい建物で、屋上には三本の旗が風になびいている。建物は休みで閉まっていて、前の広場は閑散と人っ子一人居ない。柵で囲んだ左側の傍道に、うわさで知った観光馬車カロッチンが三台、その傍らで案内のオッサン達の饒舌が続いている。少し進むと小さな公園が見えた。真ん前左側は又も教会である。その会談に座って年輩の外人がランチを摂っている。現地の人と見た。服装とよれよれの帽子とづた袋を傍らに置いている。

公園の中は車座になった人ばかり、椅子に婦人を据えて、絵描きが似顔絵を熱心に描いている。描くスピード、その上手さ、デッサン用の黒いチョーク状の棒が巧みに画面を走る。道具立ては、画架と被写体の婦人と画家本人だけ。余所行きすまし顔の、ドイツ女性と画との間には寸分の違いはない。カメラでも此程の相似はと思う程の芸術性が有る。ボクは感嘆してしばらく其の場所から離れられなかった。



いい男に描かんと承知せんぞ

マルタに来て、十字軍と騎士団の歴史を調べもせずに帰るなんて芸が無さ過ぎる。そう思ったか

ら此処に来た訳で、早く其の建物を探さねばならない。それらしきが直ぐに見つかった。

道路に面してポッカリ口を開けたアーチの建物、その入り口に背の高いスマートな衛視が一人立っている。これが言うところの騎士団の団長公邸かどうか判断つかぬが、喜び勇んで入ろうとしたら止められた。先に見える壮麗な建物は、さぞ遺品の数々が中に収まっているに違いないと張り切った寸前にだ。

目的を阻害された腹いせに、ここは勝負時だと、知っている英語の単語を並べて食らい付いたが、手を横に振って全然取り合わぬ、おまけに、帰れ帰れと追い立てる。仕方が無い。アーチの天井を見上げると絵が仲々面白いではないか。それと、華美で壮麗な公邸を写真に収めて其処を退散した。ボクは今日が日曜である事にその場は気が付かなかった。そして、入場も予約が必要である事を始めて知った。アーチを出てしばらく歩くと、道路がぐんぐんと降り始めた。其の傾斜が並では無い。

相当長い距離である。普通城内と言えれば平地が相場である。構築上の予算の関係かなんて簡単に考えたが、後で聞いた話、物理的に通風が良くて涼しいそうだ。戦略的にもこの方が効率的で合理的だそうだ。と言われているが詳しくは分からない。急な傾斜に拘わらず両サイドはみっしりと石の住宅が建て込めて居て、傾斜の舗装を挟んで両脇は階段が施されている。此処に来れば住宅が主で、ぽつんぽつんと合間に飾り無いくすんだコーヒー店が戸口を開けて人待ち顔である。今迄の喧噪は嘘の様に、人通りはぼったり途絶えていた。汗をかく程に草臥れて、やっと頂上に登り詰めた。ぱっと空間が広がる。ビルの谷間から開放された感じだ。蒼空を仰いで深呼吸をする。風も吹いた。正面は100坪程の石畳だ。所々円型の凸出物が見える。石畳前の道を右に曲がった奥の道路が上が格好の溜まり場か、先のカロッチン（観光馬車）の引き手達が談笑している。其の馬車を眺めていると、一瞬時間が止まった。ボクは少年に戻っていた。平和な在りし日が蘇った。街中のヒズメの音と馬糞。紙芝居。メンコに興ずる飢餓大将の頃が……。懐古の余韻を引きずって石畳を進

むと、両傍らに深い堀を控え登城口が見えた。450メートル先に城門があり、衛視が4人十字軍の赤いコスチュームで受付をやっている。番兵と入場料受領を兼ねている。50セント（150円）を払う。腰に短剣、槍持ちが気に要った。槍先の赤いヒラヒラも美しい。偶々入場間際の英国婦人をお願いして、岳士と共に5人で写真を撮って貰った。



聖エルモ十字軍衛士とともに

狭い通路を行くと左側の石段が4、5段。又右に廻って数段の階段。上った直ぐが小さな広場石畳。数人の見物客が居て、めざとくボクは日本人客を見止めた。余程ボクは人恋しかったのだろうし、こんな所で出くわす偶然が、たまらなくボクには嬉しかった。直ぐ声を掛けて挨拶した。中年の夫婦連れだった。神奈川から見えたそうで、ヴェネツィア港からイタリア行き、ヨーロッパを廻るコースで、「東京のデパートを満期したばかりですよ。奥さん孝行で、」にこやかに笑って答えて呉れた。奥さんに一寸会釈したが、おとなしそうに見えた。未だ先の話が欲しかったが、迷惑顔は直感で分かる。直ぐに側の穴蔵の様なトイレに入って滞った液体を存分に出した。

回りを囲んだ石壁の先は地中海、下はと見るとそそり立つ絶壁。要害を築くにふさわしい場所だったに違いはない、岬の入り込んだ湾の入り口。遠い昔、監視塔であり、司令塔の役目を果たしていたんだろうとボクは想像した。

楼閣に上って海を見る。只それだけの変化の無い迫り施設、入場料に見合うだけの古城、そんな感想を抱いて虚しく其処を去った。けれど、聖エルモ砦と呼ぶからには、赫赫たる武勲を残したで

あろうキリスト十字軍の面影は、現実を目にする事により一層の満足を味わった。

～ハイポジューム、地下宮殿を探すのに～

マルタで知ったガイド嬢K友子から聞き、ボクは胸踊らせた。地下宮殿、地下室に在る宮殿、想像だに素晴らしい。絶対見るぞとボクは張り切った。

某日、バスに乗り、ヴェレッタのバスターミナルから乗り換えて、パウラと言うバス停に降り立った。勿論一人旅である。ボクの住むスリーマより大分静かな街だ。人通りが少ない。バスで隣合わせだった親切なオバさんに詳しく聴いた筈だったが、如何せん始めての街、おまけにトークも満足でない。相手の言い分が完全に伝わっていないのに、納得した顔で来たからだ。街道は右や左に走っている。教えに従って、突き進んだり曲がったりするが、めぼしい建物は見えぬ。比較的正しい筈だと判断する坂道を登って行くと、下る勾配の先に、樹林の繁った良い風景が目止まった。宮殿見物前のデザート気分で其処に降りて行った。

左に曲がって一寸先でボクは踏み止まった。真正面の岡を見上げると、山を覆ったグリーンの前の中腹に、すらりと横並びに石碑の羅列が発見されたのだった。緑とホワイトの見事なまでのコントラスト、赤いキリストのとんがり屋根と共に、秋の澄み切った空に一段と映えていた。ボクが見張ったのは、石ばかり見て来た身に、グリーンとトリーズがどんなにボクの胸を癒して呉れた事か、しばし端然と佇んだ後カメラに点景を収めた。



パウラ街を外れた郊外にて石碑の列を発見

岡の下は低い谷になってい、小さな道が下っている。下った先に一軒家が見える。時代がかった

粗末な造りが気に要って、又気安く、地下宮殿への道が尋ねられるのではないかと道を辿った。タイム良く家の中から人が現れた。百姓さんらしい野良着の姿が、更にだにボクの気持ちを軟らかくさせた。尋ねると、一度家に引き込み、メモ紙を持って出て来て、道筋を描き、ゼスチャーたつぷりに方向を指示するのだった。親切を絵に描いた様なオジさんのお陰で、元来た道に戻り、地下宮殿の建物に、やっとの思いで辿り着く事が出来た。

分からない筈だった。日本の様に目立つ看板も無ければ、行き先の表示も無い。建て込んだ石ビルのど真ん中に、小さく錆びた金色のプレートが打ち付けているだけだった。

ガーデンを考え、それらしき風情の歩道の予備知識は完全に裏切られた。同じ通りを行き来したり、全然違った街路を彷徨ったり、返す返すも残念至極だった。

政府管掌の施設らしく、扉を開けて中に入ると、予約無し飛び込み客が断られ、出て来る所だった。右側がガラス張りの受付に女性が座ってる。その前の狭い入り口の壁際に長椅子が置かれ、時間待ちのお客が2人つくねんと座っていた。受付ボックスの裏側が出口となってい、見える範囲の奥から、見終わったツアーリストの団体客であろう10人程が、ガイドの小旗を先頭に出口に差し掛かった。その時受付嬢が出て来て、ボクに指示を与える。「ゴー！」の行けに於ては、どうも右手の振り様が烈しい。3ポンド払って半券も持っている。えい、ままよ、と行き掛けると、未だゼスチャーは収まらない。この時、救いの神が現れた。ガイド嬢が運良く日本人だったのである。「貴方の担いでいるリュックサックを、其処の棚のケースに入れて行けて言ってるのよ。」先頭から引き返してわざわざ説明して呉れた。そしてボクは嬉しくなって、丁寧なお礼言葉を述べたのは言う迄もない。新人のマルタ嬢が現地語でしゃべったのであろうと、無理に自分に納得させた。

11時45分、5分前、時間帯に到着した見学者と其の中に入った。中は薄暗い。説明を書いた沢山の英語の看板。試しに目を移す。ボクの学力ではてんで歯が立たない、諦めて暗い小部屋をう

ろうろする。

扉が在ってそこで待つしか無いのだ。ジャスト50分、別の受付嬢が現れて、「サンキュー」と半券を集めた。ヘヤーバンドを銘々に渡し、「フランス語、ドイツ語、イタリア語、英語と有るがどれを聴くか」と問うので、ジャパンと返すと、それは無いと答えた。仕方無いので英語にする。扉を開けて中に入ると、14、5坪の小部屋が在って椅子が並べられ、其処で映画が始まった。耳にイヤホンをしてスクリーンに目を凝らす。宮殿の生い立ちと歴史が矢継ぎ早に流れて行く。度々の使用の為かフィルムは余り明瞭でない。数10分で終わった。

いよいよ本番の窟入りである。人一人やつの通路を、先立ちの案内ボーイが、10歩も歩けば直ぐ止まり、長々と講釈を始める。薄暗い中、点々と2燭光程の灯りが、通路上の天井に間隔を開けて寂しげに瞬いている。通路上に施された網の脇や下は、変化に飛んだ穴凹やホールがあり、中を覗こうにも柵が邪魔して見る事が出来ぬ。僅かな明かりも其処を照射してはいない。板敷きの柵道をしずしずと行く。宮殿の最高権力者の居住まいか、4、5坪程の平面が見え、壁が方型に垂直に形造られ、天井も同様に平面に均されていて、苦勞して刻んだであろう鑿の後がぎっしりと刻み込まれていた。横壁に明かり取りの為か、適当な大きさに切り取られ彫り抜かれもしていた。30センチから50センチ巾の、太い石柱が所々にそそり立ち、がっしりと天井を支えているのが見えた。立ち止まってのガイドの講釈は、凡ては分からぬもの、耳を翳して聴き入っていれば、1819年に誰々が発見し、紀元前45,000年前のものでは無いかと。ボクの判断の基準は知人のガイド嬢K友子の教えが有ってそれが頭に浮かんで来るのであった。宮殿の地下の深さも30メートルから50メートル、それ以下かも知れぬと言う事だったが・・・。

何れにしろ宮殿の名に値するだけの規模も無ければ段差も無い。人の顔もやっとな暗さの中、煌々と照らせば良い物を、岩崩れや破壊防止がその理由か、それとも巣窟としての神秘性を演出する為

か。地上と違って地下の穴蔵は、圧迫感があり鬱屈感が招来し、感覚頓馬は防ぎようが無い。早い話、こんな黴臭い穴蔵からは退散したかった。時間稼ぎの長饒舌には飽き飽きした。それでも狭い暗がりの中での一時間はたっぷりとかかった事だった。



モンソピアド村(ボルネオ)

南国ならぬ病院にロングステイして

平成 14、12、15

会員 No. 24 埼玉県 酒匂景輝

悪性リンパ腫で約4ヶ月入院して、完治ではありませんが、11月30日に退院しました。その後14日間経過し、風邪も今のところ引かずルンルン気分、立ち居振る舞いが緩慢になり、これが自分かともどかしくなります。

これも仕方の無い事、もう中古車だから新車には戻りませんね。何とか騙し騙し転ばぬ様に当分気をつけて過ごします。余り無理せずリハビリに努めます。

ピンピンころり崇拜者の私は（病院はピンピンころりを全とうする為のドッグ〔身体の故障個所の修理工場と思い、適当に処理しながら〕女医さんや、病棟の若い綺麗な看護師に優しい言葉を掛けられると病院生活も満更ではない気がして、南国を忘れてしまいそうになる。…）病院生活がこの様な気になるのも自分が元気印で、これからの目標を持ち合わせているからだと思っています。（一般内科病棟の患者は50名ですが大半の方が頭を横に倒して、挨拶もやっとする感じで何とも暗い雰囲気です。）

この度4回の抗癌剤投与を行ない、経過が良いので、残りの2回は外来で抗癌剤投与を行なう事になり、この11月30日に一応退院したが、もどかしく感じるのは、階段の昇降、歩行、風呂の出入りなどで、体の衰弱がこんなにあるとは想像を超えた衰弱ぶりです。これも退院後まだ14日間だから、これからだんだん快方に向かい、暖かい南国で静養したいと考慮中です。

皆さん方が私の二の轍を踏まない様に、先達者の義務と思い本文を認めました。興味のある方は転ばぬ先の杖として御一読下されれば幸いです。（暗いイメージを抱かれる方は無視して下さい。）

心ならずも血液性癌と闘う

今年2月頃、左顎下にシコリが出来、地元の治療院で診てもらっていたが、細胞抽出検査で良

性との結果であった。そうこうする内にそのシコリの位置が移動して、設備の整った病院で精密検査した方が良いとの事で、現在の獨協医科大学越谷病院の耳鼻咽喉科で、再度細胞抽出検査を行い良性との結果であった。ところが、また別な位置にシコリが移動したので、これはおかしいとの事で摘出手術し、精密検査したところ当院では判定できず、群馬大に依頼した結果がT型悪性リンパ腫との診断であった。

不勉強な私、その時はリンパ腺くらいにしか思っていなかったのも、簡単な治療をすれば治るのだろう。その程度にしか考えていなかった。

入院してから俄かに勉強してみたら、悪性リンパ腫は「血液性癌」である事が分かった。入院で放射線治療を促された時も、抗癌剤を投与して治療すると言われた時も、「放射線や抗癌剤を使用する」と言う事は、「癌」でしょう」と、問い詰めたが、「そうではない」と、ハッキリ言われ、何となく入院してしまった。なかなか医師は癌という事を言わない。困った現象である。近年「癌」という事を言われても、それ程ショックを受けない人（一つの老人性〔痴ほう症〕程度にしか思っていない）も数多くいる。

それまでは、慶応大学病院の近藤誠先生の「患者よ、がんと闘うな」と言う説を、その通りだと頷きながら、マスコミで見たり聞いたりしていたが、実際に著書を手にしていなかった。（まさか自分が癌になどなるものかと思っていたが…もう60数年使ってきたんだ。これだけ身体を使えば何処かに故障個所が出るのは当然。）

ところで入院中の私は、3回目の抗癌剤投与（2週間に1回投与）が終わった時点で、医師に再々風邪（抗癌剤投与で白血球が極端に下がる為風邪を引きやすい。）に注意するように言わ

れていたが風邪を引いてしまった。

抗癌剤投与は癌細胞と同じく、正常細胞も無差別に攻撃する為、身体が著しく衰弱する。

(正常細胞も癌細胞〔己自身が持ち合わせているので、普通、癌細胞は冬眠状態らしい〕、何かのバランスが崩れ傷ついたりすると、癌細胞が目覚まし、正常細胞も癌細胞に反転する事があり、正常細胞との戦いが始まる。)

話は変わりますが、当院の病室は大部屋(6人部屋)の弱点で、入院した時同室にすでに肺炎患者がいて、私も熱が出た途端肺炎との診断、風邪は?…この肺炎も院内感染の気がする。私の両隣の方も同じような肺感染症菌ではなく、カビ菌による炎症だった様で、抗菌性の抗生物質で4日ほど点滴しても体温は下がらない。レントゲン写真も1日おきに撮影し、薬品の効果をチェックし、カビ菌用の抗生物質に切替えたら有効だった。現在肺炎の方は癒えたようだ。

(しかし肺炎に掛かると大変である。)カビ菌の患者が1部屋に3人もいるという事は、カビ菌肺炎も感染する肺炎だと私は思う。

11月12日に4回目の抗癌剤投与を行なった。あと2回抗癌剤投与(合計6回の投与が現在の化学療法のパターン。)する事になっている。ただ救いは悪性リンパ腫の治療には、抗癌剤での治療が現在最高だとの事。

話は変わり、当院にも個室はあるが、1日3万円という高額で、チェンマイ・ラム個室の方が少し格上の感じがする。ソファー等はベッド変りには出来ないちゃちなものである。

当院の良さは、病棟看護師の対応は素晴らしい。が、しかし我々抗癌剤を投与している病室に肺炎患者も、同室に入院されて居る点で、これでは白血球の低い患者には必ず、感染の可能性がある。埼玉医大病院(川越市)では肺炎患者が出ると、病院の責任として必ず隔離するという徹底ぶりとの情報を得ている。悪性リンパ腫の治療に入院して、肺炎に掛かり同室の方が2人も彼岸へ先立たれた。治療に来て惨い話である。体力の無い方が抗癌剤投与治療をすべきでは無いと痛感している。病院の評価は皆さん方にお任せする事にします。

◇俄か勉強をした著書類から

要点を拾い上げた事柄。

この抗癌剤の治療で効果があるのは、悪性リンパ腫(血液性癌)急性白血病、睾丸腫瘍、子宮織毛腫瘍、小児癌などには効果が認められている。その他の癌には効果はない様である。

そもそも抗癌剤治療に曙光がみえたのは、第2次大戦中の米国において、毒ガス成分に手を加えた「ナイトロジン・マスタード」を悪性リンパ腫の患者に使ったら、腫瘍が縮小した。以後沢山の抗癌剤が開発されているが、完璧な治療薬はない。

悪性リンパ腫の予防法は現在ないとの事。(今後遺伝子組み替えなどの展開が期待されているが専門家の間ではまだまだ先の話だろう。)という事は、悪性リンパ腫を患う原因も分からないという事である。

①抗癌剤治療(化学療法)で意味のある癌は全体の1割程度しかない。

②抗癌剤治療は副作用が大で、体の衰弱、投与中数日間の便秘や手足の痺れは退院後1年位掛かる人もいる。

③我々の年代が癌の宣告をうけたら、癌治療前にセカンド・オピニオン(第2の意見)を得るべきである。(癌と言うと直ぐ切りたがる医師も多いし、癌もどきも結構ある。)

*日本でのセカンド・オピニオンは国立癌センターや癌研などをお薦めする。

④我々の年代で癌を発見しても10年位は大丈夫である。但し転移していたら治療をしても余り見込みない。(治療による延命は、ホスピスでの自然死と比較して、手術、放射線、抗癌剤治療の苦しみを差し引くと、ホスピスでの自然な方が良いのではないだろうか。癌の大きさが1cm程度あると億単位の癌細胞があり、その総てを絶滅するのは、並大抵の事ではない。)

⑤我々の年代で癌の宣告をうけたら、隠さず騒いで色々な情報を収集した方が良い。

⑥抗癌剤は再発予防効果はない。と言う事は、手術後抗癌剤投与治療は意味がないし、抗癌剤治療後、再発予防用に投与しても(経口で

も) 予防効果は認められない。

⑦80歳まで寿命のある方で男性は66%、女性が33%位癌を患うが、それでジ・エンドとは限らない。総ての方が必ず癌で永眠するとは限らない。が、癌になる確率は高い。という事は人間の半数が癌になると言う事である。

(東京農大教授、元国立がんセンター疫学部長; 渡辺教授談 [NHK 早朝のラジオ放送で])

⑧生物の生存率は0%で、これだけはどうしても出来ない。これからを如何に楽しく、有意義に過ごすか。癌宣告を受けてから、治療せず富士山登山などに挑戦している方もいる。

(癌治療、特に抗癌剤で治療した人は、治癒しても正常細胞が凄く破壊されているので、半病人に近い状態である。)

⑨医療治療…(手術による合併症・後遺症や抗癌剤による副作用で苦しみ、治療のせいで亡くなった患者の家族が悲観にくれて居る現状が多い。)これは医者側に原因があるか、患者側に出来るだけの事はしてやっと言**贖罪**の自己満足か、夢や希望を持つ事が大切と、治療をすると言うことは患者の体を手術し、たんなる有毒とさえ言われる化学療法を施すことにより、少々の延命治療を施し患者や家族が後悔しないで満足出来るであろうか。

⑩現在癌での死亡率が50~70才代では1位であるが、それを追いかけているのが心疾患、脳血管疾患、肺炎になっている。癌の死亡率が1位であるが極端に多い訳でもない。80歳を過ぎると他の疾患が逆転する。

⑪現在の癌治療は殆どが試験である。(まだまだ確立されたものはなく、試行錯誤で行なわれている感が強い。これは自分が入院して実感した。)

◇俄か勉強をした著書類の紹介 (①~⑤の本は元気な内には是非一読して欲しい著書類)

①「成人病の真実」

②「がん専門医よ、真実を語れ」

③「ぼくがすすめるがん治療」

④「患者よ、がんと闘うな」、近藤 誠 著
(株) 文藝春秋 発行 (単行/文庫)

⑤「乳酸菌生産物で末期がんを消した」

河木成一 医学・理学博士監修 ライブ出版
☆娘の嫁ぎ先の姑さんが、この本と「乳酸B」という乳酸菌酵母共生培養エキスを持参され、自分は数ヶ月前、親指大の乳腫瘍(癌もどき?)を発見し、「乳酸B」を服用し現在半分位縮小した。抗癌剤の副作用にも効果があるので試してくれとの事で「乳酸菌生産物で末期がんを消した」を一読早速服用し試した。

効果は下記

◆抗癌剤投与後、便緩和剤を毎食2錠、就寝前下剤1錠服用したが、結果は3日間の便秘で座薬、浣腸等使用しても排便がない。夜中は胃がもたれ(砂袋を抱えた感じ)就寝出来ない等。ところが乳酸B服用後1日で解消し、その後乳酸B服用し快食快便で、副作用も軽いように思える。

◇この乳酸菌「乳酸B」は400度の熱、濃い酸や塩分にも強く、人間の腸内には多くの細菌類が棲息していて、その人の腸内細菌に馴染んで補助的な働きをしてくれる。

◆一般乳酸菌のビフィズス菌(ヨーグルト等)の様な生菌は、胃の中で胃酸や胆汁、熱などに弱い為、わずかな刺激で弱化したたり死滅してしまう。

◎酒匂の個人的評価:「乳酸B」は「優れ物」と評価している。(1食に2ccを服用するが、1食あたり200円掛かる。再発しなければ安い物だが、結論は数年先になる。)

◎悪性リンパ腫は、治癒しても再発予防法がないので主治医も退院後は乳酸Bの服用を奨励してくれた。

風邪に気をつけ、肺炎を患わないように気をつける事が最高の予防法との事である。

*と言う事は我々が目指している南国での生活が一番理に適っているのではないかと、会の資料やチェンマイ・ラムの病院案内などを見て貰い、この程度の内容の整った病院があるのであれば、検査した資料などを提供して継続治療が出来るのではないかと、安堵して貰えた。ちゃんとした病院がある所でなけれ

ば医師としてOKは出せない。

⑥臨床雑誌 内科「特集」『悪性リンパ腫』

南江堂 発行

この臨床医学雑誌のデータを見て『悪性リンパ腫』(色々な要因の悪性リンパ腫がある。)の抗癌剤治療後、再発による生存率は2～3年で40%程度、8年で80%程度の方が天寿を全うしている。

◎悪性リンパ腫でも、抗癌剤治療で完治して2割程度の方は存命であるらしい。(そのグループに入る事を期待して皆さん治療に挑戦している。)

◇癌は殆ど遺伝性ではない。

普通の発癌にはむしろ生活習慣や生活環境が強い影響を及ぼしている。(癌の本質は老化現象で、医学がいくら進歩してもどうにもならない事があるからではないか、という視点をもつ必要がある。気楽に付き合うとそう神経質にならずとも良い。痛みが出たらホスピスで、痛み止め[モルヒネ等]を出してくれるような制度が確立されてきつつあり、ホスピスだけでなく、在宅ホスピスの試みも多くなった。)

但し『悪性リンパ腫』は、生活習慣や生活環境が影響を及ぼしているとは、現在解明されていない。この場合は出来るだけのことをして、再発したら出たところ勝負と割り切るより仕方無いだろう。再発して抗癌剤治療で近年治癒する人もいる。

◇カリウム物語

隣のベッドで、中堅の女医(40歳位)と患者が言い争っている。話の内容は医師が処方した薬(カリウム)を患者が服用しないので、血液検査の結果が良くならない。

その医師や、看護婦は薬(カリウム)の服用法を普通の薬の飲み方で指導している為、カリウムの粉末を呑み、水を飲むと激しく反応し、時には発火する。(このカリウムは火薬などの原料である)その為にその患者は、食事など出来ずにカリウムを服用せず薬袋が積んである。それを平気で、何故服用しないのか研究もせず、

ただ服用しないと良くなると薦めるのみの医師である。チョット自分が口出ししたら、女医がガミガミ言うものだから、これは駄目だと一応引き下がった。

医師が退席してから…カリウムは塩や水にも含まれている元素で、普通は全然怖くない元素である。ただカリウム元素になると、火薬の原料になるくらい怖い。服用の仕方が間違いなので、僕のやり方で服用して貰う。コップに7分目程度水を入れ、それにカリウムを溶かし込み直ぐに飲むと普通の水の様に飲める筈。時間を置くと金属元素だから直ぐ沈殿すると説明し実行してもらう。(化学実験で火薬の原料に水を注ぎフラスコを破損した経験を思い出させた。)毎食実行し問題なく食事出来るようになった。

3日後の血液検査ではバッチリ合格し、女医さんは、ちゃんと飲めば良くなるんだと誇らしげであった。

後日薬剤師を呼び、カリウムの服用を質すと、普通の薬の服用で良いとの回答。では自分で飲んで見てくれと言うと、翌日薬剤師が製薬会社に問い合わせたら、その様な事があるとの事で今後は注意書を出すとの事。

近頃は、若くて綺麗な看護婦さん方に看護されながら、俄か勉強やPCを打ったりして、病院での生活を楽しみながら治療するのも、悪くなかったなーと感じている今日この頃である。

【参考までに】

1、酒匂の友人、M氏夫妻の体験談も参考にして欲しい。(M氏夫妻は、近藤誠先生以上に癌専門医と個人的に壮絶な闘いをして、現在の健康を勝ち得ている。是非彼の闘い方を皆さん方にも参考にして戴くため、掲載許可を貰いました。)今回は個人名、病院名、医師名など迷惑のかからない様にイニシャルで表現します。これは実際にM氏夫妻の体験された事柄で、M氏に問い合わせたい方がいましたら、酒匂宛にご連絡下さい。内容によってはM氏の電話や住所を紹介致します。但し批判的な事柄ではなく、前向きな方で自分もやってみたい方に限ります。

2、戦後の日本では絶滅に近い回虫、真田虫がアレルギー体質の改善策として見直されている。癌細胞も絶滅する闘いはせず、大腸菌の如く共生してゆける時代が来るのではないかと酒匂の戯けた夢である。

3、近年癌などに負けるものかと精神力（信心したり、健康食品等）で治癒されたと言う方の記事を拝見する機会も多くなった。また大いに笑い楽しみナチュラルキラー細胞を有効に利用出来ないだろうか。

では皆さんお元気で。 酒匂の項 以上

M氏夫妻の闘病記

平成14年12月9日

20年程前羽田沖で日航機墜落事故が発生した。その原因が体調不十分が原因であろうとの事で、社内健康診断が厳しくなった。

専門医と治療薬の

副作用と闘う 《本人編》

丁度その頃、自分は当時49歳で、胃にポリープがあり、(当時はポリープという癌ではないかと思われた時代だった。)それに胃もたれの症状があった。

そのためK大学病院(甥が医師として勤務)に通院にて治療を行なう。投薬はH₂ブロッカー(脳下垂体コントロール剤と胃液の出ない薬)を服用し治療を始める。

その薬の副作用か、他のホルモンに影響し女性のように丸みが出たり、甲状腺に異常をきたし、インポテンツにまでなった。

その頃、甲状腺では日本の権威者として、TW医大にS医師が居ると言う事で、S医師を紹介して貰い、主治医になってもらい治療を始める。

【甲状腺は人間の活性化ホルモンの

コントロールをする器官である。】

その内、脈拍が120回/分と上がり、興奮状態が続き睡眠出来なくなる。もともと58kgあった体重が45kgまで落ちて来た。(骨皮筋右衛

門の状態)

TW医大のS医師は「パセドー氏病」との診断を下す。通院で治療を続ける事にした。

【パセドー氏病とはドイツのパセドー氏が発見した病で、甲状腺から過剰なホルモンが分泌されて起こる病気、眼球突出、動悸、息切れなどを起こす難病である。】

治療薬として「チウラジール」と言う薬を服用する事になる。ところが一週間位するとジンマシンが出、肝臓疾患の副作用が出る。肝臓の健常者の正常諸数値はGOT、GPT、γGTPの数値がいずれも35以下である。自分の数値は200以上に上がる。

TW医大としては即入院を勧め、本格的な治療を始めるとの事、自分は即入院は断る。

◆自分としては薬の影響で発生した病気だから、薬を止めれば絶対直せると理屈を立てた。

主治医は、この病気は個人的な民間療法では絶対治癒しないと断言して、引き止めに掛かれたが、逃げ帰る状態で帰宅する。

*自分流の民間療法を

どの様にするか立案する。

- 1、関係専門書を集める。(まず手始めに「パセドー氏病」関係本を集め研究を始める。) この専門書の解説が難解で一行理解するのに数時間要する事もあった。妻の協力がなければ途中で挫折しただろう。(専門書の量は風呂敷一杯になる。)
- 2、「パセドー氏病」関係の一応の知識を持ったので、下記の製薬会社に問い合わせ、協力を得た。
- 3、製薬会社はK製薬(H₂ブロッカー・タガメットを作っている。)を選定し、学術部に電話し、こちらはその筋の専門家らしい話し方をした。

上記の様な薬品を服用した結果、甲状腺の疾患「パセドー氏病」を併発した。その原因は薬の服用に原因があると思う。即答はなく調査期間をくれとの事で、電話を置く。

- 4、一週間ほどして電話での返事が入る。日本の文献にはその様な記事は見当たらないが、

外国文献にその様な例の報告がある事が掲載されている。M先生の資料提出を依頼された。が、諸般の事情があるので提出は断る。するとM氏宅を訪問しデータが欲しいとの事、断りの口実に外国出張が控えているので、今回は駄目と断る。

*薬の副作用でこの疾患が発生したと自信をつけ、自分の力で自然療法を立案する。

- 1、薬は総て服用しない。
- 2、食事をメインにするので栄養を加味した食事療法に切り換える。
- 3、その結果を把握する為、K大学病院に検査（血液等）を依頼し、診察を受ける。
- 4、生活記録書を作成する。（食事、脈拍、体重、体温、健康状態、散歩、指圧、ストレス原因など）几帳面に記録しておく。
- 5、生活記録書にデータが増え、健康状態が把握出来る様になった。

☆散歩、指圧は凄く効果がある。（指圧については妻が研究シツボを会得し、効果てきめんで、筋肉に張りが出て体重も増えだした。）

★ストレスは最悪だった。

- 6、またK大学病院での検査結果と生活記録書がマッチする様になってきた。体調が漸次良好となってきた。当初半信半疑だった甥もこの結果を見て、凄く協力的になり今後はどの様な検査を行うか、Mのペースにはまり、自分の意見を第一にしてくれる様になってくれた。その間、勤務の方は2年半自宅待機と言う事で、時々状況説明に会社担当医の所に大量の資料を持参し説明を行なった。

給与は、基本給が補償されていたので助かった。1年程して脈拍も100程度に下がり、業務復帰を希望したが、その筋の専門医の診断書を提出してくれれば良いだろうという事になる。K大学病院に依頼したが、この病気は完解かんかいという診断書は書けない。が、寛治（良い状態にある）と言う診断書になる。

会社担当医も大変親切な医師で、あと3ヶ月待つてその時点の状況をチェックして会社側の判断を仰ごうと言う事になる。3ヶ月後

の結果は大分良くなって来たので、業務復帰を申請したが、会社側は駄目との結論を出した。

それまで業務復帰のみに「わだかまり」があったので、会社の結論で呪縛が解けた感じになり、凄く自由な気分を取り戻せた。（ストレス解消という事か）それから体調がメキメキ良くなって来た。

その結果、健常者と同じような体調になり、専門医の診断書無しでも業務復帰を会社側からもう良いでしょうと言う事になり、現役復帰する事になった。

人間も動物、余り薬などに頼らず、原点に戻り生活する事も良い事だと痛感した。勿論インボも回復し、現在に至っている。

化学（科学）の進歩で、何でも有りの時代になってきたが、それだけ化学の進歩は我々には怖い存在になって来た。この先も思いやられる。

2年半の闘病生活は今でも語り尽くせない。自分の頭には克明に刻まれていて、貴重な体験であった。これも妻の協力無しでは成し得なかったと思う。本当に感謝している。

本人の項概要 以上

オイオイちょっと待つて、発端の胃のポリープの件が抜けているよ。（後日電話で問合せ）この件は話せば長くなるので割愛したが、簡単に纏めると、胃は潰瘍になり、12指腸潰瘍まで併発した。

それまで服用していたH₂ブロッカーを止め、これも結局薬は服用せず、食事療法で直す事にした。ところが潰瘍部分は食後2～3時間すると、粘膜がとれ胃液の為痛みを発する厄介もので、痛みを和らげる飲食物を自分流で練りだし、潰瘍部をマスキングし何とか治癒し現在がある。でも自分の抵抗力で治癒したものは凄く、その後少々の事ではびくともしない健康状態を維持している。

『やろうと思えば人間
何でも出来るものだ。』

今から11年程前に妻(42歳)が甲状腺癌を宣告され、癌治療をせずにどの様にして乗り切ったかを参考に供したい。

当初甲状腺に異常を感じ、橋本病(反「パセドー氏病」で身体が太り、ダルクなる。)の症状である。ホルモンの分泌が減少する症状で、K大学病院に1ヶ月位検査入院となった。

診断結果は甲状腺癌との診断が下り手術を薦められた。ところが妻はその様な治療は絶対嫌だと拒み、退院。

懇意な方から、国立癌センター(築地)のTS医師を紹介して貰い検査、診察を依頼する。TS医師はこの症状は癌では無いと診断される。(癌では無いと診断されるとは、矢張り名医が居るのだと痛感した。)結果が癌で無いので、TS医師の懇意なTW医大の中堅医師のN医師を紹介される。皮肉にもTW医大を指定されるとはと懸念したが、自分の担当医師だったS医師とはセクションが異なり助かった。

TW医大でも検査から始まる。検査結果は癌では無いとの診断が下り治療が始まる。検査加療入院期間は3ヶ月を要した。が、無事現役復帰する事が出来現在に至る。

癌のみでなく難病を宣告されたら、セカンド・オピニオン(第二の意見)は必ず行なうべきであると痛感している。諸兄にも是非セカンド・オピニオンは薦める。

しかし医師とのやりとりは、自分の場合も妻の場合も共に壮絶であった。この治療でないと、この病気は直せないと言われると【死の宣告をされた様な気になる。】患者の一番の弱点を突いてくるので、強靱な精神力が必要である。

参考までに、癌センター、癌研などは申し込んで初診をして貰うまでに、3ヶ月程度掛かる(緊急の場合は即)が、我々の年代ではその程度で病状はそれ程進行しない。安心してその程度は待ち、挑戦すべきである。しかし強いコネがあり、紹介して貰うと初診の期日は短縮出来る。

この記事は平成14年11月15日に酒匂の入

院先を訪ね、酒匂に懇願され、語り継ぐ。諸兄の参考になれば幸いである。

取材者：酒匂 景輝 記

あとがき

かねて酒の席などでM氏から、漏れ聞いていたのだが、頭の隅に引っ掛かっていたので自分が闘病生活を積んで行くと、M氏夫妻の闘病談義が凄く聞きたくなり、わざわざ来て貰い、貴重な取材をさせてもらった。

M氏夫妻の様な強靱な精神力は自分には持ち合わせていないが、せめてセカンド・オピニオン(第二の意見)は是非必要であると痛感している。

・慶応大学医学部の近藤医師も、セカンド・オピニオンは是非必要であると主張されている。

◇上手なセカンド・オピニオンの得方

セカンド・オピニオンを得るうえで、肝心なところはこれまでうけたレントゲン検査、内視鏡検査の写真、あるいは病理診断書のコピーなど大切なデータなど借り出して行く。

それがないと検査を繰り返す事になり、さすがに時間が掛かり過ぎる。但し医師の手書きしたカルテの部分は主観的なので、余り役に立たない。大事なのは検査によって得られたデータである。

万一申し出ても貸してくれない場合は、その医師から「離れろ」、との合図である。そしてセカンド・オピニオンを聞きに行った医師から依頼状を書いてもらえば、最初の医師は必ずデータを出してくれる。

名医について、癌センターのTS医師を名医とM氏は表現している。自分も膵臓を患った時、春日部の病院に急性膵炎で2回入院し、2回目は死も覚悟していた。何とか痛みが癒え、たまたま会社の顧問医が順天堂浦安病院の副院長だったので、膵臓関係の名医I教授が順天堂御茶の水病院に居るとの事で紹介して貰う。その際酒匂の病歴を記録して行く事を薦められた。

病歴書を読みながら質問がどんどんあり、30分程して酒匂の場合は、原因は膵臓ではなく胆石だろうと診断される。数日後エコーでの検査1回で、I教授の診断通り胆石が原因と判明した。(春日部の病院では数回エコーでの検査をしたが確認出来なかった。)胆石が軽石状で胆嚢内でフワフワ浮いている。この状態では何時また急性膵炎に…(石が12指腸の弁の部分で閉塞し、膵液[PH:3前後]を逆流させ内臓を溶かし激痛を起こす。)直ぐ胆嚢を摘出手術した方が良いとの事、指示通り実行した結果、それ以後は順調である。

近藤医師の名医についての見解、癌の場合、誰に見て貰うか、腕の良い適切な治療をする医師を選ぶのに悩むところである。癌手術医の名医といわれる医師は大きく切除して、とんでもない下手な医師が名医と言われている例も多々ある。

という訳で多くの情報から

『自己責任で己の信じる名医、治療を選択』

するより仕方がない。

M氏夫妻の当時の苦悩は如何ばかりであったろう。察するにあまりある。が、今では二人の微笑ましい夫婦愛を称えたい。M氏夫妻の御協力に感謝している。

この闘病記は、かの有名な千葉敦子氏の『ニューヨークでがんと生きる』(文春文庫)を凌ぐ記録であると私は信じている。(彼女は癌と闘って敗者に、M氏夫妻は癌を宣告され、専門医と現代化学と闘って勝者に、このギャップは本当に大きい。)

将来M氏夫妻共著で生活記録やデーターを記載され、ライフワークとしての出版を期待している。

・現代医学発展・社会貢献の為と思い頑張っ
て欲しい。

酒匂 記

酒匂さんの原稿編集をしながら 思い出したとんでもない話

No. 140 会報担当 小沢公子

昨年秋から83歳になる主人の母の介護が始まり、この一年間で様々な体験をしたが、最も忘れられないのは、ある病院でとんでもない誤診を受けた事だった。

去年の暮れ、極度に体力が落ちていた義母が突然高熱を出し、腹痛を訴えた。急いで近所の某大学病院分院に行き、内科医の診察を受けると、その医師は触診もせず、「おばあちゃん、どこが痛いのか〜」…と幼児に語り掛けるようにのりくらり質問を続ける。その間も義母は「痛いから何とかして…」と、か細い声で訴えた。レントゲンを取ったが結局、腹痛の原因が分からず、医師の言葉は「原因が分からないので、何も出来ません。注射も打てないし、薬も出せません。どうしますか〜?今日はこのまま帰りますか〜?」と言う。あきれ返った私達はとにかく痛がっているし、熱もあり体力が消耗しているので、点滴だけでも打って欲しい…と頼み、その日はもうなす術が無かった。

翌日一応レントゲンの詳しい結果を聞きに訪れて驚いた!「腸に穴が開き、中の内容物が出ているかもしれない」、そのうえレントゲンの腸の一部を差しながら「これはもしかしたら癌かもしれない」、と言う。

しかもこれは直ぐ緊急手術が必要なので外科に行くように薦められる。でもその時の義母の様子は、既に腹痛も治まり、朝のせいもあつたが幾分熱も下がっていた。

レントゲンの写真も腸の中を洗浄し、空にして取ったものではないのだから、それで直ぐ癌が判定出来るとは到底思えない。また腸の内容物が出ているのなら、腹膜炎等で七転八倒している筈だ。ましてやただでさえ介護状態の老人が手術だなんて、そのまま寝たきりもいいところだ。即、連れ帰ると言った。するとますます驚いた!医師は「私は手術を薦めましたよ。あなた方が連れて帰ると言ったんですからね。何かあっても知りませんよ」と何度も繰返し、まるで脅す様に言った。

これは特別最悪のケースかもしれないが、この医師に何人の患者がかかっているのだろうと考えただけで空恐ろしくなった。

結局義母の腹痛は風邪のウイルスによるもので、その後義母のお腹の方は何事も無く、リハビリの効果もあつて、今は介護と呼ぶにはもう相応しく無い状態にまで回復している。

酒匂さん曰く「自己責任で己の信じる治療を選択」…を痛感した経験である。

マレーシアでのコンサート情報

島根県在住 会員 No.263 加藤進

私は伝統音楽の継承と日本民謡の発展を目的として結成され、日本の各地及び海外においても公演活動をしている『民謡 しげさ会』に所属し津軽三味線を趣味で弾いている加藤進と申します。

マレーシアにおいて『第2の故郷ビザ』を取得しペナンに住まいを得ています。

日本とペナンを往来、マレーシアおよびアジアの人たちとのふれあいを自己再生の原点と感じ楽しみとしています。

このたび、日本とマレーシアの文化交流と相互理解に貢献する事を目的としましてクアラルンプール&ペナンにて『日本民謡&津軽三味線コンサート』を開催することとなりました。津軽民謡を主に津軽三味線の醍醐味を聞いて頂こうと思います。

津軽三味線を通して、日本の文化を理解いただきマレーシアおよびアジアの人たちに津軽三味線の旋律と民謡・踊り等を楽しんで頂けたらと思っております。

マレーシア政府・ペナン州政府・日本大使館・在ペナン日本国総領事館様各位のご理解と暖かいご支援を頂きコンサートの開催となりました。南国暮らしの会会員の皆様 マレーシアの旅とコンサートは如何ですか、お待ち申し上げます。

- 主催 - 民謡 しげさ会
- 共催 - マレーシア政府
ペナン州政府
日本大使館
在ペナン日本国総領事館

■ コンサートの日程・会場

- ペナン公演 -

[日程] 2003年2月11日 公演時間
20:30 ~ 22:00

[会場] DEWAN SRI PINANG デュワン スリー ピナン 収容人員・1180名

[住所] Lebu Light 10200 Pulan Pinang

- クアラルンプール公演 -

[日程] 2003年2月13日 公演時間
20:30 ~ 22:00

[会場] ADUTORIUM DEWAN BANDARAYA KUALALUMPUR
オーディトリウム デュワン バンダラヤ クアラルンプール
収容人員・600名

[住所] Jalan Raja Laut Kuala Lumpur

■ プログラム

津軽甚句 花笠音頭 道南口説き 慌城の月
津軽三味線曲弾き 隠岐舟方節 隠岐磯節

隠岐追分 本庄追分

津軽よされ節 しげさ節 津軽小原節 外山節 津軽アイヤ節

津軽タント節 隠岐相撲取り節 南部俊積み唄 隠岐おはら節

津軽じょんから節 隠岐祝音頭 キンニャモニヤ 全21曲

※入場無料 ~ ボランティアのコンサートです

※予約不要 ~ 当日現地におこしください

■ お問い合わせ先

加藤進

島根県松江市浜乃木6-10-12

Tel 0852-27-1171

Fax 0852-27-1172

E mail 松江 sr-kato@nyc.odn.ne.jp

■ ホームページのご案内

<http://www1.odn.ne.jp/~aan16830/>



南の会・伝言・掲示板

§表紙のことば

会員 No. 38 橋本比奈子

私たち夫婦は今年の夏休みもフィリピンのダバオに3週間滞在し、浜辺や突堤などで時間を過ごしました。対岸のサマル島のビーチへは簡単な屋根のついた10~20人乗りくらいのカラフルな船が往来しています。近くにドックや港があるので時々大きな船も通ります。今回は浜辺からそんな船の場面を選びました。

§図書案内

1. 「海外自由旅行にチャレンジ」

学習研究社 1500円にて発売中です

表紙には会員の写真が、中には会員の3名が紹介されています。支部・部会伝達板の広報担当記事(71ページ)に詳細が記載されています。是非ご覧ください。

2. 「職在亜細亜 職はアジアにあり! 一・中高年よ大志を抱け!

発売日 2002年12月16日 定価: 1400円 出版社: 実業之日本社

当会会員 No. 23 戸田智弘さんの著になるものです。仕事のない日本を飛び出し、アジアに新しい職を求めた中高年17人のルポです。年齢層は35歳から70歳まで。もちろん、これからアジアで働きたいと考えている人のための実用情報も盛りだくさんです。

3. 「ミャンマー東西南北辺境の旅」

著者: 伊藤京子 出版社: 柊めこん 価格: 1500円 2002年11月発刊

2児の母ながらフリーライターとして玄人の旅を模索したもの。写真がとても多く、楽しめる。

4. 「雲南最深部への旅」

著者: 鎌澤久也 出版社: 柊めこん 価格: 1500円 2002年12月発刊

成都から始まって昆明、大理、麗江など、日本人のバックパッカーの多い雲南省を写真中心にまとめたもの。

5. 「1週間からはじめるバンコクロングステイ」

ぷれすアルファ編 出版社: 柊ぷれすアルファ 価格: 1500円 2002年12月発刊

バンコクを中心として、チェンマイに至る情報満載。サービスアパートメントも多く紹介されている。

6. 「海外旅行必携 急病パスポート」

著者: 武井こうじ 出版社: 交通新聞社 価格: 各476円 2002年8月~10月発刊

病気になった場合の症状を外国語と対訳で記述。英語、中国語、韓国語 それぞれあり。面白いのは外国語は対面者から見れるように逆さまに記述されている。

支部・部会伝達板

● 関東支部 事務局：宮崎哲郎/菊地 功

①サロン「南の会」についてお知らせ。

会報「秋季号」以降のサロン開催は次の通りです。

平成 14 年 10 月 12 日（大崎）31 名参加

平成 14 年 11 月 9 日（プリンスホテル）35 名参加

平成 14 年 12 月 14 日（プリンスホテル）38 名参加

平成 15 年 1 月は第 3 回情報交換会が行われますのでお休みとします。

最近のサロン会はお陰様で上記の通り常時 30 名を超えるようになりました事ご同慶の至りです。この人数では残念ながらプリンスホテルは物理的に手狭でゆっくりとしたサロンの雰囲気は望めそうも無くなって参りました。

従って平成 15 年 2 月からは出来るだけサロン会場を大崎ゲートシティに移し開催いたしたく思いますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

再度開催場所、時間につき下記の通りご案内いたします。

場所： 東京都大崎労政事務所南部労政会館会議室

住所： 東京都品川区大崎 1 丁目 11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー 2 階
（JR 大崎駅南口徒歩 3 分、山の手線、埼京線利用が便利、右上の地図参照）

電話： 03-3495-6110

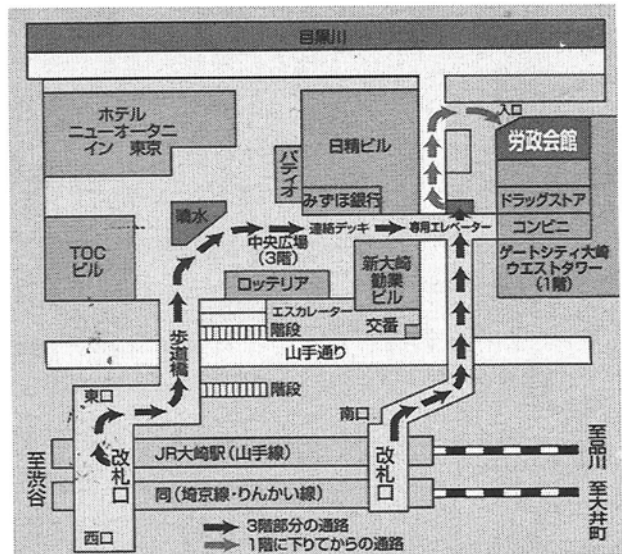
緊急連絡：090-2907-8340（宮崎）、
090-8817-7154（菊地）

原則大崎にて開催としますが会場の都合でプリンスホテルになる場合も有りますので、毎月事前に「南国メーリングリスト」にて皆様にお知らせ致します。パソコンお持ちでない方でご出席予定の方は事務局まで電話でお問い合わせください。

電話：03-3472-9954（宮崎）

047-463-5183（菊地）まで。

開催場所お間違いの無きようお願いいたします。



大崎ゲートタワー

②第 4 回情報交換会開催の件

下記予定をご案内致します。

日時：平成 15 年 4 月 19 日（土）

情報交換会 13 時～17 時

懇親会 17 時 30 分～20 時頃

場所：東京都大崎労政事務所会議室
（上の地図参照）

参加申し込みは別添の申請用紙を FAX, もしくはメールにて事務局まで。講師・演題に就いては未定ですが参加申し込みされた方には追ってお知らせ致します。

● 東海支部

支部長：横井保夫

平成 14 年度における主な活動状況

6 月 9 日 第 1 回定例会 JR 名古屋駅マリオットホテルラウンジにて、今後の活動方針などに付いて話し合い。

7 月 20 日 第 2 回定例会 大名古屋ビル地階の居酒屋にて東海支部正式に立ち上げ、支部長横井保夫連絡・会計山本信を選出、ロングステイ先はどこが適当かなどの話し合い。

10 月 15 日 第 3 回定例会 JR マリオットホテル会議室にてロングステイ経験者よりの情報提供。

10月13日 南の会マレーシア支部石原彰太郎夫妻を囲む会。 JR マリオットホテルドイツ料理レストランにて。 来年〔平成15年〕6・7月頃に東海支部としてマレーシアロングステイ体験旅行を東海支部として行うことで賛同を得た。

10月22日 中日新聞主催のタイロングステイセミナーが名古屋芸術創造センターにて開催された。セミナーの様子は11月8日中日新聞夕刊にて1頁全面広告にて掲載された。南の会よりは高橋昭氏がチェンマイに於けるロングステイの体験談を解り易くかつ具体的に講演をされた。また横井より基礎的なタイ語を現地で勉強することは現地の人々にとっては裏を返せば日本語の勉強になり現地の人々との交流を深める事でロングステイをより楽しいものにする事を講演し、あわせて南の会の広報宣伝に努めた。講演後 入り口にて質問コーナーを設け多数のひとから相談を受けた。

11月17日 朝日新聞主催 マレーシアロングステイセミナーが朝日新聞社にて開催された。セミナーの様子は11月27日朝日新聞1頁全面広告にて掲載された。

南の会よりペナン支部石原彰太郎氏が講演され、ペナンがロングステイの多くの条件を満たす所、すなわち、気候は年中夏でありながら名古屋の夏より涼しく台風地震などの心配もないこと、物価も日本の4分1程度なる事、食生活も日本人味覚に良く合う事などを、さらに健康面でもペナンはリュウマチや喘息に効果があることなどを説明された。

以上の2つのセミナー以降東海支部入会希望者が急激に増加した事で今後の東海支部の飛躍的な発展を期待されるのではあるが、問題は愛知・岐阜・三重・浜松以西の静岡の4つの県にまたがる事もあって 定例会に集まれる場所が困難なることです。

どなたか良いお考えがあったら教えていただき

たく存じます。

次回の定例会は平成15年1月12日〔日〕15時名古屋マリオットホテル集合後、名古屋地下鉄伏見駅近くにあるローレンホテルにて行う予定です。

●チェンマイ支部より

支部長:鈴木宣夫

12月14日(土)午後6時よりチェンマイ支部のサロン会と忘年会を兼ねて実施されました。空港に近い大変美しい湖畔のレストラン「Aero Thai Club & Restrant」で総勢19名の出席を得て、盛大に開催できました。

出席者は次の方々です。(順不同)

チェンマイ支部から;

鈴木支部長夫妻、水谷夫妻、森園さん、加藤さん、船田さん、宮さん、宮沢夫妻

会員申請中の方;

伊沢さん、八巻夫妻、石井さん

日本からの調査旅行中の会員;

小野さん、黒木さん

特別参加者3名 総計19名

湖面を渡る涼しい風に吹かれ、美味しいタイ料理に舌づつみを打ちながら懇親を深め、また情報交換を行いました。LS中の会員の皆さんはゴルフ、旅行等を楽しんでおられるようです。大いに飲み、食べ2時間半はアット言う間でした。ちなみに会費は一人240b(720円)でした。

それでは、皆様良いお年をお迎えください。

●広報担当より

担当理事:高澤弘晃

1. 「海外自由旅行にチャレンジ」 学習研究社 1500円にて発売中です。

海外旅行にはあちこち行っていたが、全てパック旅行、これからロングステイ等を考えている方に初歩から案内している自由旅行ノウハウテキストです、又「南国暮らしの会」と全面的に協力頂き2ページに渡って紹介頂いております、さらに会員3名が自由旅行(15ページ程)ロン

グステイの経験談を掲載し、表紙には酒匂夫妻、宮沢夫妻がコタキナバルの海の写真が掲載されております、是非、会の紹介本として興味あるようでしたら購入下さい、売上の収益金は会の広報費として利用しますのご協力下さい。

※申し込み 郵便振替 00170-7-24682 南の会
本代 1800 円 (送料代含む)

会員番号、氏名記入し次の E-メールで申し込み、fwjc5962@nifty.com
又は 電話 090-3549-1957 (高沢) にて申し込み願います。入金確認次第、会員登録住所に送付致します。 担当 101 高沢

2. メーリングリスト登録

平成 14 年 12 月 23 日現在 登録者は既に 160 名程登録頂き、活発に情報交換に利用頂いております、メールアドレスがありまだ、未登録の方は連絡下さい。

アドレス FWJC5962@NIFTY.COM (すべて小文字で) 高沢に願います。

●会員担当より

担当理事:酒匂景輝/鈴木 剛

最近の入会会員状況について

こここのところ「リタイア後の海外暮らし」が多くのマスコミで取上げられています。

9 月には「月間現代」、11 月 3 日に日経新聞の特集記事、12 月 3 日にテレビ朝日の特別番組、12 月 10 日「海外自由旅行にチャレンジ」(学習研究社)の発刊などです。

それぞれで南国暮らしの会と会員の皆さんが紹介されています。その他にも海外ロングステイのセミナーが全国各地で開催されました。

今年の 4 月から 9 月までの新規入会会員は 54 名でしたが 10 月から 12 月 15 日までの 2 ヶ月半で 30 名の方が入会されています。特に 11 月は中日新聞主催のセミナー関係で 9 名、日経新聞の記事で 4 名の方が入会し 1 ヶ月で 18 名の方が入会されました。

特に中日新聞の主催セミナーは会員の高橋さん(会員番号 94)が講演されました。

入会された会員が 13 名というのは特筆すべき

事で横井東海支部長(会員番号 487)・事務局の山本会員共ども(会員番号 445)張り切っているところです。

会員を増やす事が目的ではないのですが、同じ目的を持った方々が入会するのは嬉しいものです。

12 月 15 日現在の会員数は 371 名です。

●事務局総務担当より

担当理事:宮崎哲郎/菊地 功

1. 秋季号発行以降の主な動きは以下の通りです。

*10 月三好監事の後任、梶野幸三氏を監事代行として都に提出、受理された。次回総会で承認後、監事に就任される予定。

*10 月末当会の入会案内書、全面改訂し千部発行。

*11 月 4 日第三回理事会開催。

*11 月市東明義、平尾守満両氏を新理事として登記及び都に提出、受理された。これで理事は定員一杯の 15 名となり、より活発な活動が期待されます。

*12 月当会の一般用紹介パンフレット全面改訂、約千枚印刷。

<改訂入会案内書と一般用紹介パンフレットはいずれも会員担当の鈴木理事宅に保管してあります。>

2. ミニ情報交換会は以下の 3 回開催されいずれも活発な意見交換が行われました。

*10 月 12 日:ペナン在住石原彰太郎氏を囲む会、大崎フェスタガーデンにて、21 名参加。

*10 月 26 日:ダバオ在住平野雅一氏を囲む会、新宿ビストロ・かつぺ亭にて、31 名参加。

*11 月 04 日:マニラ在住斉木 一氏を囲む会、大崎フェスタガーデンにて、11 名参加。

●調査担当より

担当理事:市東明義

会報の 3 ページ目にアンケートのお願いを書きました。ご協力をお願い致します。

アンケート用紙は別添されています。封筒も別添されていますので、よろしければそれをお使

ください。 これを集計し、今後会の方針を決めてゆく上での参考にさせて頂きたいと思ひます。

● 会報担当より

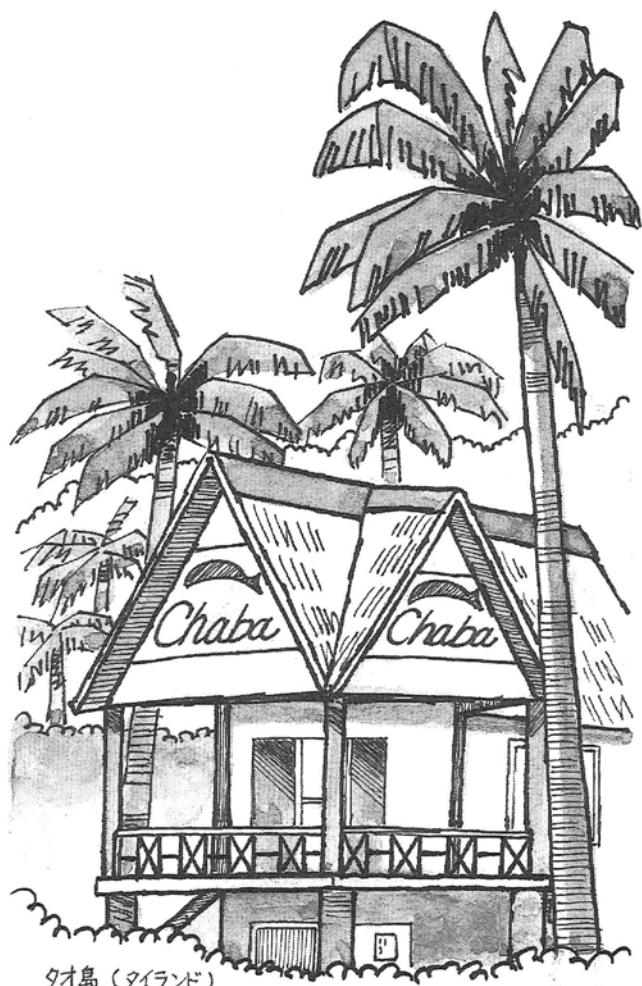
担当理事:小川護雄/小沢公子/大野隆司

新年号も70ページを越える充実した会報となりました。 皆様の積極的な投稿活動がこれを支えております。 今後とも有益な情報の共有化を推進していきましょう。

①九州の稲延さんの「マルタ島シリーズ」も丁度一年が過ぎ、最終回となりました。 稲延さん本当に有難うございました。

②私たちは南国で楽しく充実した暮らしを求める同志です。 その中で自己満足かもしれない…などと揺れながらボランティアに取り組んでいる仲間がおります。 今回はそんな3グループをご紹介します。 一つの生き方として見守り、自分自身の参考にしたいと思ひます。

③会報は多くの方に支えられて成り立っております。 会員No. 491の岡さんには手書き原稿のタイプを手伝って頂き、No. 490の斎藤さんには挿絵を描いて頂きました。 また秋季号の発送日には休日であるにもかかわらず、17名の方が作業をしてくださいました。 有難うございました。



「南国暮らしの会」からのお勧め

自己責任 * 納得の上 * 自己決定

南国で買い物をするときには、すぐ買わず、
情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、
しばらく試してみて納得してから
自分の責任において自己決定する

会員担当より

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中はいろいろお世話になりました。今年も宜しくお願いいたします。

平成15年度会員継続申し込みについて

年度替りの継続会員の募集時期になりました。別添の振替用紙にてお振込みください。南の会の15年度は4月1日からです。本会は年度会費制で、途中入会者に対して月割り計算は致しません。よって14年度途中入会者も会員として継続される場合は15年度会費を拠出してください。

会費納入期日：平成15年2月末日まで

お願い：郵便振替用紙の通信欄に必ず会員 No.をご記入ください。

発行者 特定非営利活動法人(NPO法人)
「南国暮らしの会」

理事長 池田 徳三郎
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-15-2-809
TEL/FAX 03-3947-8977

記事の無断転載、複製を禁じます